

56 豪雪の記録

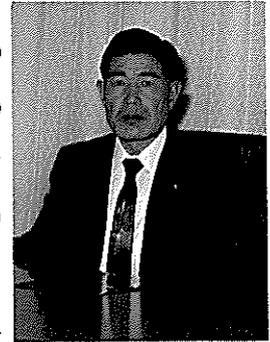
白卷との闘い

昭和57年3月

余 呉 町

はじめに

自然は、私たちの日常生活に大きな恵みと四季折々に、さまざまな潤いを与えてくれるが、反面いったん荒れ狂うと凄まじい脅威となって人間生活をおびやかし、思わぬ災害をもたらすものである。殊に当地方の冬は北陸型の気象状況を呈し年々雪との闘いを繰返しながら、その中で培われた雪国特有のねばり強い根性によって、ふるさとを守りお互いが力を合せ助け合って生活を支えてきた。しかし、今冬の豪雪は未曾有の豪雪となり100日に及ぶ白魔との闘いであった。



年末から降り続いた雪は、年が明けるとその勢を増し、役場所在地の中之郷で、最深積雪260cm、鷺見、中河内の山間部では600cmを越える大雪となり、昭和11年、そして昭和38年の豪雪をはるかに上回る豪雪となった。

こうした状況下で、本町は1月11日、異例の豪雪に対処するため「余呉町豪雪対策本部」を設置し、幹線道路の確保と公共施設の維持管理を最重点施策として、全職員あげての懸命の努力をしてきたが、自然の力には抗しきれず、道路交通網は寸断され通勤通学をはじめ日常生活に多大の支障を来たした。

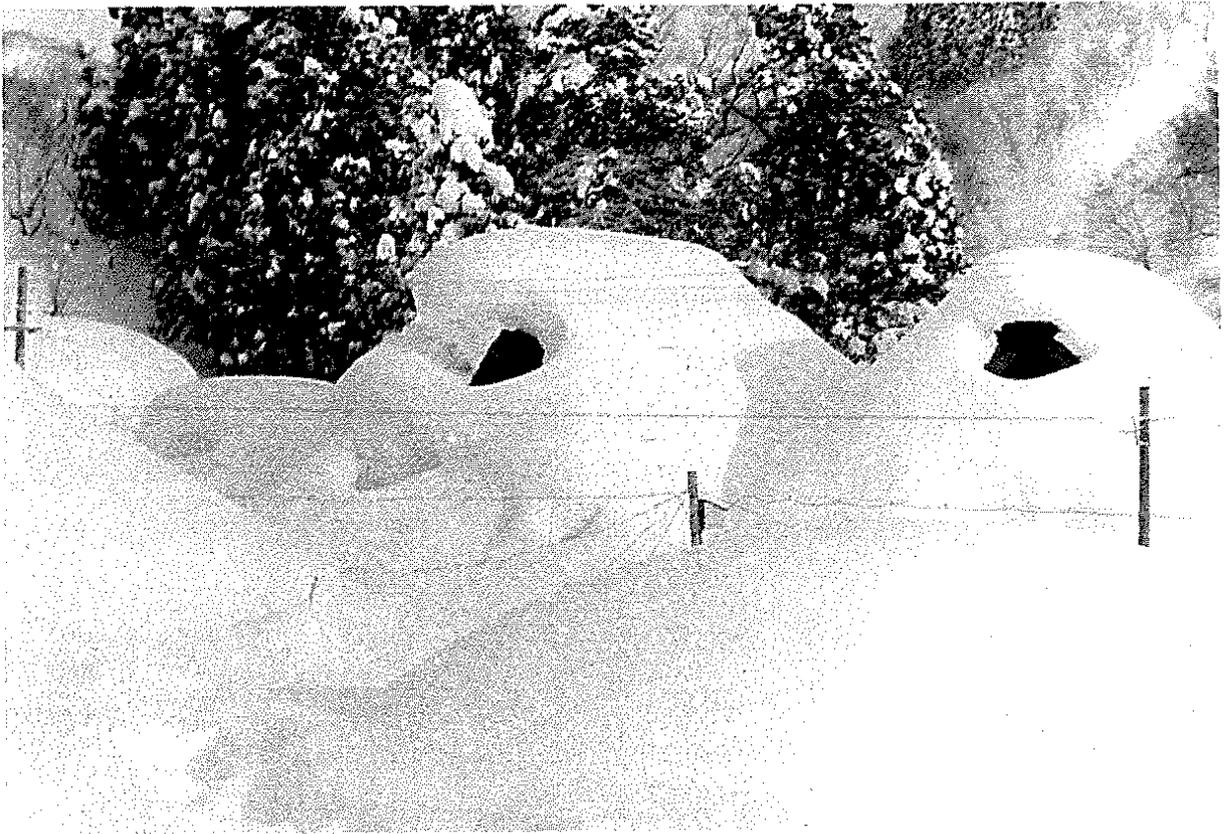
この間、武村滋賀県知事をはじめ、原国土庁長官御一行、志賀農林政務次官御一行、また本県出身の国会議員諸氏の度重なる現地視察をしていただき、豪雪の実態をつぶさにご覧願って諸対策の約束と、温い激励を賜り誠に心強く感謝した次第である。

その後直ちに自衛隊の派遣を受け、幹線道路の除雪、救急患者の輸送、急援物資の空輸など厳しい寒さの中で隊員各位の果敢な行動と機動力を駆使して、生活道路の早期開通に、そして救援活動に挺身いただいたご労苦に対し、また滋賀県をはじめ県下各市町の職員さんや各種団体の方々による除雪のご協力、あるいは県下各地から寄せられた新鮮な野菜類などの救援物資やお見舞に対し、深甚の敬意を表したい。

町は、こうした数多くのご支援とご厚情、そしてその激励によって支えられ、自然との闘いに耐え抜いた住民の苦労、雪どけ後表面に出て来た被害、その他観測史上異例の豪雪の貴重な資料と経験を記録に残すこととし、近畿地方建設局高時川ダム調査事務所の御協力を得て本誌を作成したものである。

昭和56年11月

滋賀県伊香郡余呉町長 西山 倫



豪雪に埋もれる鷺見地区（1月18日）



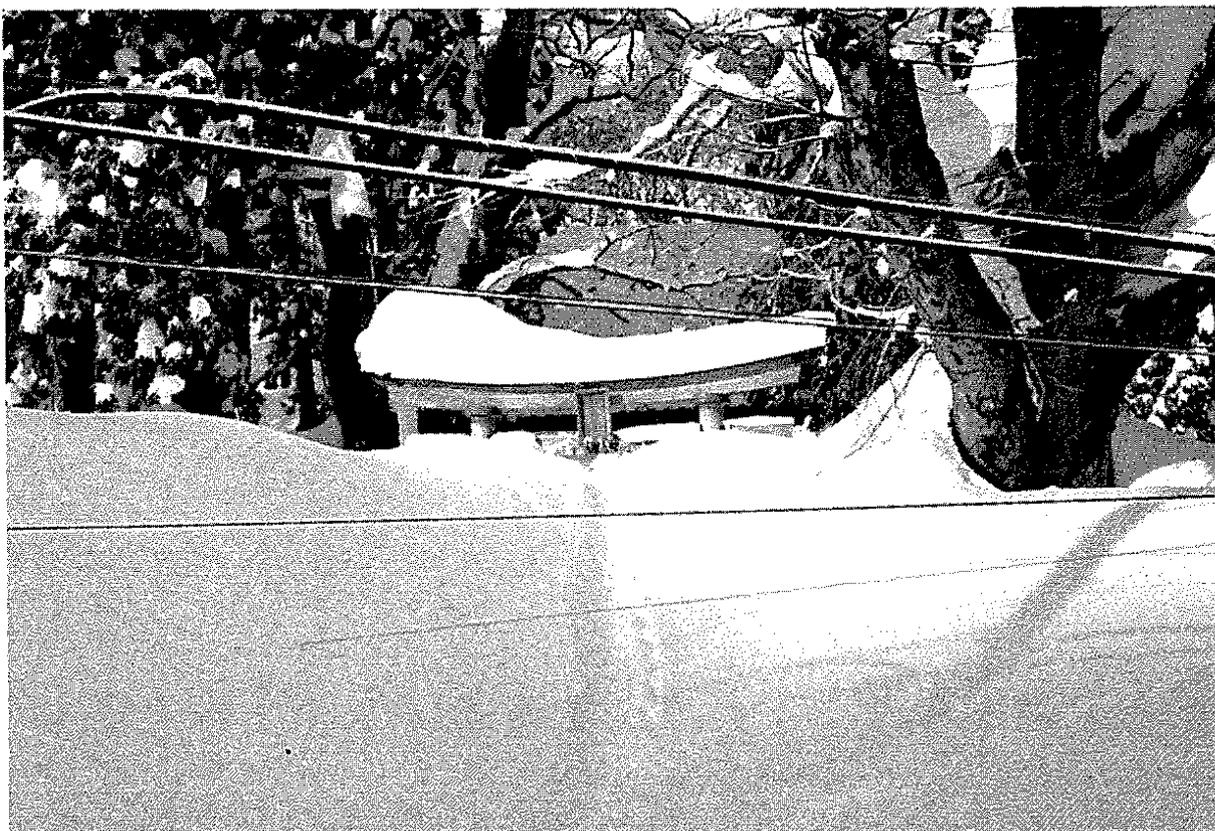
久しぶりの晴間にほっとひと息 小原地区（1月23日）



水道管破裂による断水のため、谷川から生活用水を汲む鷺見地区



雪道は絶えず崩雪の危険を感じながら、菅並小原間
(1月23日)



鳥居も埋ずもれた広峰神社 中河内



自衛隊による夜間の緊急患者雪上輸送
中河内を出発し伊香病院へ（1月24日20時40分）



救援物資を下ろす中河内住民 中河内にて（1月26日）



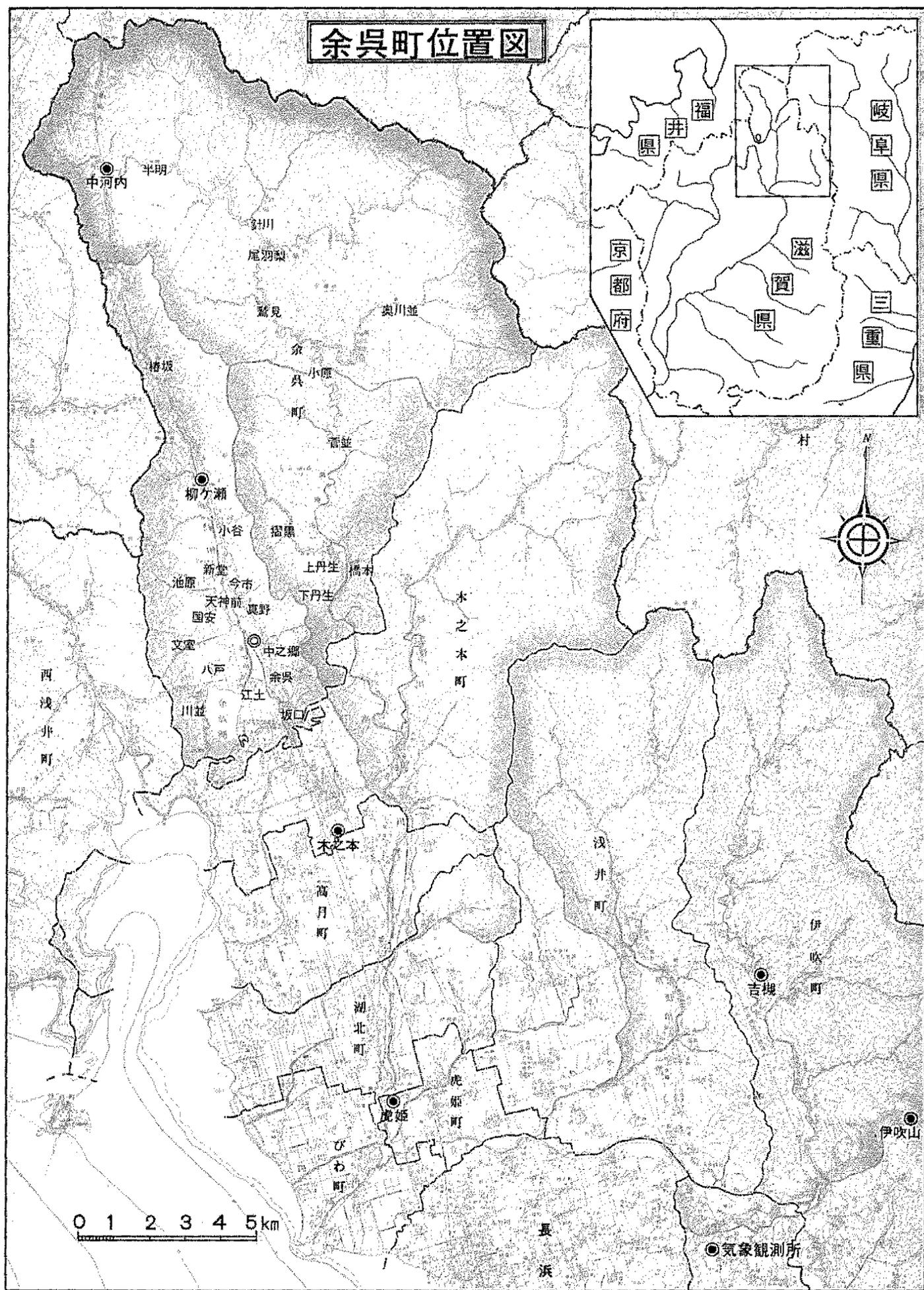
自衛隊の協力により、ようやく開通した菅並地区
菅並上空より（1月28日）

目 次

はじめに	i
グラビア	ii
目 次	vi
余呉町位置図	viii
第1章 気象の状況	1
1-1 気象の概況	1
1-2 寒波の襲来と気象の変化	3
(1) 寒波の誕生	3
(2) ドカ雪降らず「V字型雪パターン」	4
(3) 雪雲の停滞と連続降雪	4
(4) 戻り寒波と真冬日	7
第2章 積雪の状況	8
2-1 滋賀県の降雪傾向	8
2-2 “56豪雪”の特徴	9
2-3 余呉町における豪雪と孤立集落	14
2-4 余呉町における雪崩の状況	16
第3章 雪害の状況	18
3-1 道路の被害	18
3-2 公共施設の被害	20
3-3 農林水産業の被害	21
3-4 住宅等建物の被害	22
3-5 教育関係機関への影響	23
(1) 教育関係機関への影響	23

(2) 臨時休校・休園及び臨時分校の措置	23
(3) 臨時分校の開校	24
(4) 成人式の延期	25
第4章 雪害対策の状況	26
4-1 豪雪対策本部の設置	26
(1) 豪雪対策本部の設置と組織	26
(2) 豪雪対策本部の任務	27
(3) 体制と実施内容	28
1) 道路除雪の体制	28
2) 公共施設の屋根雪処理	31
3) 民家の除雪状況	32
4) 除雪に要した経費	34
4-2 救援活動の状況	34
(1) 孤立集落への生活物資の輸送	34
(2) 自衛隊の出動要請と派遣状況	35
(3) 各地からの救援物資の恵贈と除雪協力隊	40
第5章 今後の課題	44
5-1 道路の除雪体制	44
5-2 道路整備と消雪装置	44
資 料	45
滋賀県等の雪害対策及び各市町村の被害状況等（抜粋）	
“豪雪に泣く”	59
広報余呉より	
写真で見る豪雪記録	65
新聞記事に見る豪雪記録	84
編集後記	106
題字 西山町長書	

余呉町位置図



第1章 気象の状況

1-1 気象の概況

昭和55年12月27日から28日にかけて日本海北部を通過した低気圧が、北海道の南東海上を発達しながら東に進むにつれ西高東低の冬型の気圧配置が強まり、27日から30日にかけて石川県輪島の上空5500m付近に -35°C ～ -42°C の寒気が流入した。

滋賀県では26日夜半頃から北部山間部を中心に降雪が続き、29日夜半から30日朝にかけて北部全域で大雪となった。平野部では35～55cmの積雪を記録し、山間部では軒並み100cmの大台を突破して孤立状態になる集落が出始めた。

年が明けて初め穏やかな天気が続いたが、これもつかの間で再びバイカル湖方面の高気圧が日本付近に張り出して3日夜半頃から大雪となり、北部山間部の集落は完全なる孤立状態となった。

7日夜ようやく気圧配置がゆるみ、10日にかけて北部の雪は小康状態になった。しかし、これも長くは続かず、11日から三陸沖で低気圧が発達するのに伴い冬型の気圧配置が強まって北部全域で大雪となり、山間部では4mを越えるところが出てきた。15日夜に比較的深い気圧の谷が通過したあと、西日本上空の気流が西より北西の流れに変わったため、16日朝県南部でもところどころ5cm前後の積雪となった。

18日日本海南部と南海上を低気圧が東進して冬型の気圧配置は崩れた。これに伴って県北部の雪は減少傾向となったが、20日から21日にかけて西日本上空を弱い気圧の谷が通過したあと一時的に冬型の気圧配置となり、北部山間部を中心に降雪をもたらした。この降雪で余呉町中河内では今冬最高の4.52mの積雪を記録し、ある場所によっては6.5mを上回る記録的な積雪となった。

その後、北部山間部で20cm程度の降雪が何回かあったが、年末から断続的に降り続いた大雪は峠を越し積雪は日々減少していった。

なお、2月下旬の後半になって大陸方面から今冬一番の寒気が流れ込み、北部全域が戻り寒波に見舞われ各地で50～80cmの降雪量をもたらしたが、3月に入ると中旬頃から気温の上昇が著しくなって雪どけが進み、木之本及び中之郷における各観測所ではそれぞれ3月18日、同25日に積雪は消え、中河内の観測所においても4月29日に消雪した。

図1-1に中河内及び木之本観測所における気象の日変化を示す。

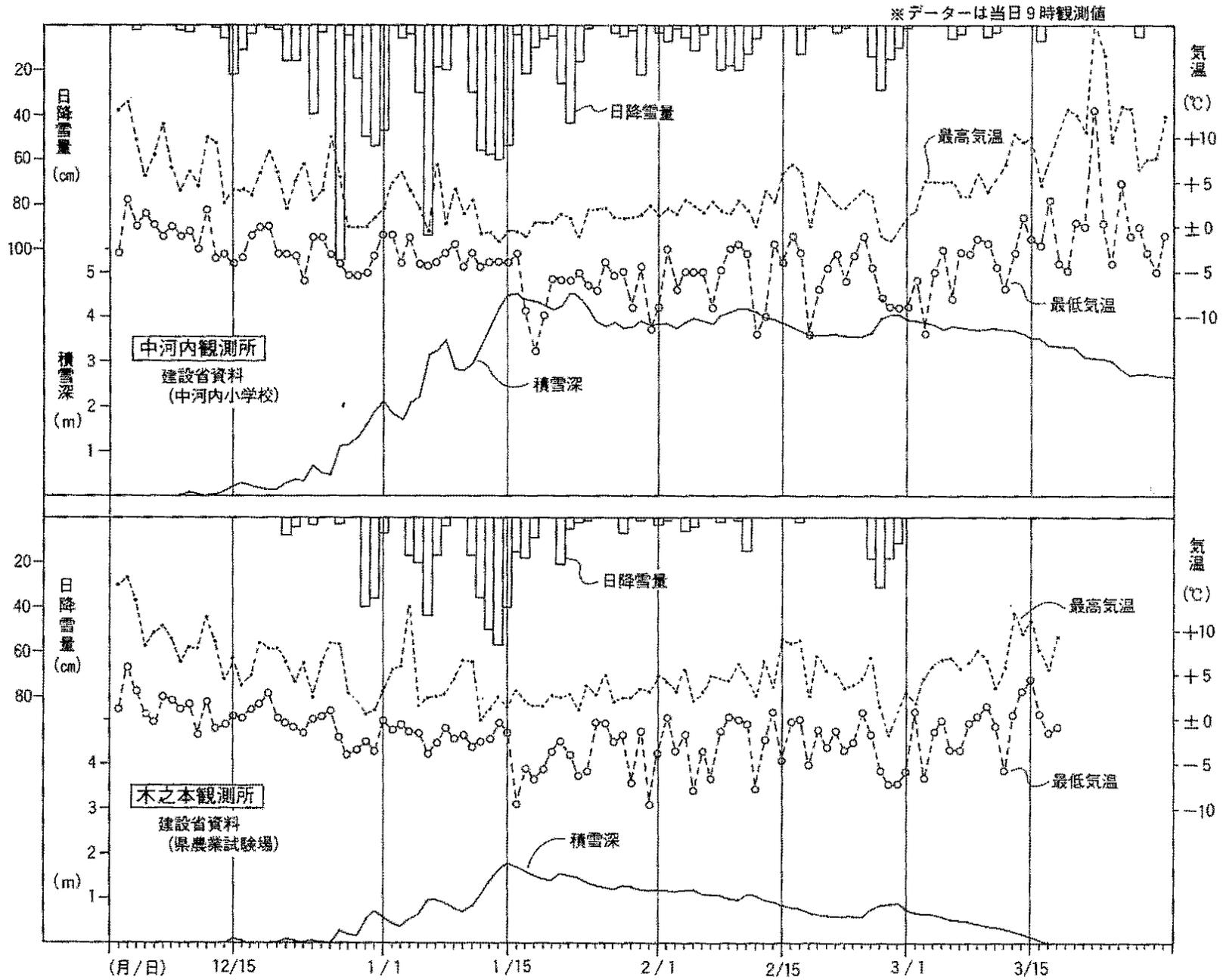


図1-1 56豪雪気象の日変化

1-2 寒波の襲来と気象の変化

今回の豪雪は、気象の概況で述べたように4回に亘る大寒波に見舞われた。そこで、これら各寒波の気象資料を用いて、第1波では寒波が誕生して行く様子を、第2波ではドカ雪を降らすと言われる「V字型雲パターン」を、第3波では連続的に降雪をもたらす雪雲の停滞状況を、そして、第4波では真冬日となった戻り寒波を、それぞれ見てみることにしよう。

(1) 寒波の誕生

12月25日日本海に進んで来た低気圧は、27日～28日にかけて能登沖を発達しながら通過し、更に東に進むにつれて冬型の気圧配置が強まり、輪島の上空約5,500m付近に -42°C の強い寒気が流れ込んだ。

この様子を天気図で追ってみよう。まず、28日9時と21時の地上天気図(図1-3)を見比べると、日本海の低気圧が三陸沖へ抜け、バイカル湖付近の高気圧が発達して、西高東低の冬型気圧配置が強まって行く様子がうかがえる。また、21時の上層500mb天気図(図1-2)では、輪島の上空に -42°C の寒気団が流入しており、寒波の強さを示している。これが'56豪雪、第一波の誕生である。

昭和55年12月28日21時

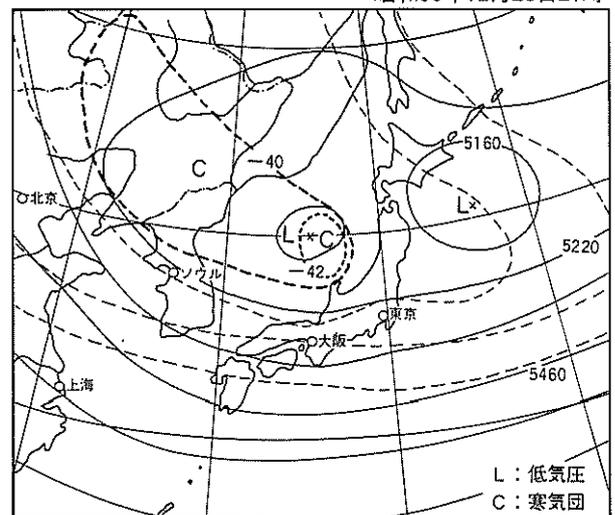


図1-2 上層500mb天気図

昭和55年12月28日9時

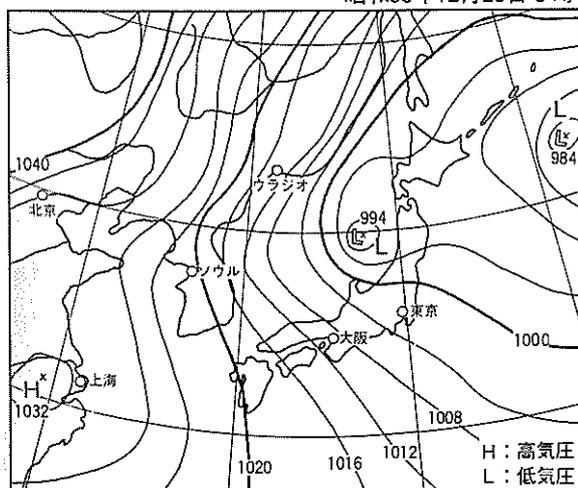


図1-3-1 地上天気図

昭和55年12月28日21時

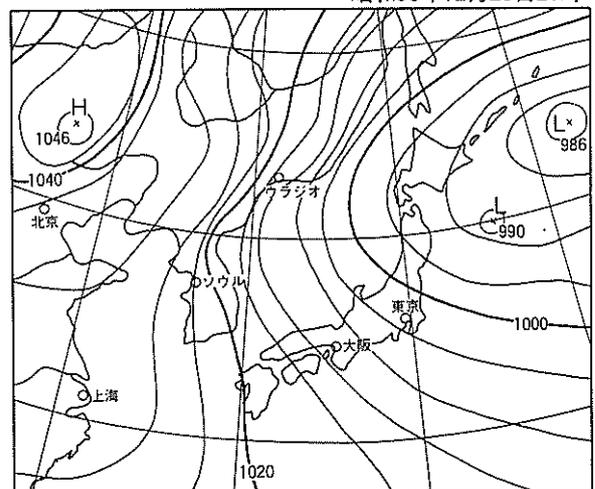


図1-3-2 地上天気図

(2) ドカ雪降らす「V字型雲パターン」

日本海で発達した低気圧が1月3日の夜、東へ抜けると、バイカル湖方面で出番を待っていた新たな寒気団が南下してきた。これが第二波である。

第一波と第二波をひまわり写真で見比べると、第一波の場合（写真1-1）東西に伸びた雪雲のすぐ近くに、ほぼ季節風の方向に沿って発生した筋状の雲列が見られるが、第二波は（写真1-2）この筋雲がかなり離れており、変わって季節風とほぼ直角に交わるような雲列が見られる。これは「V字型雲パターン」と呼ばれるもので、その雲列の南端に帯状の雪雲バンドが位置している。この「V字型雲パターン」が見られるときは、小さな渦巻状の低気圧が発生し易く、警報級のドカ雪が降ると言われ、気象研究者の間で注目されている。実際に1月5日の各地の降雪状況を6日9時観測で見ると（図1-4）前後両日よりズバ抜けた降雪があったことで確かめられる。

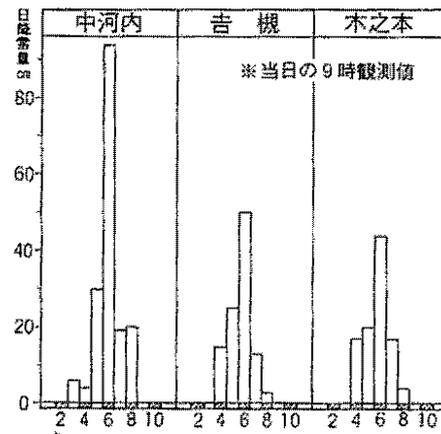


図1-4 第二寒波によるドカ雪

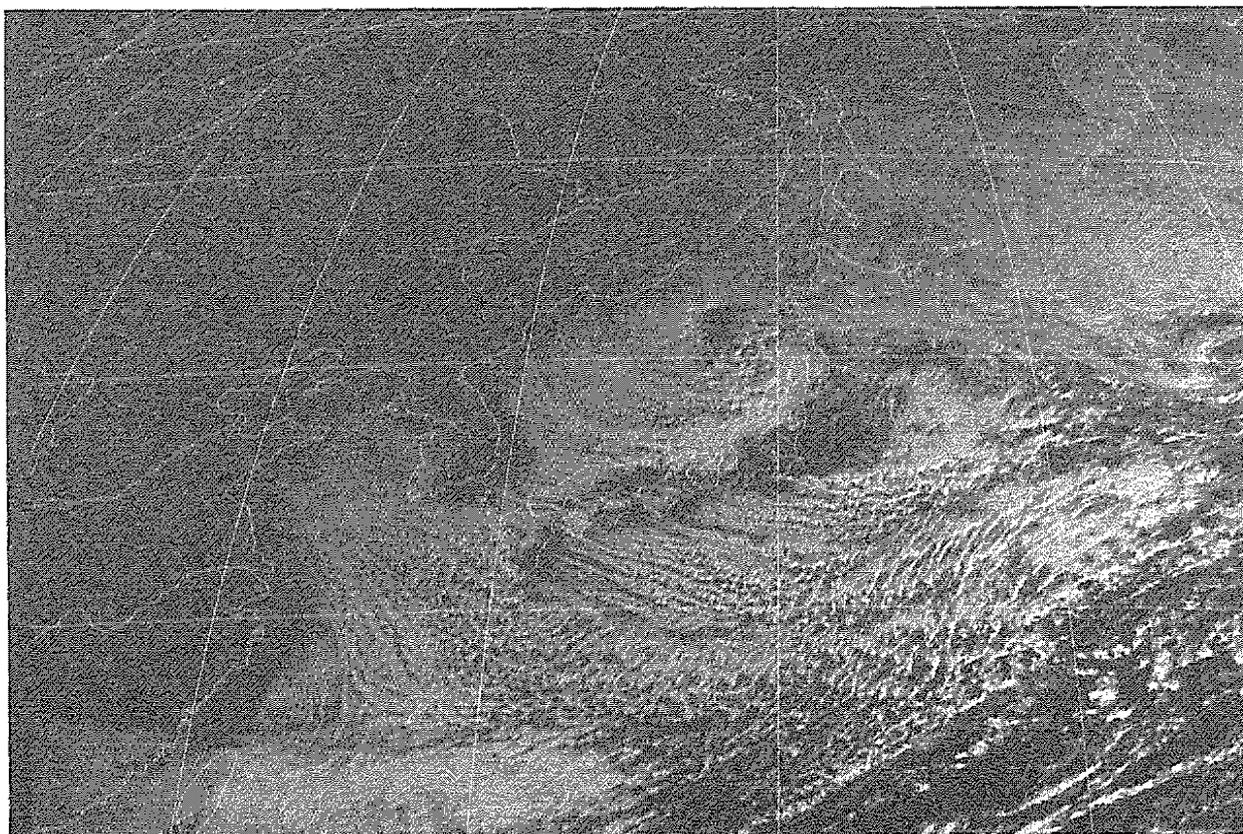


写真1-1 ひまわり写真（昭和55年12月28日9時）

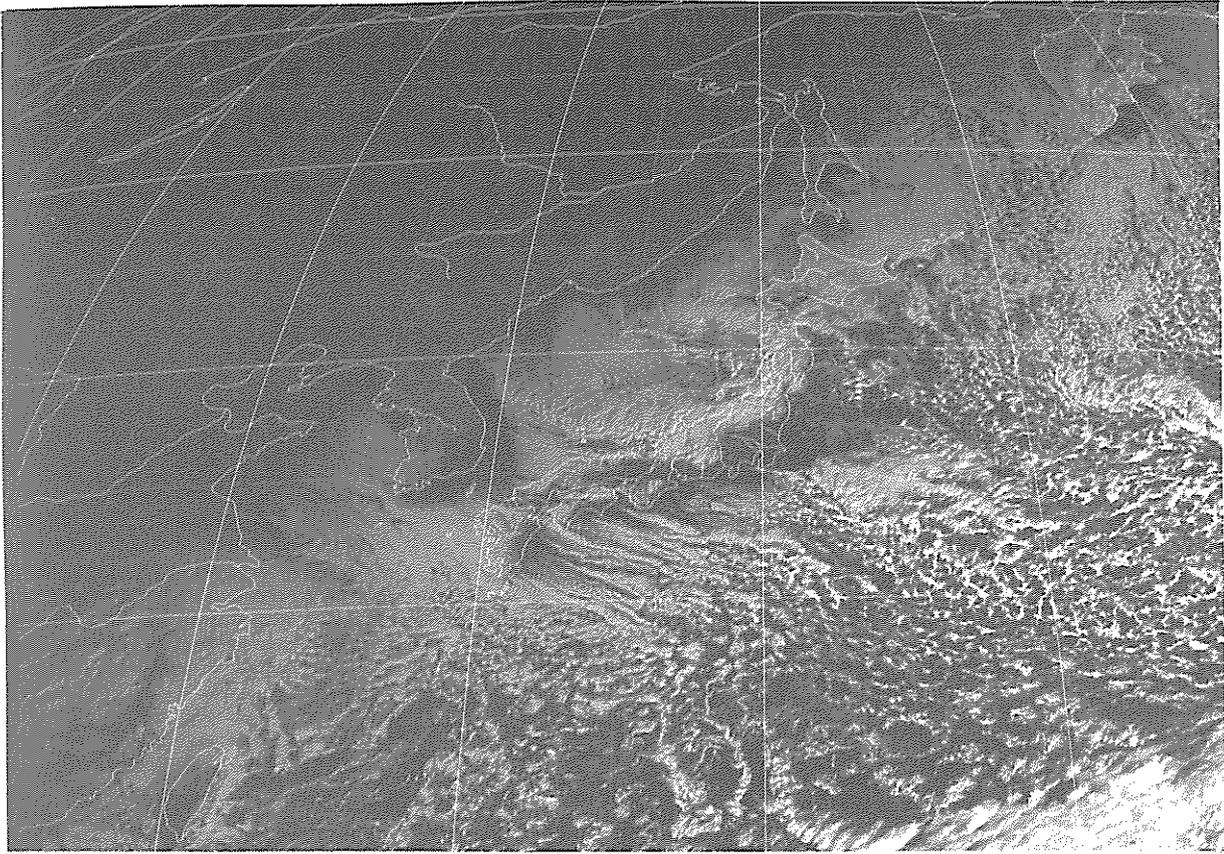


写真1-2 ひまわり写真(昭和56年1月5日9時)

(3) 雪雲の停滞と連続降雪

1月11日から三陸沖で低気圧が発達するのに伴い、冬型気圧配置が強まってシベリア寒気団が流入し、今冬3回目の大寒波に見舞われた。滋賀県北部ではこの寒波のため、11日～15日にかけて連続5日間20～60cmの降雪があり、各地とも積雪は日を追って増加し、今冬最高の積雪深を記録した。

13日における雪雲の状況を大阪レーダーで追って見ると、図1-5～1-7のエコー図に示されるように大きな雪雲が近畿北部にあって停滞し、滋賀県北部全域をスッポリと覆っている様子がわかる。この停滞した雪雲がまとまった雪を連続的に降らせた。

15日以降も冬型が続いたが降雪は強まらず、年末から断続的に降り続いた滋賀県の大雪も、これをもってひとまず終了した。

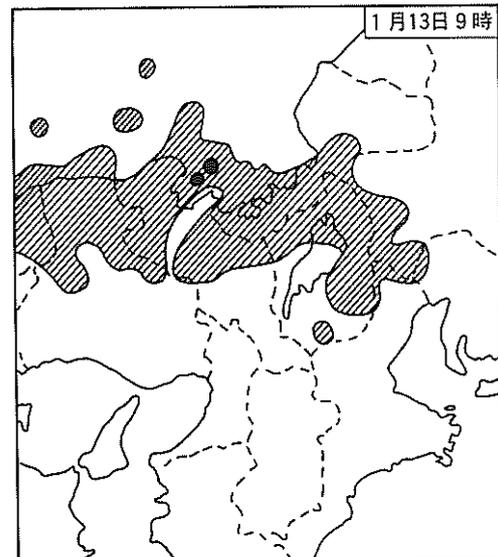


図1-5 大阪レーダー・エコー図

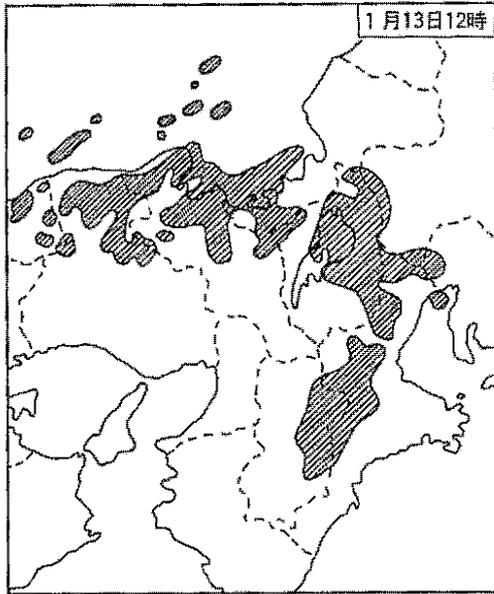


図1-6 大阪レーダー・エコー図

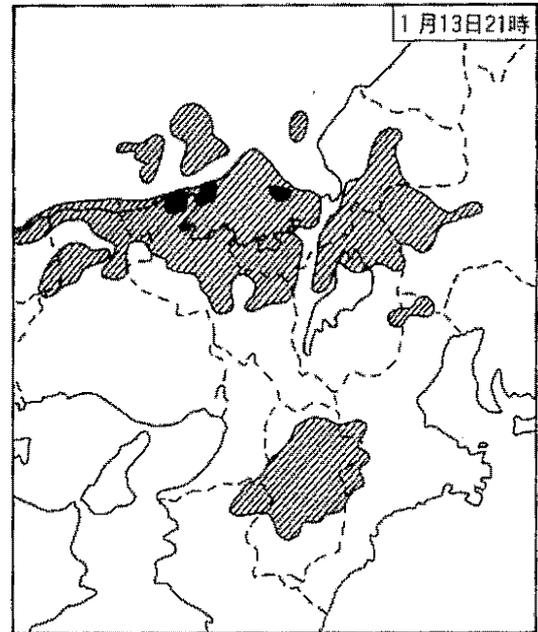


図1-7 大阪レーダー・エコー図

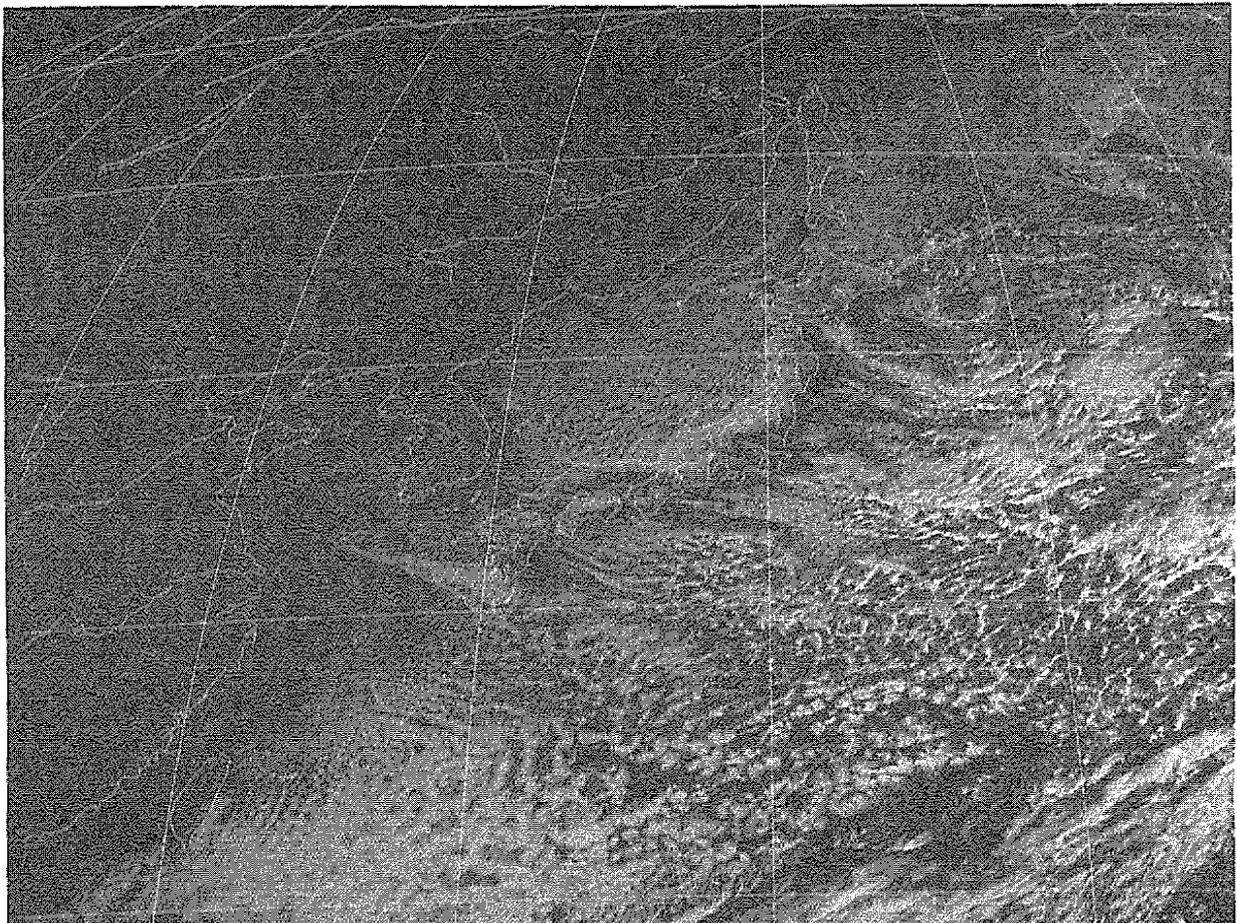


写真1-3 ひまわり写真(昭和56年1月13日9時)

(4) 戻り寒波と真冬日

2月半ばには一時気温も上昇して春めいてきたが、24日本州の南岸沿いと日本海を低気圧が通過したあと、久し振りに冬型の気圧配置が強まり、今冬一番の強い寒気団が流れ込んで日本列島は戻り寒波に見舞われた。

大陸から流れ込んだこの寒気団は、輪島の上空約 5,500m付近で -45°C という猛烈さで（図1-8参照）26日～27日にかけて激しい吹雪と厳しい冷え込みに襲われ、滋賀県北部の各地では日中の最高気温が 0°C 以下の真冬日となった。（図1-9参照）

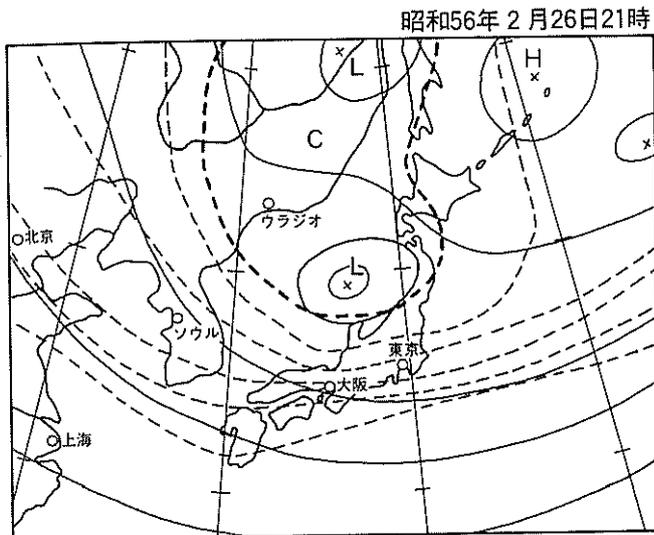


図1-8 500mb上層天気図

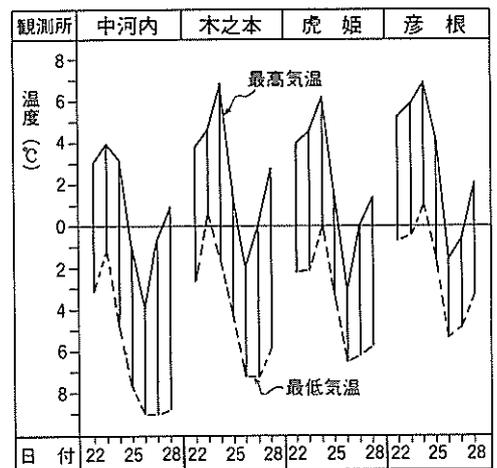


図1-9 第四寒波による各地の気温

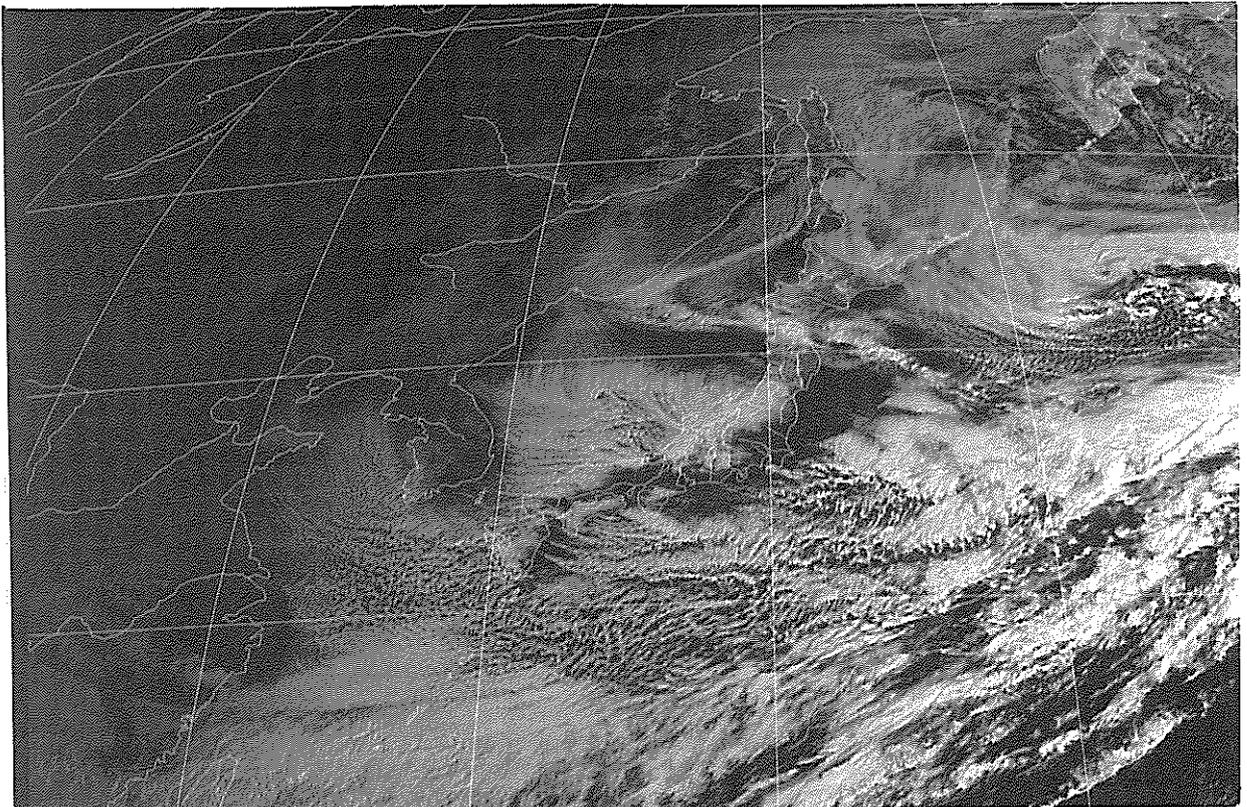


写真1-4 ひまわり写真（昭和56年2月26日9時）

第2章 積雪の状況

2-1 滋賀県の降雪傾向

シベリヤ生まれの寒気が日本海を渡るとき、たっぷりと水蒸気を吸収して雪雲をつくる。雪雲は季節風に運ばれて日本海で発達し、山脈に衝突しては降雪をもたらす。そして、乾いた空気が太平洋側へ抜けて行く。このように、冬型気圧配置のときは、一般に日本海側では雪、太平洋側では晴となる。しかし、滋賀県の降雪傾向は北陸・上信越地方の雪国のように、模式的には説明することができない異なった特色を有している。

滋賀県は図2-1に示すように、若狭湾と伊勢湾に挟まれて本州上で最も狭いところに位置しており、しかも、若狭と近江の流域界である野坂山地などの山々は高いところでも1,000m以下で、冬の季節風が吹き込む北西側は比較的に開けている。このため、雲頂2,000～3,000mの高さに達する発達した雪雲の移動をさえぎることができず、雪雲は若狭湾から野坂山地を越えて滋賀県に流入する。

この際、流入した雪雲は季節風の向きによって降雪をもたらす範囲を変える。

季節風が西から北西よりの場合は、県北部高峰の三国岳から伊吹山の山並みに衝突して湖北一帯を降雪に見舞い、風向きが北寄りになると雪雲は伊吹山系から鈴鹿山系にまで南下し、湖東湖北を含めた広範囲に降雪地域を広げる。

いづれにせよ、西高東低の気圧配置でシベリヤ大陸から季節風が吹く冬場は、湖北地方は雪と闘い続ける。なかでも余呉町は若狭湾と目と鼻の距離にあり、水分を多量に含んだ寒風が最初に上陸して山にぶつかる地域に当ることもあって、北陸地方なみの豪雪地帯となっている。

図2-2に湖北における雪雲の発達と移動の模式図を示す。

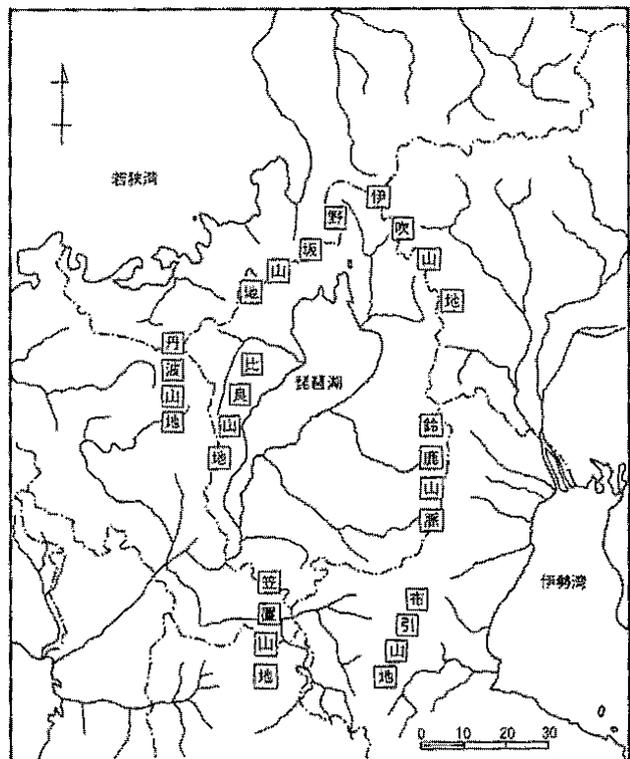


図2-1 滋賀県の位置

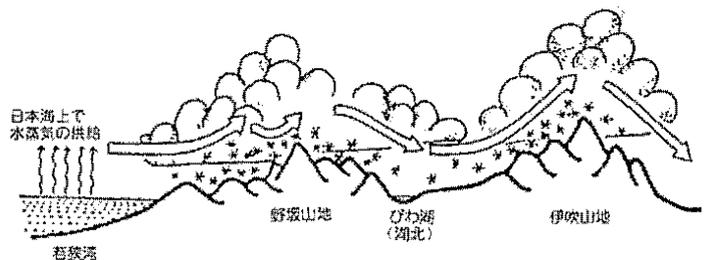


図2-2 湖北の降雪模式図

次に、県北部と南部の降雪及び積雪の日数について見てみよう。最近の統計によると、降雪日数は北部山間部で50～60日、湖岸平野部では30～40日、そして南部の大津付近が最小地域で20日未満になっている。また、積雪日数は北部山間部では80～120日で降雪日数の約2倍の期間となっており、大津付近とのその差は100日にも及ぶ大きな違いを示している。

図2-3は50cm以上の積雪があった日数の分布を示したものであるが、やはり北部山間部はきわめて多く、30～80日程度にも及んでいる。

また、中河内木之本の各観測所における根雪日数(表2-1参照)を見てみると、その平均値は各々102日、45日と長く、中でも中河内では1年のうち約1/3は雪でおおわれていることになる。

滋賀県防災気象要覧より引用(主として1931～1960年)

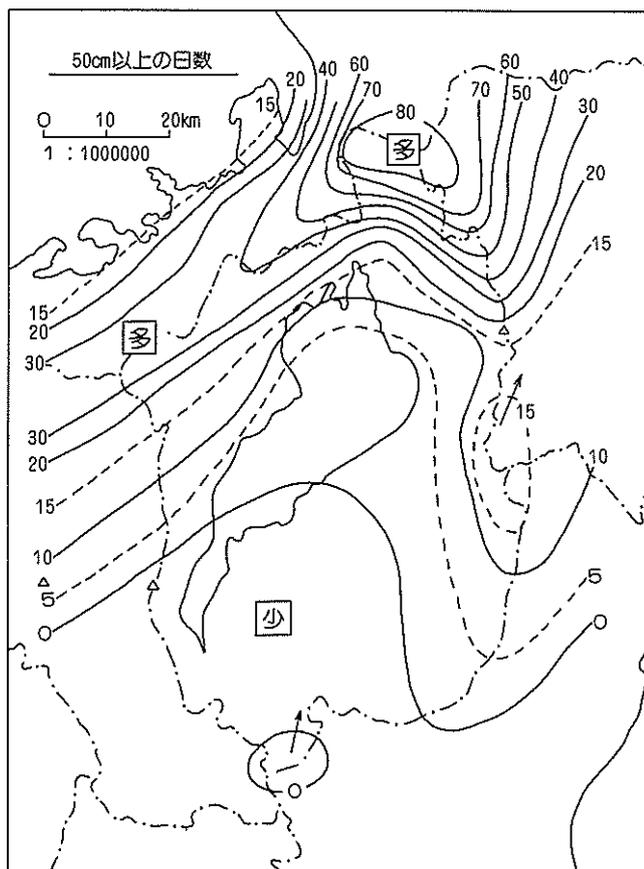


図2-3 積雪日数(50cm以上)の分布

2-2 “56豪雪”の特徴

今回の豪雪は、まず第一に県北部を中心に記録的な大雪が降ったことである。その降雪累加量は図2-4に示すように、中河内で12.3m、木之本で6.2mにも及んだ。

積雪深で各地の記録を見てみると、中河内観測所では4.52mにも達して昭和11年の5.65mに次いで第2位を記録し、ある場所によっては6.5mを上廻って我国の観測史上人家のある地区での最高積雪深となったところもあった。

また、木之本、中之郷、柳ヶ瀬などの各地では近年観測以来の最高積雪深を記録し、伊吹山測候所においても1月としては昭和20年に次ぐ史上第4位の8.2mを記録した。

このように、今回の大雪は各地で記録を塗り変える豪雪となった。

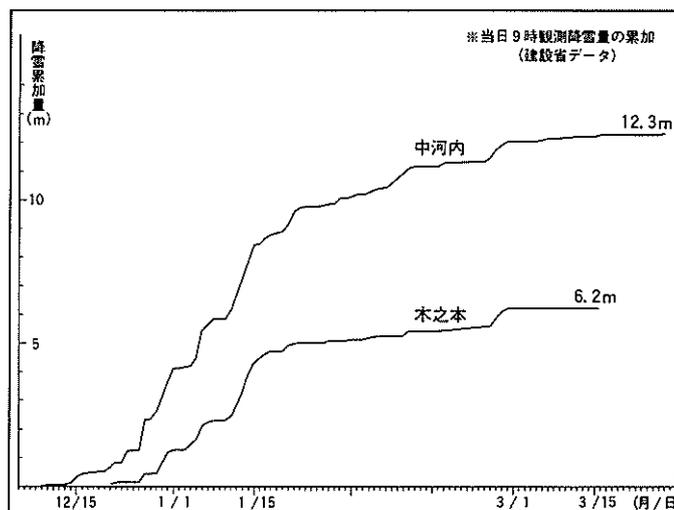


図2-4 降雪累加量

年次	中河内観測所			木之本観測所			彦根観測所			伊吹山
	根雪期間 (月/日~月/日)	根雪 日数	最大積雪深 cm(月/日)	根雪期間 (月/日~月/日)	根雪 日数	最大積雪深 cm(月/日)	根雪期間 (月/日~月/日)	根雪 日数	最大積雪深 cm(月/日)	最大積雪深 cm(月/日)
大正6				1/1~3/3	62	103(1/9)	※1/1~2/9	40	89(1/9)	
7				1/20~2/1	13	61(1/23)	1/20~1/22	3	17(1/20)	
8				12/17~12/23	7	15(1/22)	2/11~2/15	5	28(2/12)	458(1/26)
9				2/23~2/26	4	39(2/23)	2/18~2/26	9	37(2/18)	547(2/24)
10				1/3~2/9	38	121(1/23)	1/20~2/9	21	80(1/21)	767(1/30)
11				欠測			1/2~1/23	22	71(1/4)	991(1/4)
12				〃			12/29~1/1	4	28(2/17)	549(2/4)
13				1/27~2/6	11	46(2/26)	1/30~2/7	9	35(2/2)	806(2/25)
14				1/17~2/21	36	91(1/25)	1/20~2/6	18	60(1/25)	652(2/5)
昭和1				1/19~3/19	60	170(2/13)	1/19~2/17	30	80(1/31)	1182(2/13)
2				12/31~1/25	26	75(1/7)	1/7~1/10	4	37(1/7)	464(1/8)
3				1/16~3/5	49	91(2/15)	2/10~2/19	10	30(2/15)	658(2/11)
4				1/6~1/17	12	40(1/9)	1/6~1/12	7	19(1/9)	403(2/12)
5				1/11~1/30	20	54(1/15)	1/11~1/18	8	45(1/12)	406(2/18)
6				2/16~3/2	16	53(12/14)	2/18~2/21	4	19(2/29)	576(3/1)
7				1/26~2/14	20	80(2/1)	1/27~2/5	10	19(2/27)	530(2/28)
8				1/4~3/25	81	170(1/27)	1/12~2/12	32	55(1/24)	625(1/14)
9				1/17~2/23	38	101(1/26)	1/17~2/1	16	28(1/24)	540(1/25)
10	1/1~5/13	134	565(3/2)	1/4~4/2	90	190(2/3)	1/18~2/24	38	84(2/3)	670(1/31)
11	1/8~3/15	67	170(2/17)	1/10~1/18	9	63(2/16)	1/12~1/15	4	12(1/13)	515(2/18)
12	12/3~4/19	138	340(2/20)	12/26~2/15	52	94(1/9)	1/4~1/19	16	8(1/5)	660(2/20)
13	12/24~4/15	113	290(2/9)	12/27~2/25	61	90(2/9)	1/6~1/28	23	52(1/13)	764(2/8)
14	12/11~4/16	128	315(2/9)	1/9~3/9	61	134(1/31)	1/19~2/26	39	77(2/9)	740(1/22)
15	1/12~3/15	63	140(2/3)	1/26~2/15	21	31(1/26)	2/1~2/4	4	17(2/2)	550(2/2)
16	1/1~3/23	82	230(2/21)	1/2~3/1	59	110(1/19)	1/15~1/28	14	68(1/19)	585(2/13)
17	12/26~4/10	106	270(1/9)	1/1~2/17	48	51(2/1)	1/17~1/20	4	27(12/28)	721(2/3)
18	12/26~4/13	110	175(2/21)	2/14~2/28	15	39(2/20)	2/16~2/27	12	35(2/20)	495(2/20)
19	12/8~4/14	138	510(2/11)	12/20~3/25	96	145(1/27)	1/18~3/1	43	65(2/6)	850(1/28)
20	12/2~4/5	125	238(1/18)	12/31~1/29	30	56(1/18)	1/10~1/20	11	57(12/19)	※560(12/31)
21	12/6~5/1	147	371(2/20)	2/1~3/19	47	105(2/20)	2/15~2/26	12	42(2/5)	720(2/21)
22	12/11~4/5	117	155(1/17)	12/11~2/15	67	84(1/3)	12/30~1/8	10	27(12/21)	565(1/18)
23	1/6~4/7	92	163(1/19)	12/11~12/31	21	49(1/17)	1/17~1/19	3	18(1/17)	750(2/16)
24	12/25~3/31	97	126(2/6)	12/26~1/15	21	44(12/30)	1/7~1/11	5	20(1/7)	475(3/22)
25	※12/17~2/28	74	103(2/7)	1/21~1/31	11	40(3/5)	2/3~2/7	5	18(2/5)	580(1/23)

年次	中河内観測所			木之本観測所			彦根観測所			伊吹山
	根雪期間 (月/日~月/日)	根雪 日数	最大積雪深 cm(月/日)	根雪期間 (月/日~月/日)	根雪 日数	最大積雪深 cm(月/日)	根雪期間 (月/日~月/日)	根雪 日数	最大積雪深 cm(月/日)	最大積雪深 cm(月/日)
昭和26	1/7~3/31	85	93(2/11)	2/4~2/14	11	32(2/6)	2/4~2/13	10	78(2/6)	510(2/12)
27	12/21~4/8	109	275(2/9)	1/13~3/4	51	109(1/16)	1/30~2/11	13	50(1/14)	810(2/9)
28	1/24~3/5	41	165(2/9)	1/29~2/18	21	97(2/3)	1/30~2/7	9	23(1/31)	670(2/9)
29	12/25~3/21	87	185(2/22)	1/6~1/30	25	48(2/22)	1/11~1/14	4	26(2/22)	550(2/22)
30	1/7~3/29	83	192(2/23)	2/10~3/2	22	54(2/12)	2/10~2/16	7	48(2/12)	650(2/13)
31	欠測			12/14~1/16	34	95(12/24)	12/22~12/29	8	20(12/16)	680(12/27)
32	〃			1/18~2/2	16	71(1/25)	1/17~1/22	6	26(3/30)	540(3/7)
33	※1/4~2/20	48	150(1/19)	1/6~2/2	28	64(1/20)	1/6~1/10	5	18(1/7)	450(2/1)
34	1/2~3/17	76	148(1/28)	1/23~2/9	18	102(1/29)	1/23~2/4	13	49(1/29)	510(1/29)
35	※1/1~4/8	98	265(2/19)	2/13~2/14	2	43(2/18)	1/12~1/13	2	16(2/4)	520(2/4)
36	12/22~4/12	112	280(2/1)	1/20~2/11	23	61(1/31)	1/21~1/28	8	24(2/16)	610(2/1)
37	12/30~4/18	110	405(2/1)	1/4~3/8	64	101(1/31)	1/13~1/28	16	44(1/16)	716(2/9)
38	1/6~3/20	75	155(2/24)	2/2~2/8	7	33(2/14)	2/2~2/5	4	20(2/13)	425(3/27)
39	1/2~4/14	103	176(2/27)	2/24~3/8	13	60(2/27)	2/3~2/8	6	30(2/26)	580(2/26)
40	12/16~3/31	106	275(1/23)	1/19~2/20	33	103(1/22)	1/19~2/4	17	40(1/28)	625(2/7)
41	12/1~4/11	132	355(1/18)	1/3~2/8	37	74(1/18)	1/9~1/25	17	53(1/10)	570(1/18)
42	12/8~4/19	134	358(2/16)	1/8~3/10	63	84(2/12)	2/8~2/13	6	20(1/27)	550(2/9)
43	12/16~3/31	106	180(1/17)	1/4~1/24	21	45(1/16)	1/15~1/19	5	26(1/16)	480(1/16)
44	12/13~4/19	128	215(3/8)	1/14~2/17	35	75(1/18)	3/5~3/12	8	57(3/7)	570(3/7)
45	11/30~4/13	135	291(2/11)	1/28~2/16	20	52(2/6)	2/9~2/12	4	26(2/10)	640(2/11)
46	2/20~3/1	27	48(3/1)	2/20~2/21	2	8(2/21)	2/20~2/21	2	5(2/21)	80(3/15)
47	12/13~2/4	54	92(2/10)	2/7~2/17	11	74(2/10)	2/7~2/12	6	29(2/9)	310(3/26)
48	12/4~4/18	136	228(2/13)	1/9~2/6	29	53(1/20)	1/18~2/2	16	30(12/25)	560(2/12)
49	12/6~4/10	126	236(2/23)	1/10~2/7	29	114(1/13)	2/16~3/2	15	30(1/13)	775(1/15)
50	12/12~3/29	109	214(1/24)	1/19~2/13	26	69(1/24)	1/23~1/27	5	18(1/24)	500(1/23)
51	12/27~4/14	109	293(2/19)	12/27~3/17	81	130(2/18)	12/28~1/25	29	59(1/4)	645(2/20)
52	1/3~4/14	102	215(2/23)	1/31~3/5	34	91(2/4)	3/2~3/9	8	50(1/4)	570(2/5)
53	1/13~1/31	19	56(3/3)	1/14~1/22	9	18(3/3)	3/1~3/3	3	12(3/2)	130(3/5)
54	1/7~4/4	89	262(2/17)	1/7~1/30	24	66(1/22)	1/18~1/27	10	40(1/23)	560(2/17)
55	12/13~4/28	137	452(1/22)	12/27~3/17	81	180(1/15)	1/12~1/28	17	35(1/14)	810(1/15)
平均		102.1	241.5		45.4	99.5		11.7	38.1	596
MAX		147	565		91	176		43	89	1182
MIN		19	48		4	13		2	5	80

※印 一部欠測あり

今回のような豪雪は何年に一度の割合で起きるのであろうか、各観測所における毎年の最大積雪深で確率評価して調べてみると、56豪雪の各地の最大積雪深は図2-5に示すように、伊吹山では約1/10年確率、中河内では約1/20年確率、木之本では1/50年確率となり、湖北地方における56豪雪級の大雪は、だいたい山間部では20年に1回、平地部では50年に1回の割合で再現されると言えるであろう。

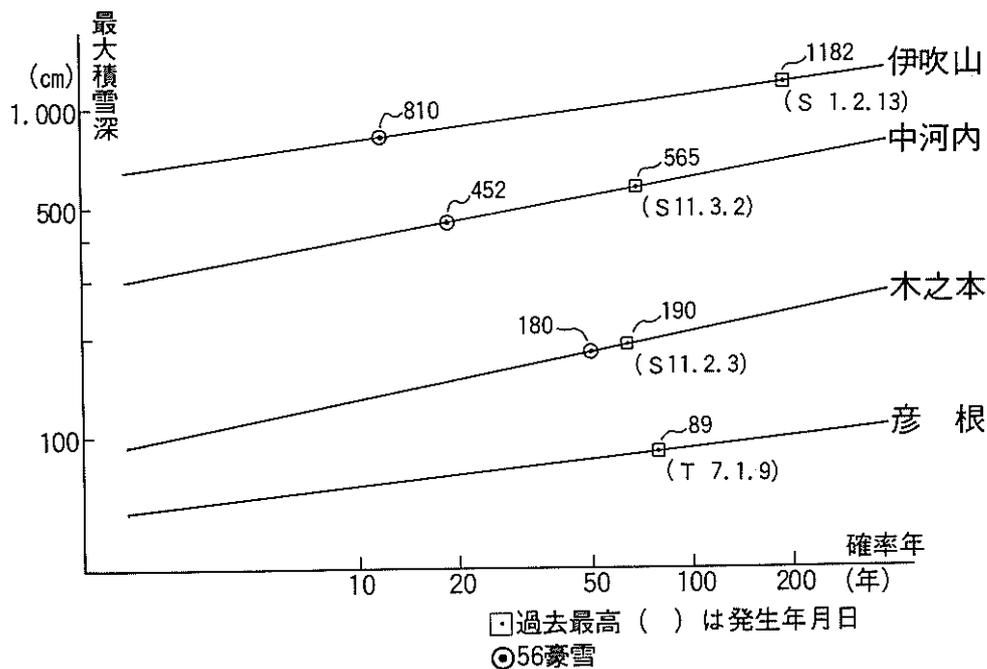


図2-5 56豪雪最大積雪深再現期間

56豪雪の第二の特徴は、年末から1月中旬までの短い期間に4～5日位の間隔をおいて間欠的に降雪が強まり、大雪となったことである。特に、1月上旬から中旬にかけては、年末の根雪の上に1回の降雪が3～4日連続し、これが2回繰り返されて稀に見る豪雪となった(図1-1参照)。

図2-6に示す地点別積雪深日変化を見てもわかるように、積雪の明確な山が4つある。1月1日前後、同7日前後及び同15日前後、そして2月末日をピークとするもので、このうち1月前半に集中した3回に巨る降雪は、県北部の交通網をマヒさせ、山間部集落を孤立状態に追いやった。

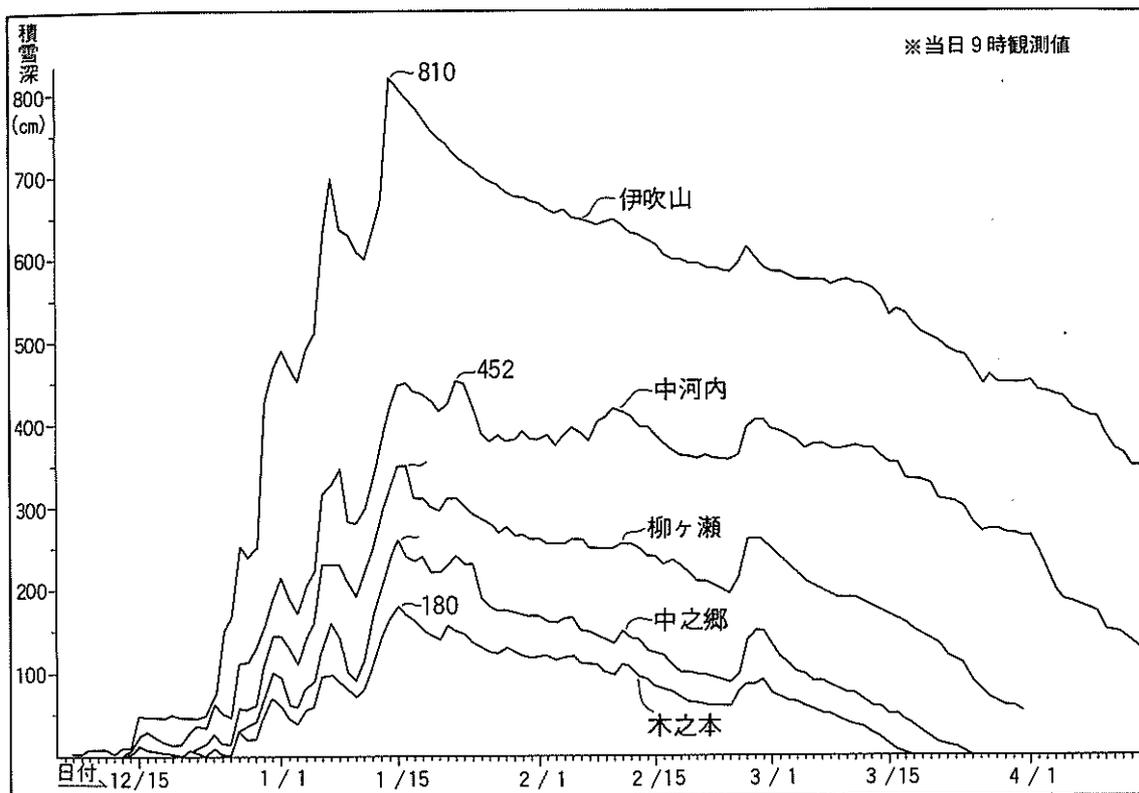


図2-6 56豪雪地点別積雪深日変化図

第三の特徴は雪質である。滋賀県の雪は全般的に温度が高く雪質が重い。雪の結晶は上空に冷たい空気が流れ込んだときにでき、次第に地上へ落下する。その過程において、地上に近い大気下層の気温が比較的高い場合に湿り気が多い雪が降る。

今回降った年末から年始にかけての雪は相対的に密度が大きく、1月16日に測定した湖北町伊部、木之本町木之本、西浅井町塩津の各地における積雪全層平均密度は $247\sim 279\text{kg/m}^3$ で、積雪深を考えれば 1m^2 当たり $350\sim 470\text{kg}$ の荷重となる。

今回の大雪で浅井町浅井東小学校、湖北町速水小学校、長浜市南郷里小学校等の各体育館の倒壊や、民家のひさしが折れるなどの被害が相次ぎ、その被害の割合は全国の約8割以上が滋賀県で発生している。ただ単に今冬の雪質の重さが原因であると言い切れない点もあるが、それらのことなどから、少なからずとも雪質の重さが被害を大きくしたことがうかがえる。



2-3 余呉町における豪雪と孤立集落

年の瀬もおし迫った12月26日、今冬第1次の寒波の襲来で、夕刻より本格的な降雪となり翌27日午前9時現在の積雪は、中之郷45cm、中河内110cmを記録し、国道365号線は椿坂以北が、県道中河内木之本線は菅並以北が不通となり、このときから、中河内、小原、田戸、鷺見、の四集落は孤立状態となった。その後1月4日から第2次の寒波が、11日からは第3次の大寒波が襲来して、12日午前9時現在の積雪は、中之郷170cm中河内370cmとなり、町の主要幹線道路である国道365号線もまひ状態となり、国鉄北陸線も長距離列車の運休が続出し、その後も降り続く雪のため、米原、福井間は13日の20時57分より、16日1時35分まで全面的にストップした。加えて国鉄バスも運休し一時的に町全域の交通はマヒ状態に陥った。

通勤者はその豪雪のなかを、木之本町、高月町、さらには長浜市の職場まで、行き帰りとも徒歩で通勤し、夜は我家の屋根雪降しといった繰返しが幾日か続いた。一方椿坂、中河内、菅並地区の人々は、通勤不能のため、それぞれ勤務地において下宿を余儀なくされたが、連日降り続く豪雪のため、我家の安否を気づかう余り巴むなく危険をかえりみず、腰まで没しながら徒歩で帰宅していた。その中には2日間の休暇をとり、1日がかりの強行軍で帰宅したところ、勤務先から、「雪のため職場が危険になった、すぐ職場に復帰せよ」との連絡で、我が家の屋根雪もそこそこに、勤務先へ急いだ人達があったことを仄聞している。結局自宅は、老人と婦人の手で守らざるを得なかったのである。

表2-2 集落別孤立状況

区分 字名	期 間	世帯数	人 員	備 考
菅 並	昭和56年1月12日～昭和56年1月28日	63戸	224人	
小 原	55. 12. 26. ～ 56. 3. 2.	1	2	緊急車以外通行止解除 4月9日
田 戸	55. 12. 26. ～ 56. 3. 3.	4	7	
鷺 見	55. 12. 26. ～ 56. 3. 23.	6	11	
椿 坂	56. 1. 12. ～ 56. 1. 20.	36	145	
中河内	55. 12. 26. ～ 56. 3. 18.	58	190	緊急車以外通行止解除 4月7日
合 計	6 集 落	168	579	

孤立地区の食料については、以前は毎年冬になると交通は途絶することが常になっていたもので、今でも主食は勿論、かなりの野菜や保存食も貯えているが、6mを越す豪雪のため、生鮮食料品がなくなっていった。とくに鷺見地区では、2世帯3人が越冬する予定であったが、年末に突然の大雪のため、十分な越冬準備が出来ないまま、4世帯9人が残ってしまった。その上1月10日には屋根雪降しのため帰宅した2人もとじ込められ、3人の越冬用食料を食いつくす結果となり、灯油、医薬品、日常生活物資も底をつき、救援依頼が町の対策本部へ入った。

町豪雪対策本部では、早速自衛隊のヘリコプターの出動を要請して、1月17日は鷺見地区へ、また1月21

日には中河内地区へ、それぞれ食料品や生活物資を空輸した。その後1月31日には小原、田戸、鷺見地区へ、2月4日には中河内地区へ、町議会議員と町職員で編成した被害調査隊が、食料品及び医薬品、除雪用具などを雪上輸送した。



孤立中の鷺見地区 1月18日 山口勇太郎氏撮影

急病人の発生に対する処置については、中河内地区で2件発生し、いずれも自衛隊のヘリコプターの派遣を要請した。第1回目の1月15日は、降雪のあい間を縫ってヘリコプターによる患者輸送を行ったが、第2回目の1月24日は、吹雪のためヘリコプターの発着不可能となり、除雪派遣により滞在中の自衛隊員の協力を得て、徒歩により医師を送り診察の結果、入院を要すると断定され、夜間に患者を雪上輸送し、伊香病院に入院させた。

そのほか電線の切断が孤立地区であい次いで発生したが、いずれも関係者の夜を徹しての献身的な復旧作業により短時間で復旧した。

表2-3 停電のあった日時

月 日	停電時間	停電した集落
1月18日	7:00~18:30	小原、田戸、鷺見
1月19日	7:00~11:35	中河内
1月28日	23:30~29日 12:45	鷺見
2月1日	12:05~17:00	鷺見

2-4 雪崩の状況

今豪雪で心配された雪崩の危険箇所は次のとおりである。

表2-4 余呉町における雪崩の危険箇所

路線名等	区分	危険箇所	付記
国道365号線		椿坂峠付近	雪崩防止柵の未施行箇所
〃		柳ヶ瀬字北尾地先	柳ヶ瀬バス停北約200m附近
県道中河内木之本線		菅並字蜷嶽地先	上丹生、菅並間の急峻な断崖
〃		菅並字佐惣平地先	菅並、小原間の急峻な断崖（通称タッサク）
〃		小原字小原谷地先	小原、田戸間
〃		鷲見字大丹谷地先	田戸、鷲見間
〃		鷲見字砂利平地先	田戸、鷲見間
町道丹生柳ヶ瀬線		上丹生字細桐地先	丹生小学校より西へ約300m附近
柳ヶ瀬字大門山		柳ヶ瀬字大門地先	柳ヶ瀬の人家の西側の斜面（通称ヒシ谷山）

1) 椿坂峠付近

国道365号線の椿坂峠は雪崩の常発地帯であり、滋賀県が毎年雪崩防止柵の設置に努力されているが、今豪雪では未施行箇所での危険が感じられ、除雪後の雪崩による災害の危惧から、1月末の自衛隊の応援を得ての除雪は峠下で中止し、3月上旬まで見合わせる事となった。しかし地元からは、危険箇所に人工雪崩を起こしてでも1日も早く中河内までの除雪を、との強い要望もあったが、県は、人工雪崩を起こして一時的に道路を開通しても、その後の危険が解消するとも考えられないため、実施されなかった。結果的には大きな雪崩は発生せずに春を迎えた。

2) 雁ヶ谷付近

国道365号線と国鉄バス専用道路分岐点西側の斜面より雪崩が発生し、国道365号線を直撃して止まった。幸い通行車輛はなく災害には至らなかったが、国道の下には、国鉄バス専用道路が走っており、その東部には北陸自動車道の下り線が走っている重要な箇所であり、対策が望まれる。

3) 県道中河内木之本線

県道中河内木之本線は高時川沿いに走っており各所で雪崩の危険はあるが、特に危険を感じられる箇所は、上丹生菅並間の蜷嶽地先、菅並小原間の佐惣平地先（通称タッサク）、小原、田戸間の小原谷地先、田戸、鷲見間の大丹谷地先と、砂利平地先で、県の委託を受けて除雪にあたった業者は命がけの作業であった。

先づ第一の難所である蜷嶽地先では、最初に



雁ヶ谷地先で発生した雪崩 1月19日 国道開通後撮影

山側上部の雪をユンボで排除し、更に安全を確認しながら道路の除雪にあたった。菅並以北の危険箇所は早朝の内に除雪し日中は雪崩の危険のない場所の除雪にあたるなど、細心の注意を払っての除雪作業により、小原地区は3月2日に、鷲見地区は3月23日に道路が開通した。

4) 町道丹生柳ヶ瀬線

上丹生から摺墨へ向う町道、丹生柳ヶ瀬線の丹生小学校から西へ約300mの地先において昭和55年1月に大規模な雪崩が発生して町道をふさいだ箇所で、町では同年に雪崩防止柵を設置した。しかし今豪雪はその柵もろともに崩れるのではないかと心配されたが、この豪雪に耐え抜いたことで安全が確認された。

5) 柳ヶ瀬大門地先

柳ヶ瀬人家中の西側斜面(通称ヒシ谷山)が、1月中旬から、山の頂上付近に、巾30mほどのイナヅマ型の亀裂が入り、日増しにその割れ目は大きくなり住民を脅かした。ヒシ谷山と人家の間には、川巾約15mの余呉川が流れているが、もし雪崩が起これば川を越えて人家を襲う危険もあり、川を堰き止めた場合は、付近の人家への浸水のおそれもあって、町は非常事態に備えて、近くにユンボ1台を常駐させた。



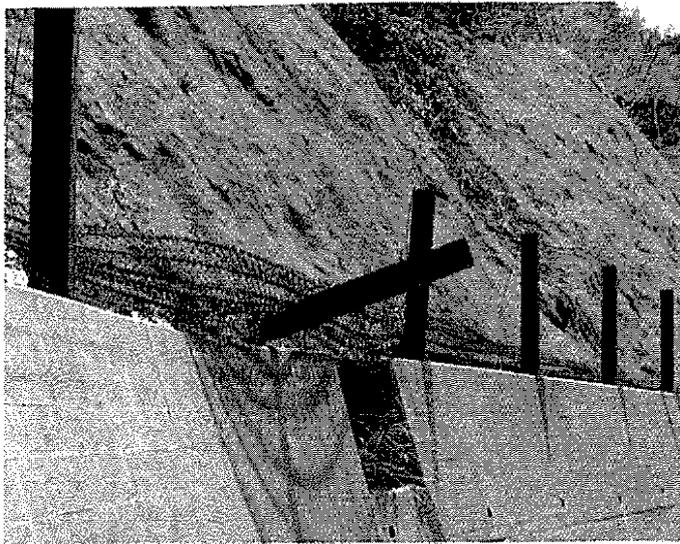
柳ヶ瀬人家裏の亀裂の入った山肌 1月12日撮影

第3章 雪害の状況

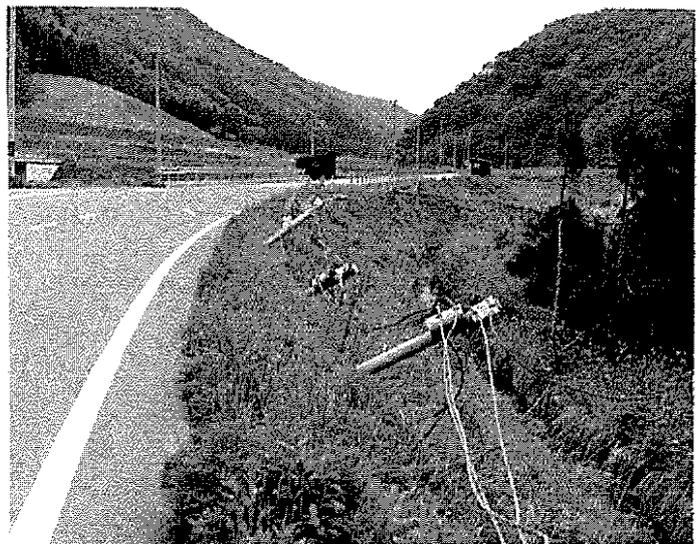
3-1 道路の被害

今回の豪雪は、道路そのものや付属物にも大きな被害を及ぼしたが、その殆んどが国道と県道で、付属物の少ない町道の被害は幸い僅少であった。

それでも雪が融けるにつれて無残な姿があちこちに見られるようになった。その主なものはガードレールや、ガードパイプの沈下、雪崩防止柵や落石防止柵の破損、除雪による路面や、ガードレール破損などの被害であった。



国道365号線 椿坂峠の雪崩防止柵の被害



除雪によるガードレールの被害
国道、雁ヶ谷附近



歩道のガードパイプが
雪の重みで沈下
国道東野附近

連日の除雪によりガードパイプを
傷め路面に亀裂の入った
県道中之郷停車場線



山崩れで行く手をふさがれた
県道中河内木之本線
尾羽梨一針川間

3-2 公共施設の被害

文教施設を除く公共施設の被害は、表3-1の通りで、その主なものは、各集落の木造集会所の屋根の損傷で、豪雪の割合に比し被害の軽微であったことは、住民の夜を徹しての努力のあったことを特記したい。

表3-1 公共施設の被害状況

(文教施設については別表)

区分	被害量	被害額	備考(施設の名称)
公民館 (集会所等)	12	2,400 千円	坂口公会堂、中之郷公会堂、八戸公会堂、摺墨公会堂、菅並公会堂、小原公会堂、田戸作業所、国安公会堂、新堂社務所、椿坂草の根会館、鷲見区事務所、下余呉公会堂、各建物の庇の折損、屋根瓦の損傷
その他の施設	11	9,150	町民体育館 400千円、自然休養村センター 200千円、水防倉庫 5,000千円、消防車庫 2,000千円、マイクロバス車庫 300千円、バス停 550千円、中之郷ゴミ消却場 200千円、文室消防ポンプ小舎 100千円、野外活動センター炊事舎 300千円、東舎 100千円、いずれも屋根の損傷
合計	23	11,550	



元菅並分校校舎の被害

3-3 農林水産業の被害

今回の豪雪によって最大の被害をこうむったのは、森林の被害である。年末から年始にかけて降った雪は、雪質が通常の2倍程度重く、この湿雪は立木を倒伏させ、また折損させて甚大な被害をもたらした、そのほか共同利用施設では、余呉ライスセンターの屋根の一部、外壁、サッシ窓などの損傷と、農業倉庫の屋根瓦や、シャッターの損傷があった。農産物では、麦類、野菜、果樹、桑園、茶園等に雪害が出た、その他農林水産業に対する被害の状況は、表3-2のとおりである。

表3-2 農林水産業の被害

区 分	被害量	被害額	備 考
共同利用施設	棟 6	千円 39,328	ライスセンターの屋根、外壁、サッシ窓、農業倉庫5棟、屋根瓦、シャッターの損傷
個人施設	棟 24	17,600	農作業場15棟、屋根の損傷 その他の建物9棟
農 産 物	43.5ha	17,450	麦類、野菜、果樹、桑園、茶園等の雪害
林 産 物	1,540ha	664,000	杉、桧等、立木の折損 510,000千円 倒伏による木起し 154,000千円
水 産 施設	ヶ所 2.0	13,500	釣棧橋の一部破損、釣堀施設1棟
水 産 物	—	6,000	余呉湖の湖面凍結により出漁不能日数90日を越えた損失およびワカサギの人工採卵、不可能損失
合 計		757,878	



雪の重みで中間から折れた杉の若令木

3-4 住宅、その他の建物の被害

住宅の全壊や半壊の被害は、小原、田戸、鷲見地区に多く、通勤、通学の関係上交通の便のよい地域へ、冬期だけ仮移転していた人達の被害が多かった。これは今冬の異例の豪雪のため例年のように屋根雪降しに帰ることができなかつたためである。

一部損壊には、大屋根や庇のタル木の折損による被害が大部分で357棟となった。なお非住家の被害の最も甚だしいのは、さきに移住済の空家となっていた奥川並、尾羽梨、針川の建物の倒壊がひどかった。また町全域においても、住宅を守るために、非住家にまで手が廻らず損傷した建物が多かつた。

表3-3 民家の被害状況

区分	棟数	罹災		備考
		世帯数	人数	
住家	全壊	7棟	7世帯	14人
	半壊	10	10	22
	一部損壊	357	340	1,290
非住家	305	—	—	全壊 27棟 半壊 34棟 一部損傷 244棟



雪害による民家

3-5 教育関係機関への影響

(1) 教育施設の被害

1月15日から21日にかけて浅井町、湖北町、長浜市、今津町の小学校の体育館や勤労者体育センターなどが、雪の重みでつぎつぎと屋根が落下している中であって、県下最高の豪雪地帯である本町の教育施設は、幸い大きな被害はなかった。そのかげには管理責任者をはじめとする教職員の並みなみならぬ努力とPTAなど地域の人びとの暖い協力があったことを特記したい。

学校別被害状況は、表3-4のとおりである。

表3-4 文教施設の被害状況

学校名	被害箇所名	被害の状況	被害額
余呉小学校	非常階段 渡り廊下 体育館掛庇 校舎の屋根瓦等	北校舎西側の木造非常階段の屋根損傷 西側からの圧雪で損傷 30㎡ 体育館北側の掛庇落下 全般に亘る屋根瓦、フェンスの損傷	千円 3,078
丹生小学校	実習室屋根 校舎掛庇 屋根瓦、フェンス	木造平屋の屋根損傷 掛庇5ヶ所落下 校舎全般の屋根瓦およびフェンスの損傷	2,290
片岡小学校	玄関庇 渡り廊下屋根 フェンス	校舎玄関庇のアルミパネル剥離 校舎、体育館の渡り廊下屋根損傷 運動場西側のフェンス 49.5m損傷	690
中河内小学校	校舎窓枠 校舎屋根 倉庫屋根	校舎1階の窓枠損傷 調理室南、北側、校舎東側庇破損 33.0㎡ 鉄骨平屋建倉庫屋根破損 17.0㎡	976
鏡岡中学校	フェンス	校舎周辺及び運動場西側、南側フェンス 359.5㎡	2,539
幼稚園	玄関の屋根	体育館南側、幼稚園玄関部分の損傷	500

(2) 臨時休校、休園および臨時分校の措置

1) 臨時休校・休園の実施日数

ア、幼稚園（保育所）

余呉幼稚園ならびに余呉保育所は、1月8日の始業式を延期したまま、当分の間、休園措置をとっていたが、予想外の豪雪となったため、2月7日まで休園して、2月9日に1日遅れの始業式を行った。

イ、小学校

町内の小学校のうち、余呉、丹生、片岡の三校は、始業式を1日遅らせて1月9日に行い、1月10日は正規の授業を行ったが、1月11日からの第3次の寒波襲来のため、1月12日から17日まで臨時休校となった。

中河内小学校は始業式を2日遅らせて1月10日に挙行し、そのまま、豪雪の中でも授業を続行した。その陰には連日連夜とぎれることなく降り続く6mを越す豪雪の中で、我が家の崩壊を食い止めるのが精一杯で

ありながら、学校と教育宿舎を守り正規の授業を続行できたことは、先生方をはじめ地区の方がたの涙ぐましい苦労があったからで、衷心より感謝の意を表したい。

ロ、中学校

鏡岡中学校も始業式を1日遅らせて1月9日に行い、1月10日より3学期の授業に入ったが、1月11日からの異状寒波により大雪をもたらし、12日は休校とした。なおも降り続く雪の中であったが、高校受験をひかえているため、13日は登校させて正規の授業に入ろうとしたが、国鉄バスの運行もストップし登校困難な地域が出たため再び14日から17日まで、臨時休校の措置をとった。

表3-5 臨時休校一覧表

△印は休校、○印は登校を示す

校名	月日	1月8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	臨時休校計
余呉幼稚園	(1月8日より、2月7日まで休園)													26日
余呉小学校	△	○	○	～ 日 曜 日 ～	△	△	△	祭 日	△	△	～ 日 曜 日 ～	○	6日	
丹生小学校	△	○	○		△	△	△		△	△		○	6日	
片岡小学校	△	○	○		△	△	△		△	△		○	6日	
中河内小学校	△	△	○		○	○	○		○	○		○	△	3日
鏡岡中学校	△	○	○		△	△	△		△	△		△	○	5日

(3) 臨時分校の開設

丹生小学校菅並分校では、1月19日になっても交通途絶のまま今後の開通の見通しがたたないとの判断で、町教育委員会は、県教育委員会に、1月16日から、2月28日まで48日間の臨時分校設置届を提出し、1月19日より菅並公会堂を臨時の校舎として、菅並分校を開設した。菅並分校は生徒数20名を複式として3学級を編成し、補充教員1名と、本校より交替で2名の先生が授業にあたった。

その後自衛隊の出動により、1月28日には上丹生、菅並間の県道の除雪が完了し、わずか9日間で分校を閉鎖し本校へ通うことができた。

(4) 成人式の延期

成人の日の1月15日は、かつてない豪雪に見舞われ町内の各道路は不通となったため、昭和56年度の成人式は、無期延期とした。因に県内で成人式を延期した町は、伊香郡内4町のほか坂田郡山東町、伊吹町、近江町、高島郡の今津町の10町であった。

本町では、その後積雪の状況をみて、2ヶ月遅れの3月15日に、余呉町山村開発センターにおいて成人式を挙行政した。



1月19日から開設した丹生小学校管並臨時分校



2ヶ月遅れの成人式
3月15日 余呉町山村開発センターにて

第4章 雪害対策の状況

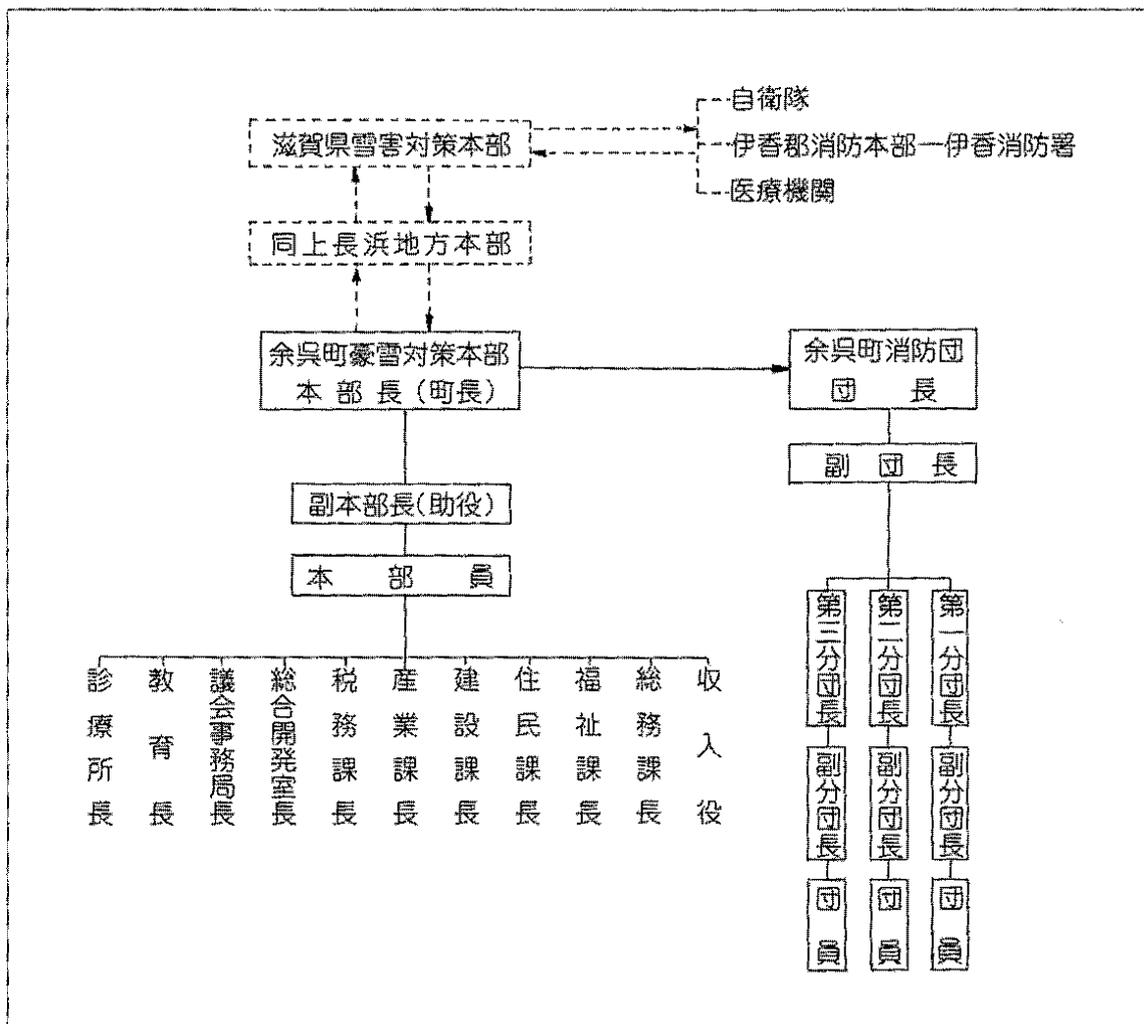
4-1 豪雪対策本部の設置

(1) 豪雪対策本部の設置と組織

非情なまでに猛威をふるった、56豪雪は、昭和55年12月25日夜半から降り出し、12月26日には奥地6集落（菅並、小原、田戸、鷺見、椿坂、中河内）が孤立状態に陥り、12月30日には、町役場（中之郷）で積雪1mを記録し、町の各道路も通行困難となったが、滋賀県木之本土木事務所と、余呉町の職員による懸命の除雪作業により、完全とは言えないが、どうにか道路交通の確保ができた。しかし、1月11日には第3次の寒波が襲来し大雪警報が発令された。そのため当日は日曜日でもあったが、緊急課長会議を開催して、同日17時00分「余呉町豪雪対策本部」を設置した。

なお、滋賀県においても1月13日17時00分に「滋賀県雪害対策本部」を設置して、県内各市町村との連携を密にするとともに、1月17日から、各市町村豪雪対策本部へ県職員を配置して対策にあたった。

表4-1 余呉町豪雪対策本部組織表



(2) 豪雪対策本部の任務

1) 生活道路の除雪

集落間の幹線道路の交通を確保する

2) 緊急医療体制の確保

孤立集落への緊急医療対策は、天候の状況により、陸上、空輸いずれかにより対処できる体制を確保する

3) 休校、休園措置とその連絡

町内各小中学校ならびに、幼稚園、保育所の休業の措置とその連絡

4) 連絡体制と情報の処理

各集落との密接な連絡体制と情報の処理ならびに上部機関への報告

5) 公共施設の屋根雪の除雪

各学校ならびに、各公共施設の屋根雪の除雪計画とその対策

6) 要保護家庭などの除雪対策

老人家庭などの除雪対策

上記の任務を帯びて1月11日設置した豪雪対策本部は、観測史上最高の豪雪と闘いながら4月20日、雪崩の危険性の解消をまって閉鎖した。



1月11日 余呉町豪雪対策本部を設置

(3) 体制と実施内容

1) 道路除雪の体制

町道における除雪体制としては、例年通り町職員による除雪作業班を編成して、早朝除雪(午前4時出勤)のため宿直待機とした。例年は1班当り4名で編成していたが、今冬は年末より1月下旬までは、4～8名の待機として交替で勤務した。待機回数は、12月に9回、1月に24回、2月に12回計45回、勤務延人員213人(班員22名)であった。

また昼間の除雪については、本部の指示により町職員が、全力をあげてこれにあたった。除雪機械は、町有の除雪ドーザー3台、ロータリー除雪車1台、グレーター1台、ジープ1台計6台で対応したものの、異状な豪雪のため町有機械だけでは、対処できなくなったので、1月17日より、滋賀県建設業協会の応援を得て、また1月18日からは町内業者に委託して、ブルドーザーによる幹線道路の確保と、ダンプトラックによる人家中道路の排雪を行った。

しかし大型除雪機械も没する豪雪のため、各集落内の道路まで完全に除雪できるのはいつの日になるか予想も出来ない状態であった。

そんなとき滋賀県雪害対策本部のはからいにより、1月21日から自衛隊の応援を受け、困難視されていた上丹生ならびに小谷、椿坂、菅並の人家中と、国道365号線の椿坂、椿坂峠下間、県道中河内木之本線上丹生、菅並間の除雪の難所を突破し、短期間(8日間)で主要道路の確保が出来た。しかしそれでも、中河内、小原、田戸、鷺見の4地区は、雪崩による危険性があるため依然として孤立状態が続いた。

昭和55年度の除雪計画は表4-2のとおりである。

表4-2

昭和55年度 余呉町除雪計画

1. 目的

この計画は、豪雪地帯である当町における町内道路交通を確保するため、有効適切な除雪作業を実施し、通勤通学の足を確保し、町の産業振興と民生の安全に寄与することを目的とする。

2. 除雪および凍結害の防止実施期間

昭和55年12月1日より昭和56年3月20日(110日間)

3. 積雪観測

役場および各小中学校において、観測時間ごとに積雪量を記録し、又関係区長に積雪状況を報告願うものとする。

4. 除雪対策基準

役場の観測において積雪量が10cm程度になれば除雪態勢に入る。

降雪量30cmが予想される場合……………大雪注意報

彦根气象台より発令されるので状況に応

降雪量60cmが予想される場合……………大雪警報

じ作業の万全を期す。

5. 除雪対象路線

余呉町が行う除雪対象路線は次表のとおり。

余呉町除雪対象路線一覧表

区 分	路 線 名	区 間	延 長
第1次確保 路 線	下余呉柳ヶ瀬線	中之郷 杉本余呉線交点～柳ヶ瀬人家はずれ	4.0km
	中之郷飯ノ浦線	中之郷 杉本余呉線交点～川並人家はずれ	2.9
	余呉駅前線	下余呉 下余呉塩津浦浜線交点～余呉駅前	0.2
	中之郷塩津港線	東 野 下余呉柳ヶ瀬線交点～文室人家はずれ	2.7
	今市国安線	今 市 下余呉柳ヶ瀬線交点～池原人家はずれ	1.4
	丹生柳ヶ瀬線	上丹生 中河内木之本線交点～摺墨公会堂前	1.9
	丹 生 線	上丹生 杉本余呉線交点～丹生小学校	0.5
	第2次確保 路 線	下余呉江土線	下余呉 杉本余呉線交点～下余呉塩津浜線交点
坂 口 線		坂 口 坂口人家中、国道365号線南北交点	0.6
中之郷中山線		中之郷 杉本余呉線東西交点	0.3
今市池原線		今 市 下余呉柳ヶ瀬線交点～今市国安線交点	1.9
今市国安線		国 安 中之郷塩津港線交点～天神前	0.5
高 田 線		中之郷 中之郷飯の浦線交点～中之郷停車場線交点	0.1
下 余 呉 線		下余呉 杉本余呉線交点～国道365号線交点	0.3
田 代 線		東 野 下余呉柳ヶ瀬線交点～国道365号線交点	0.1
中 之 郷 線		中之郷 下余呉柳ヶ瀬線交点～国道365号線交点	0.2
吉 行 線		中之郷 杉本余呉線交点～国道365号線交点	0.2
ハ 幡 谷 線		下余呉 杉本余呉線交点～国道365号線交点	0.2

(註)学校給食車の進入路および自然休養村センター道路についても除雪作業対象とする。

県道のうち、杉本余呉線(中之郷下余呉人家中)、下余呉塩津浜線(下余呉川並間)、余呉湖線(川並～国民宿舍余呉湖荘)の三路線は除雪対象とする。

6. 除雪の体制

- (1) 勤務時間中は、観測地および、除雪対象路線において、積雪が10cmとなった場合または10cmを越えるおそれのある場合に除雪体制に入る。
- (2) 勤務時間外は、彦根气象台より発表される気象通報、または降雪量が15cm以上と予想される気象状況の場合は、別紙当番表に基き建設課長の指揮により、宿直待機して翌朝の除雪の万全を計る。
- (3) 降雪量および積雪量が60cm未満の場合は、平常除雪体制とし、60cmを越える場合を緊急除雪体制とし直営作業のほか民間より除雪機械等の借上げを手配する。
- (4) 各関係機関と相互に連絡の上、県道の除雪状況、バス及び一般車輛の通行状況等を絶えず把握して関係機関への伝達を行う。

7. 除雪作業員の心得

(1) 一般心得

- イ. 除雪作業中は、車輛交通量および通勤通学者等の多い路線を優先して実施する。
- ロ. 除雪作業の開始時刻は、勤務時間外の早朝除雪の状況を判断して午前4時に開始することを原則とする。勤務時間内は建設課長の指示に従う。

ハ. 早朝除雪作業は、タイヤドーザー3台、ジープ1台により実施する。

ニ. 除雪作業中は、安全に十分留意し、万一事故発生の場合は被害の処理に努め、帰庁後は直ちに状況を報告する。

ホ. 除雪作業終了後は、必ず作業日誌を記入する。

(2) 班員心得

イ. 班員は不急の外出を避け、自己の所在、連絡先を明確にし、除雪体制の連絡があった場合、速やかに登庁して除雪作業に全力をあげること。

ロ. 運転者および補助員は次の事項に留意すること。

- ① 一車線確保の場合には、必ず待避所を設ける。
- ② 作業開始前に必ず車輦点検を行う。
- ③ 作業終了時は、車輦整備および、燃料オイル等の補給等を完全に行う。
- ④ 運転者の交代の場合には、車輦状況の引継ぎを行う。
- ⑤ 作業状況の連絡を緊密にし記録を確実にを行う。

(3) その他

除雪作業について必要な事項は、相互の協力と協議のもとに冬期の交通確保につとめること。

2) 公共施設の屋根雪処理

過去において、公共建物の除雪は、積雪が100cm～150cmを越える場合に、木造や軽量鉄骨の建物の除雪を行ってきているが、鉄筋コンクリートや重量鉄骨の建物の除雪は実施したことがなかった。しかし、役場の所在地である中之郷で、1月13日には200cmを越える豪雪となり、1月16日には260cmという未曾有の豪雪を記録したため、木造、非木造を問わず、全ての建物の除雪を行うことになった。

ところが、この豪雪の真只中では、住民はそれぞれの民家やその集落ごとの社寺等を守ることが精一杯で、公共施設の除雪応援隊を探すことは全く困難であった。そのため町としては1月11日の豪雪本部設置以来、女子職員を含めた町職員全員が、連日にわたり大小20棟に及ぶ公共建物の除雪作業に懸命の努力を続けていた。しかし職員の疲労の色は日増しに濃くなるばかりで、この上降雪が続けばもはやお手上げの状態となった。そんなとき、滋賀県豪雪対策本部のはからいで、県職員の応援隊の派遣をうけ引続き県下各市町ならび

表4-3 除雪協力隊の支援状況

月 日	協力団体名と人数
1月18日	滋賀県職員 25名
1 19	滋賀県職員 25名
1 20	滋賀県職員 26名
1 21	滋賀県職員 26名
”	草津市職員 30名
1 22	草津市職員 34名
”	県警本部機動隊員 13名
”	野洲町職員 20名
1 23	野洲町職員 20名
”	滋賀県町村会職員 3名
1 25	近江八幡市教委職員 20名
”	政治結社、維新統一同志会 7名
”	日本社会党滋賀県支部 30名
1 26	中主町職員 15名
”	石部町職員 10名
1 27	中主町職員 15名
”	石部町職員 10名
”	彦根建築組合青年部 15名
1 29	守山市職員 24名
1 30	守山市職員 24名
合 計	12団体 389名

に各種団体の暖い支援を受けたことは、まことに有難かった。ここに協力隊員の皆さんに対し、あらためて感謝の意を表したい。

また教育関係施設の屋根雪降しについては、臨時休校の間それぞれの学校の教職員が連日、危険度の高い建物から順次除雪にあたっていたが、何分にも建物面積が広いのと、積雪量が多いため作業ははかどらず、PTAの会員や地元の住民の協力と除雪協力隊の応援を得てどうにか事無きを得た。本町よりも雪の少ない地方の体育館の屋根の落下があい次いで起ったが、幸い本町内の体育館は、屋根雪の自然落下により難をまぬがれた。

ドーム型体育館の屋根は、上って除雪することは危険であり、今後の豪雪に備えて次のような管理面での注意が必要であることを痛感した。

- 1) 屋根の雪止めは絶対にとりつけないこと
- 2) ドーム型屋根の塗装は、錆の出ないうちに、できるだけ早目に塗り替えを行うこと。



PTAの奉仕作業で校舎の屋根雪降しをする鏡岡中学校

3) 民家の除雪状況

200cmを越す積雪になると、屋根雪によって1階の庇まで埋れてしまう。2階建ての家でも、大屋根の雪は落せても1階の庇は、埋った雪から掘り出さねば危険となる。そのためには、次に降ってくる雪のことを考慮して出来るだけ家から離れたところへ排雪しなければならないが、人家の密集したところでは、隣家とのトラブルが起る。積雪が400cmを越える地帯ではなおさら大変な作業量となり、平家建ての場合では、「屋根雪降ろし」ではなく、「家掘り」と言った方が適切な言葉となる。この重労働をおこたれば家は壊れることを覚悟しなければならない。

最近、余呉町においても農業の機械化によって、男性だけでなく、女性も農業以外の他産業に従事することになって、昼間家に残っているのは「老人と子供だけ」と言っても過言ではない状態である。そのため昼間は職場で働いてきて、夜は月明りで屋根雪降ろしをする家庭が多かった。こんな日々が幾日も続き、懸命の努力の中にも被害は続出して行った。実に“白魔との闘い”であった。

この様な状態を見兼ねた町豪雪対策本部は、町民の勤務先に対し、余呉町長名で、次のような依頼文（表4-4）を送り、特別休暇など特別の配慮を依頼した。

また寝たきり老人や、体の不自由な老人に対しては、民生委員や地元消防団員、社会福祉協議会の職員等が、地元の区役員と協力して愛の手をさしのべていた。しかし降り続く雪のため、先手にはまわれず、心配のあまり夜中に民生委員や役場に電話してきた老人も何件があった。

表4-4 各職場あてに発送された依頼文

謹啓 大寒の砌 貴社益々御隆昌の段大慶に存じます。

さて、昨年末から北陸地方を襲った豪雪は、昭和38年をしのぐ記録的な積雪となり、日夜懸命の除雪作業にもかかわらず、生活道路の幹線も遂にとだえた状況であります。

本町からの通勤者も交通不能のため下宿や間借等にたよっていますが、我が住家を守るため家族全員が一丸となっているものの甚大な被害が生じています。

家族の柱となる通勤者は、生活の糧となる勤務と財産（家屋）の維持のため、その心労と肉体疲労は相当なものと推察しています。

このような事情御賢察の上、勤務について格段の御高配を賜りたくお願い申し上げます。

参考までに、今日現在までの各地の積雪量は、中之郷 260 cm、菅並 380 cm、鷺見 570 cm、中河内 550 cm、椿坂 450 cm、柳ヶ瀬 440 cmとなっています。

敬 具

昭和56年1月15日

事 業 主 殿

余呉町豪雪対策本部長
余 呉 町 長

西 山 倫 ㊟

4) 除雪に要した経費

余呉町が除雪に費した経費をまとめてみると表4-5のようになる。このうち主なものは人家中の排雪作業委託費が、13,514千円、公共施設等の除雪人夫賃金や町職員の時間外手当等が、4,155千円、除雪機械などの修繕費が、4,131千円、除雪機械や連絡用自動車などの燃料費が、1,791千円など、直接的な除雪費用は、25,483千円となる。

また老人福祉世帯の屋根雪降ろしなどの援護費が、2,510千円、豪雪のあと始末等に対して各集落、各団体等に交付した交付金が、4,600千円、豪雪対策の諸経費が、3,251千円など、間接的な費用が、11,311千円、合計、36,794千円となった。

最近5ヶ年間の平均が約3,500千円だから、平年の約10倍となる、ただしこの除雪費用の中には、除雪機械の購入費や、償却費は入っていない。その上自衛隊や除雪支援隊の派遣がなければ、とうていこのような金額ではおさまっていなかったであろう。

表4-5 余呉町の除雪に要した経費の内訳 (昭和56年度) 単位千円

費目	金額	経費の内訳
除雪委託費	13,514	町道人家中除雪、業者委託料
除雪労務費	4,155	除雪人夫雇人費及職員時間外勤務手当等
除雪機械借上料	850	民間の機械及ダンプカー借上料
修繕費	4,131	除雪機械等の修繕料
燃料費	1,791	除雪機械及び連絡用自動車の燃料費
消耗品費	1,042	タイヤ、タイヤチェーン、ボルト等消耗品費
豪雪対策交付金	4,600	各集落及各種団体への豪雪対策交付金
援護費	2,510	福祉世帯の除雪補助
補償費	950	除雪による建物、車輛等の損傷に対する補償金
豪雪対策諸経費	3,251	被害写真、印刷費、自衛隊派遣による諸経費等
計	36,794	

4-2 救援活動の状況

(1) 孤立集落への生活物資の輸送

12月26日から孤立していた鷲見地区では、2世帯3人が越冬する予定のところ、出そびれた6人が大雪にとじ込められ、その上1月10日には、屋根雪降ろしのため帰宅した2人も、降り続く雪のため、勤務先へ戻ることもできず、合計11人が、3人分の越冬用食糧を食べていたため、1月16日には副食の材料が底をついて来た。また日用品、医薬品、灯油なども残り少なくなって来たので、町の豪雪対策本部へ救援を求めて来た。

町の豪雪対策本部は、早速、滋賀県雪害対策本部を通じて、自衛隊のヘリコプターの派遣を要請するとともに、食糧品、日用品、医薬品、郵便物など14梱包、228.5kgと、灯油18ℓ入10缶を準備し、伊香消防署のグ

ランドを徹夜で除雪してヘリポートとして、1月17日午前9時より晴間を見てヘリコプター5往復により物資の輸送を行った。

1月21日には、中河内地区からの要請により、野菜などの食糧品、郵便物、医薬品、除雪用機具等、83梱包、1,170kgを空輸した。

その後、天候の状況を見て、2月4日に中河内地区の豪雪状況調査を兼ねて、町議会議員、町職員等34名の救援物資輸送隊を組織して、県下各地から寄せられた見舞品の野菜類や除雪機具等を樺坂峠下まではトラックで運び峠下から中河内まで徒歩により搬送した。



2月4日 中河内地区へ救援物資を搬送する町議会議員と町職員一行

(2) 自衛隊の出動要請と派遣状況

1月21日、滋賀県雪害対策本部から要請を受けた自衛隊は、今津駐屯地の特科連隊を主力とする近畿各地からの370名の隊員が出動、木之本町役場に本部を設置し、木之本町杉野方面と、余呉町の生活道路の確保を目指して活躍、短期間にその目的を達成して地元住民に感謝された。

なお緊急患者輸送や、緊急物資輸送のため、ヘリコプター出動を要請し、4回延べ10機と陸路輸送2回(車輛9台、隊員68名)の出動を願った。その活動状況は表4-6のとおりである。

表4-6 自衛隊出動状況表

月 日	出 動 項 目	活 動 の 状 況
1.15	緊急患者輸送	孤立中の中河内地区の中学生が雪による骨折のため、ヘリコプターによる患者輸送 伊香消防署基地 ⇄ 中河内基地 1往復
1.17	生活物資の空輸	孤立中の鷺見地区では、食糧品、日用品が不足し、救援の通報により、食糧品、日用品、医薬品等を空輸 伊香消防署基地 ⇄ 鷺見基地 5往復
1.21	生活物資の空輸	孤立中の中河内地区からの要請により、生活物資の空輸、食糧品、郵便物、医薬品、除雪機具等1,170kg 伊香消防署基地 ⇄ 中河内基地 4往復
1.24	緊急患者輸送 (陸上徒歩)	中河内地区において急患発生、緊急輸送のため自衛隊のヘリコプターの派遣を要請したが、吹雪のためヘリコプターの発着不可能となり、陸上(雪上徒歩)により医師の派遣を申請して、自衛隊のスキー班により医療機具と医師を陸上で輸送し、診察の結果、入院を要するため、患者を雪上輸送し伊香病院に入院させる。 自衛隊の車輛6台、隊員48名出動
1.21	生活道路の除雪	滋賀県雪害対策本部の派遣要請により、自衛隊の派遣 第1陣として余呉町へ126名到着 山村開発センターと町役場会議室にて宿泊
1.22	生活道路の除雪 (隊員260名)	丹生方面除雪隊と椿坂中河内方面除雪隊の2箇中隊に分れ、除雪作業開始、隊員260名となる。 丹生方面隊 重機隊 フルトーザー2台 ダンプカー3台 上丹生公会堂より南の町道の除雪 人力隊 上丹生裏手の道路の踏みつけ道開設 電話ケーブルの堀出し 椿坂中河内方面隊 重機隊 フルトーザー3台、ダンプカー3台。 地元業者と協力して椿坂人家中の排雪。 人力隊 中河内方面ヘスキーにより踏みつけ道開設。
1.23	生活道路の除雪 (隊員290名)	丹生方面隊 重機隊 フルトーザー3台、バケットドーザー1台 ダンプカー5台。 上丹生公会堂より南へ向って除雪(バス転向のため21時まで作業続行。 人力隊 菅並方面へ徒歩による踏みつけ道開設、引続き人家中の踏みつけと老人世帯の屋根雪の処理。 椿坂中河内方面隊 重機隊 フルトーザー3台、ダンプカー3台、 椿坂人力中と椿坂峠へ向って国道365号線の除雪 人力隊 スキー隊20名が、中河内及び半明方面への道路踏みつけ、午後中河内小学校屋根雪処理、その他の隊員は椿坂人家中の除雪、老人世帯の屋根雪降し。

月 日	出 動 項 目	活 動 の 状 況
1.24	生活道路の除雪 (隊員290名)	<p>丹生方面隊</p> <p>重機隊 上丹生公会堂より南の町道、16時に開通続いて上丹生人家中を北に向って除雪。</p> <p>人力隊 丹生小学校の屋根雪降ろしを地元の人達と協力して行う。</p> <p>樺坂中河内方面隊</p> <p>重機隊 樺坂北部より峠に向って国道365号線を除雪17時樺坂峠まで開通、それより峠に向っては雪崩の危険性があり峠下で除雪を打切る。</p> <p>人力隊 中河内小学校の屋根雪の処理のため、スキー20名出発、出発の際、草津婦人会より寄せられた救援物資の野菜を搬送</p>
1.25	生活道路の除雪 (隊員290名)	<p>丹生方面隊</p> <p>重機隊 上丹生公会堂より北に向って除雪、一方墨郷橋からも着手 上丹生より菅並へ向って県道中河内木之本線の除雪、ブルドーザー2台。</p> <p>人力隊 上丹生人家中の除雪(重機隊に協力)</p> <p>小谷方面隊 重機隊、人力隊共に小谷の人家中に集中して排雪作業。 南入口、北入口、中央の3ヶ所より重機を投入し、ダンプにより排雪。</p>
1.26	生活道路の除雪 (隊員340名)	<p>丹生方面隊</p> <p>重機隊 25日に引続き上丹生人家中の排雪。 県道中河内木之本線、上丹生菅並間の除雪にあたったブルドーザー2台は、午前10時に菅並に到着し、人家中の排雪作業に着手。作業能率を上げるためブルドーザー1台を雪上を通して六所神社前に投入し北部からの排雪し南と北の二方から実施。 また木之本町杉野方面の除雪にあっていた1隊が、丹生方面隊に協力することとなり菅並の排雪応援。</p> <p>人力隊 重機隊に協力し上丹生人家中並びに菅並人家中の機械除雪により建物損傷の保護にあたる。</p> <p>小谷方面隊 重機隊、人力隊共に小谷人家中に集中して除排雪。 南、中央、北の3ヶ所の入口よりダンプ排雪。</p>
1.27	生活道路の除雪 (隊員340名)	<p>丹生方面隊</p> <p>重機隊 重機隊、人力隊共に2班に分れ、上丹生、菅並の集落内道路の除雪。 上丹生は14時に町道上丹生線(旧県道)開通。 菅並は南、北両方面よりブルドーザー3台、バケットドーザー1台により除雪、明28日午前中に開通の見通し。</p> <p>小谷方面隊 前日に引続き排雪作業、16時に小谷人家中全線開通し作業を終了。</p>

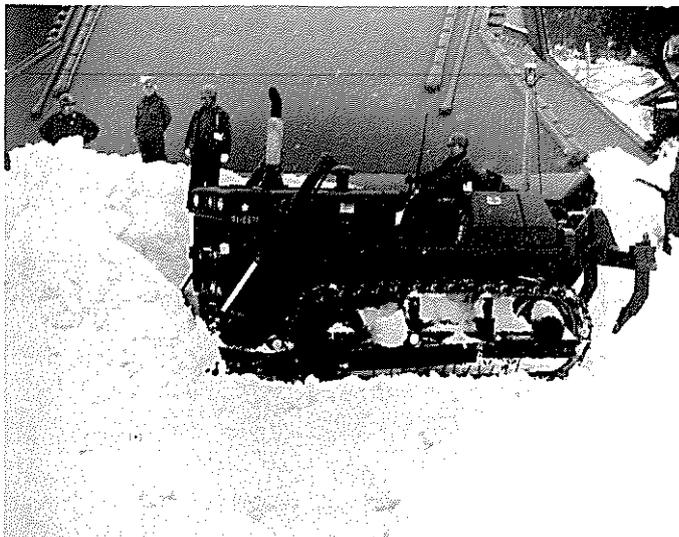
月 日	活動項目	活動の状況
1.28	雪害戦闘終了報告 行事	丹生方面隊 上丹生 午前9時 雪害戦闘報告行事 9時25分 部隊撤収 菅 並 午前中に人家中の除雪作業を完了。 13時15分 雪害戦闘報告行事 13時30分 部隊撤収 小谷方面隊 10時30分 雪害戦闘報告行事 10時45分 部隊撤収



自衛隊のヘリコプターにより現況視察をする
余呉町長と柴田大隊長
(1月26日 中河内を視察)



自衛隊による人力除雪作業
(1月27日 菅並の人家中にて)



自衛隊の重機による除雪
(1月26日 菅並の人家中にて)

(3) 各地からの救援物資の恵贈と除雪協力隊

1月も中ばを過ぎた頃には、全般に生鮮野菜が不足し、交通の途絶によって、食料品店の店頭にも、野菜だけでなく、全ての食料品が欠乏していた。農家の庭先には毎年貯蔵されている大根やキャベツも、3～6mの雪の中では掘り出すこともできず困っているところへ、県下南部の各地から、野菜など善意の救援物資が、毎日のように役場まで届けられた。その種類は、大根、キャベツ、ネギ、人参、白菜などで、町はその物資を各集落へ配分して廻った。各戸にとっては、キャベツ半分、あるいは人参1本の配分であったかも知れないが、このときばかりは人の好意が身にしみて感じられた。

また1月18日頃より、滋賀県職員を除雪協力隊をはじめ、湖南の各市町村からの救援隊が毎日のように応援してくださったことは、誠に有難かった。この未曾有の豪雪から公共施設が守れたのも、こうした蔭の支援があればこそと、心から感謝する次第である。

表4-7 豪雪見舞金品寄贈者名簿

(順不同・敬称略)

種別	寄贈者氏名(または団体名)	種別	寄贈者氏名(または団体名)
現物	草津市北山町、湖南中央園芸組合長 横江藤三郎	現物	滋賀銀行
◇	守山市農協 野菜出荷協議会 寺田喜以知	◇	川島信也
◇	守山市呉服町 津田和子 外4名	◇	滋賀県議会議長
◇	草津市下笠町 園芸農家	◇	近畿地方建設局高崎川ダム調査事務所
◇	栗東町長	◇	西日本建設業保証株式会社滋賀支店
◇	中主町農業協同組合	◇	長浜市 下村設計事務所
◇	守山市役所	◇	長浜市 材信工務店
◇	蒲生神崎西部地区 生活改善グループ	◇	ヒラノ電子
◇	大津市下坂本 吉田吉五郎	◇	岐阜県 土屋組
◇	栗東町日赤奉仕団	◇	大阪市 森田ポンプ工業株式会社
◇	甲賀地区農協婦人組織連絡協議会	◇	彦根市 奥山ポンプ商会
◇	八日市市農業協同組合	◇	高月シャーリング工業株式会社
◇	梶畑好春	◇	長浜市 文昌堂
◇	河本 嘉久蔵	◇	滋賀県市町村振興課長 中島 潔
◇	山田 耕太郎	◇	政治結社維新統一同志会 宮崎光喜 外7人
◇	野口 幸一	◇	滋賀相互銀行職員組合
◇	西田 八郎	◇	宇野 宗佑
◇	滋賀県知事	現金	県町村教委連絡協議会
◇	矢橋林業株式会社	◇	県公立学校施設整備会
◇	滋賀相互銀行	◇	県社会福祉協議会
◇	滋賀県議会議長会	◇	県共同募金会
◇	滋賀県農業共済組合連合会	◇	中日新聞本社
◇	滋賀県自然保護課長	◇	中日新聞社会事業団
		◇	近江八幡市立岡山小学校

種 別	寄 贈 者 氏 名 (または 団 体 名)	種 別	寄 贈 者 氏 名 (または 団 体 名)
現 物	近畿農政局湖北農業水利事業所長	現 金	県町村職員互助会
◇	山 下 元 利	◇	京都新聞社社長
◇	高月町 谷口印刷株式会社	◇	京都新聞社会福祉事業団理事長
◇	長浜市 材光工務店	◇	内閣総理大臣 鈴木 善 幸
◇	滋賀県議会土木警察常任委員会	◇	草津市役所部課長会
◇	力 寿 司	◇	日本社会党 滋賀県支部
◇	国鉄バス木之本営業所	◇	草津市 長 田 秀 雄
◇	日本電気株式会社 滋賀支店	◇	彦根市教員組合
◇	甲賀郡町村会事務局	◇	栗東町社会福祉協議会
◇	長浜市 滋賀工業株式会社	◇	彦根エルダークラブ
◇	高月町 浅 見 組	◇	県地域婦人団体連合会
◇	滋賀県教職員組合連合会	◇	野洲小学校PTA
◇	長浜市 小 林 実	◇	滋 賀 県 町 村 会
◇	草津市立 草津小学校長	◇	有限会社 魚信淡水 堀 口 信 行
現 物	草津市日赤奉仕団委員長 杉 田 ふ み	◇	桐畑好春後援会 小野吟左工門
現 金	自 民 党 県 連	◇	日本赤十字社 滋賀県支部
◇	草 津 市 長	◇	赤十字奉仕団 滋賀県支部委員会
◇	木之本ライオンズクラブ	◇	豪雪以外町村議会議員
◇	県市町村職員共済組合		
合 計	現 金 2,150,600円 (現物については各区へ配分)		

表4 - 7のとおり各地から贈られた善意の救援物資は、各集落へ配分し、各戸へ配給されたが、見舞金総額2,150,600円は、余呉町社会福祉協議会へ350,000円、滋賀県職員協議会および同互助会から寄せられた見舞金60,000円は、余呉町職員協議会へ、野洲小学校PTAから寄せられた見舞金200,000円は、町内各小学校(4校)へ配分し、残る1,530,600円は、余呉町一般会計へ繰入れて、表4 - 8のとおり総額4,000,000円を豪雪対策交付金として各部落へ交付した。

各集落へ交付した豪雪対策交付金

表4-8 豪雪対策交付金配分表

字 名 区 分	均等割(40%)	戸 数 割(40%)	積 雪 割(20%)	計
坂 口	72,700 ^円	$57 \times \left(\frac{1 \text{戸当り}}{1,200} \right) = 68,400$ ^円	(孤立地区 70%) (一時孤立 30%)	141,000 ^円
下 余 呉	72,700	139	〃	240,000
中 之 郷	72,700	213	〃	328,000
八 戸	72,700	29	〃	108,000
川 並	72,700	87	〃	177,000
下 丹 生	72,700	36	〃	116,000
上 丹 生	72,700	120	〃	217,000
摺 墨	72,700	19	(1戸当り 2,100円)	39,900
菅 並	72,700	62	(〃)	130,200
小 原	72,700	9	(1戸当り 6,400円)	57,600
田 戸	72,700	8	(〃)	51,200
鷲 見	72,700	13	(〃)	83,200
文 室	72,700	41	〃	122,000
国 安	72,700	68	〃	154,000
東 野	72,700	106	〃	200,000
今 市	72,700	48	〃	130,000
新 堂	72,700	37	〃	117,000
池 原	72,700	48	〃	130,000
小 谷	72,700	54	〃	138,000
柳 ケ 瀬	72,700	37	〃	117,000
椿 坂	72,700	36	(1戸当り 2,100円)	75,600
中 河 内	72,700	58	(1戸当り 6,400円)	371,200
合 計	1,599,400	1,325	1,590,000	808,900
				4,000,000



県内の各地から寄せられた救援物資（生鮮野菜類）



今日もまた各地から送られてきた救援物資（生鮮野菜類）

第5章 今後の課題

5-1. 道路の除雪体制

国道ならびに県道の除雪は従来通り、滋賀県土木事務所において対応願うこととし、町道の除雪対制の基本は、町職員による直営方式で今後も実施して行きたい。

全面的な業者委託は経費面で直営と比較し大きな差が生じ、直営で十分対処できる年が多く、特別な豪雪の場合には不足分を業者委託とし、直営と業者委託を組み合わせればよい。除雪要員となった職員には、本来の職務に除雪作業がプラスされて、職務が過度になるきらいはあるが、道路状況に明るい町職員がこれにあたることにより、親切な作業ができ、住民が安心して、冬期間も通勤通学ができる。

除雪機械については、今回の豪雪を反省し参考として、現有の機械、タイヤドーザー3台、ロータリー除雪車1台、グレーザー1台、シープ1台の外に、大型ロータリー除雪車1台と、ダンプトラック1台は是非必要で、昭和56年度において購入する計画である。

5-2. 道路整備と消雪装置

当町は積雪量が多く、小型除雪機械では十分な対処ができないので、最近大型の機械を導入してきたが、人家中など道路巾員の狭いところではその威力が発揮できないのが実状である。幹線道路は早急に拡巾改良工事を促進し、終点部落には転向場を設置することにより、より効果を挙げる事ができる。

また豪雪時に、地下水による道路の消雪装置は抜群であったことにごんがみ、今後国道365号線の難所や、県道人家中の消雪装置を県に強く要望して行きたい。なお町道においても集落内については年次計画を樹て順次設置して行く方針である。しかし多雪地帯である中河内、椿坂の集落内については、流雪溝の利用効果が高いので、県に対し流雪溝の設置を要望している。

町南部の地下水の取水不可能な地区には、河川水による流雪溝あるいは消雪装置を検討し施工して行く計画である。



威力を発揮した消雪装置

資 料

—— 滋賀県等の雪害対策及び各市町村の被害状況等（抜粋） ——

- 〔1〕 県の主な雪害対策
- 〔2〕 国に対する緊急要望
- 〔3〕 激甚災害法および天災融資法の発動について
- 〔4〕 除雪支援状況
- 〔5〕 自衛隊災害派遣状況
- 〔6〕 防災関係機関のとした措置
- 〔7〕 被害概況
- 〔8〕 被害状況一覧表

1. 県の主な雪害対策

(1) 激甚災害法、天災融資法の適用について

今冬の異常豪雪による被害は、今後の融雪期ならびに調査の進捗に伴い一層深刻化が予想されるので、激甚災害法および天災融資法を早期に発動されるよう国土庁、自治省、国会、各政党等に強力にはたらきかけた。

(2) 市町村豪雪対策緊急資金の貸付について

市町村の除排雪対策等に関する経費について国等において、財源措置が講じられる見通しであるが、一時的に市町村の歳計現金が不足し、資金繰りに支障をきたすことが予想されるため、緊急に必要な短期貸付を2月10日に次のとおり実施した。

〈貸付市町〉 長浜市、山東町、伊吹町、米原町、浅井町、虎姫町、湖北町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町、マキノ町、今津町

〈貸付額〉 13市町×30,000千円＝390,000千円

(3) 豪雪被害に伴う特別融資の創設について

県内中小企業者には、生産活動の停止、売上の減少など大きな影響を与え、経営の安定に支障が生じているため、これら中小企業者を対象に特別資金を貸付けており（3月31日現在2,338百万円）、これとは別に政府系3金融機関についても、今回の豪雪の経済的社会的影響を勘案して、閣議により激甚災害の例に準じた災害融資に関する特別措置を発動して、16市町をその地域に指定した。

(4) 農業近代化資金のつなぎ融資および災害復旧事業の早期着工等について

被害農業者の経営再建を早急に図るため、「天災資金」「自作農資金」等の融通までの間、近代化資金のつなぎ融資を「55年冷夏災害」同様に取り扱う。また、現在農林水産業共同利用施設災害復旧事業の適用の申請をしているが、その適用をまって早期着工に努める。その他、ハウスの復旧や麦作に対しては、農業共済事業によって、共済組合から被害額に応じて共済金の交付が行われる。

(5) 自動車税の軽減について

今回の豪雪により、最低1ヶ月以上の期間、孤立状態に陥った地域に所在する自動車について、孤立期間に応じて自動車税の一部を軽減することを3月28日付、公布施行した。

(6) 市町村豪雪対策特別見舞金について

今回の豪雪に関して、市町村では多額の除排雪経費などを支出することとなり財政を圧迫していることに鑑み、総額150,000千円の特別見舞金を関係市町村に交付することとし、2月補正予算で予算措置を講じた。

(7) 母子家庭などの住宅復旧に対する対応について

①、母子寡婦福祉資金の住宅資金の貸付に9,000千円の予算措置を、及び②、老人世帯を含む低所得世帯に対して世帯更正資金の住宅資金の貸付に22,488千円の予算措置を、各々2月補正で行った。③、①～②いずれも貸付限度額750千円以内(全壊のみ900千円)、償還期限6年以内(据置6ヶ月)、貸付利率3%とする。

(8) 市町村道の除雪費等の助成について

雪寒地域内の指定路線の除雪費については、全額補助対象となるよう国に対して強力に要望しており、建設省でも昭和51年度豪雪時の特別助成を実施する方向で検討している。

(9) 国体関連施設の災害復旧について

第36回国民体育大会の柔剣道競技会場である今津勤労者体育センターが倒壊したため、早期に復旧し当初の計画どおり大会が開催できるようにする予定である。

(10) 当面する豪雪対策に関する財政措置(知事専決)について

①市町村豪雪対策緊急貸付資金	450,000千円	②豪雪特別対策費	152,600千円
③中小企業豪雪対策資金	62,500千円	④道路除雪費	3,354,900千円
		合 計	1,020,000千円

(11) 県の対応

月 日	事 題
1. 13	17時 滋賀県雪害対策本部を設置、第1回本部員会議を開催、情報の収集と当面の態勢を決定
14	本部長(知事)湖北地方の各市町を激励
15	第2回本部員会議、当面の対策を決定
16	第3回本部員会議、職員の各市町豪雪対策本部への派遣、応援隊の派遣を決定
17	国の各省庁へ緊急要望書を提出
20	国土庁の調査団来県 原国土庁長官を団長として、21日は現地を視察した。
21	本部長、自衛隊の湖北地方への災害派遣を要請
2. 13	長浜、今津両地方本部の警戒態勢を縮少
16	県本部の警戒態勢を縮少
3. 10	今津地方本部閉鎖、今津県事務所管内の応急対策は終了したと判断
4. 1	県本部、長浜地方本部を閉鎖、応急対策は終了したと判断
	この間連日被害情報、積雪状況の広報を行い、3回にわたり中間報告を行った。

2. 国に対する緊急要望

1. 激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律の適用について（国土庁）

現在のところ、被害を確実に把握することは不可能ですが、今後の状況によっては、公共施設災害復旧事業の事業費がかさむことが予想されるので、激甚災害の指定について検討していただきたい。

2. 特別交付税の交付要望について（自治省）

地域住民の生活を守るため、除雪等について県、関係市町は全力をあげているが、その経費が多額にのぼっており、県、市町村の財政運営に支障をきたすので特別交付税の交付について配慮していただきたい。

（参考）1. 除雪経費の見込額（概算）単位：百万円

区 分	県 分	市町村分	計
所要見込額	250	450	700
通常所要額	70	60	130
今豪雪による所要額	180	390	570
54年度特別交付税額	2,107	4,521	6,628

2. その他の経費

学校施設等公共施設の復旧費、災害応急対策費等が多額にのぼる見込である。

3. 公共文教施設の雪害に対する助成について（文部省）

今回の豪雪で、学校施設を守るための努力を続けているが、すでに湖北の3小学校体育館が倒壊しており、今後も被害の増加が予想されるので、国庫補助事業の採択、除雪に対する国庫補助措置について格別の配慮をお願いしたい。

（参考）倒壊体育館

浅井東小学校、速水小学校、長浜南郷里小学校

4. 除雪費の増額について（建設省）

本県北部を中心に降り続けている豪雪は、北部地域のほとんどの市町で積雪量が2メートルを超えており、特に余呉町中河内地区においては5.6メートルを記録するなど、彦根气象台開設以来の積雪量となっている。これらの除雪、排雪等の作業に要する経費が多額に及んでおりますので、除雪費等の大幅な増額を要望します。

5. 社会福祉施設に対する措置費の除雪費加算および修理費の特別助成について（厚生省）

被災地域における社会福祉施設（収容施設、保育所）の防護については、一部県職員および関係団体の協力を得て屋根の雪おろし等除雪、排雪に努めていますが、除雪経費がかさんでいるので、措置費において除雪費加算措置を講じていただきたい。また、修理経費についても併せて助成をお願いします。

6. 豪雪被害に対する天災融資法の適用等について（農林水産省）

今回の豪雪により、農業者の営農および生活に大きな影響を与えるので、天災融資法の適用と、本県を同法第2条第5項による特別被害地域を指定できる県として指定していただきたい。

また、各種制度資金の既貸付金について償還期限の延長等、融資条件の緩和措置、自作農維持資金（災害）の融資わくの拡大と貸付限度額の引上げ措置を講じていただきたい。

7. 林木被害に対する激甚災害地の指定について（農林水産省）

豪雪による林木の倒伏、折損等に対し、造林補助事業実施要領に基づく激甚災害地として指定し、高率補助を適用していただきたい。

8. 中小企業に対する各種制度融資について（通商産業省）

1. 中小企業金融公庫、国民金融公庫および商工組合中央金庫による災害貸付について、激甚災害貸付なみの低利率の貸付と融資わくの増額措置をお願いしたい。

なお、既往融資についても償還延長を行う等、貸付条件の弾力的な運用措置がとれるようお願いしたい。

2. 中小企業高度化事業により建設した工場等の施設が損壊したものについては、高度化資金貸付金の最終償還期限の延長など貸付条件の変更をお願いしたい。

9. 中小企業者、農林業者に対する税の減免および徴収猶予措置について（国税庁）

今回の豪雪で被害を受けた中小企業者に対し、法人税、所得税等国税の減免と徴収猶予等の措置を講じていただきたい。

10. 普通地方交付税の算定に用いる積雪級地の引上げおよび豪雪地帯の指定基準の見直しについて（国土庁・自治省）

普通地方交付税の算定に用いる積雪級地については、近年の市町村の気象状況、積雪量からみて実態にあわない面があり、また、豪雪地帯対策特別措置法に定める指定基準の算定は、過去20年の観測値によっているが、この指定基準についても見直しをお願いしたい。

3. 激甚災害法および天災融資法の発動について

今年の豪雪および低温等による被害は、農業用施設被害をはじめ、麦、茶、果樹等の被害を中心に、県下で1,012百万円となっている。

全国的には、農林業あわせて1,909億円にのぼるため、これら被害農林業者の救済のため、天災融資法および激甚災害法の発動が4月14日閣議決定され、17日に施行された。（昭和56年4月17日政令第132号）

したがって本県では、天災融資法および激甚災害法第6条の規定の適用を受けることとなった。なお、天災融資法の適用については、農産物の被害が比較的軽微なため、特別被害地域の指定はなく、一般地域なみの5.05%の資金の融通となる。

また、農業協同組合所有の共同利用施設（育苗施設、ライスセンター等）については、激甚災害法第6条の規定に基づき農林水産業共同利用施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律による補助率が、一般災害の（査定額が10万円以上）場合の補助率20%から、激甚災害の場合（その他地域）の補助率30～50%に引き上げられることとなった。

森林災害復旧事業についても、今回、激甚災害法第11条の2に森林災害復旧事業が加えられたことにより、森林被害額15百万円以上、災害復旧面積90ha以上の市町村においては、森林災害復旧事業、その他森林総合整備地域の指定を受けた地域にあつては、森林総合整備事業、さらに一般造林事業、単県造林事業で復旧を図ることとなった。

4. 除雪支援状況

(1) 県職員による支援状況（派遣先別）

	1/16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	2/3	計
余呉町			25	25	26	26											102
木之本町				13	28							25			48	43	157
伊吹町			11	10	16	15											52
高月町			10	10													20
西浅井町	8	28	29														65
浅井町					2												2
長浜市			31														31
マキノ町																	
計	8	28	106	58	72	41						25			48	43	429

※1. 主な支援内容は、公共建物等の除雪作業

2. 県雪害対策本部（人事班）が取扱った分のみ

3. 教職員の派遣も含む

(2) 市職員による支援状況（派遣先別）

	1/21	22	23	24	26	27	28	29	30	2/3	計
余呉町	草津32	野洲10 草津32	野洲10 町村会 3		中主 5 石部 5	中主等 5 石部 5		守山24	守山24		155
木之本町							大津20	近江八幡 25 粟東10	水口10 甲西17		82
西浅井町								八日市21	八日市22		43
マキノ町				志賀12	志賀 2	志賀 2		志賀 2			18
計	32	42	13	12	12	12	20	82	73		298

(3) その他団体による支援状況

木之本町 滋賀県青年団体連合会他 1 団体45人
 余呉町 彦根市建築総合組合他 4 団体 84人
 伊吹町 自治労滋賀県本部 21人

5. 自衛隊災害派遣状況

(要請依頼者)	(要請日時)	(派遣理由)	(派遣場所)	(出勤人員)	(装備・機材等)
多賀町長	1/14 11:05	緊急患者輸送	犬上郡多賀町保月	34	ヘリコプター 4 機、車輛 2 台
余呉町長	1/15 13:05	〃	伊香郡余呉町中河内	8	ヘリコプター 1 機、車輛 1 台
余呉町長	1/17 04:30	緊急物資輸送	〃 鷺見	8	ヘリコプター 3 機
木之本町長	1/17 13:05	緊急患者輸送	伊香郡木之本町杉野	12	ヘリコプター 1 機、車輛 1 台
木之本町長	1/18 11:00	〃	〃 金居原	6	ヘリコプター 1 機、車輛 1 台
余呉町長	1/21 09:45	緊急物資輸送	伊香郡余呉町中河内	6	ヘリコプター 2 機、車輛 1 台
余呉町長	1/24 09:45	緊急患者輸送	〃	5	ヘリコプター 1 機
余呉町長	1/24 14:00	緊急医療器具陸路輸送	〃	20	車輛 3 台
余呉町長	1/24 20:00	緊急患者輸送	〃	48	車輛 6 台
知事・木之本町長	1/21 07:48	道路 開削	伊香郡余呉町木之本町	3,661	ドーザー等重機343台 車輛458台
高月町長	1/22 14:00	道路 開削	伊香郡高月町	106	除雪用重機 2 台、車輛 2 台
合 計	要請回数 11回			3,914	ヘリコプター13機 車輛485台、重機類345台

6. 防災関係機関のとした措置

機 関 名	具体的措置と特徴的な被害
長 浜 市	<p>1月13日～3月23日、豪雪対策本部の設置。</p> <p>国、県に対する財政援助の要望を行う。</p> <p>特記すべき災害：1月18日早朝南郷里小学校の体育館倒壊。</p>
浅 井 町	<p>1月13日～3月31日の間、豪雪対策本部を設置した。これは除雪班、被害調査班、流通対策班、生活環境班、消防救急班、施設対策班、教育対策班、福祉対策班で構成し、それぞれの任務に町職員、消防団員をつけ、応急対策に当たった。</p> <p>特記すべき災害：東小学校体育館倒壊</p>
湖 北 町	<p>1月13日～2月2日の間、豪雪対策本部を設置し、応急対策に当たった。</p>
高 月 町	<p>1月13日～2月2日の間、豪雪対策本部を設置、町公共施設と独居老人宅等の除雪を行った。</p> <p>特記すべき災害：生活道路確保のため、河川へ除排雪したため、住家に床下浸水の被害を出した。</p>
余 呉 町	<p>1月11日～4月20日の間、豪雪対策本部を設置し、学校等教育保育施設の休校園措置、幹線道路の確保、医療対策、通勤対策を推進することを計画する。</p> <p>○孤立地区への対応</p> <p>自衛隊派遣により早期に孤立解消ができた。又、区長に対して定時の通話を行い、住民の状況をは握した。人員、物資の輸送についても、急患輸送4回、物資空輸2回、徒歩搬送2回を行った。電話・電気の途絶がなかったのは、電々公社、関西電力の努力の賜ものであった。</p> <p>○医療対策</p> <p>急患の発生については、区長から本部に連絡する旨を指示し、自衛隊の出動2件、その他3件であった。又医薬品についても輸送を行った。</p> <p>○その他</p> <p>公共建物、文教施設の除排雪、母子、生保、老人家庭への除排雪、火災等の防ぎよ等を行うと共に、雪崩に対して危険地付近に重機を配備するなどした。</p>
西 浅 井 町	<p>1月11日～3月31日の間、豪雪対策本部を設置、宿直員を5名として24時間体制で各集落からの被害報告に対応した。</p> <p>一人暮らしの老人については、名簿を作成し、除雪対策に当り、文教施設についても、</p>

西 浅 井 町	<p>その設計事務所と連絡をとり、耐積雪許容量をは握し、被害を未然に防止した。</p> <p>特記すべき被害：山中牧場の畜舎全壊、肉用牛348頭を直前に緊急避難させた。</p>																																										
長 浜 市 消 防 本 部	<p>○北郷里小学校体育館の除雪救援出動。</p> <p>○消防水利確保については、5個班を編成して1月12日～15日、1月24日～2月2日の間行った。</p> <p>○防火対象物権限者に消防設備、危険物施設に対する雪害予防対策に万全を期すよう指導した。</p> <p>○都市ガス、LPガス業者に雪害によるガス管の損傷、ガスボンベの転倒による事故防止に協力を要請し、広報活動を実施した。</p>																																										
東 浅 井 郡 消 防 本 部	<p>○雪で通行が困難なため、有線放送の利用と消防団関係への文書配布を行い、広報面に力を入れた。</p> <p>○1月7日から2月15日まで特別勤務体制をとり、職員は比較的積雪量の少ない地域の者が、非番公休を問わず本部待機、又日勤者の当直勤務を実施した。</p> <p>特記すべきこととしては、屋根の雪おろし作業中の人身事故等が多発する中で、幹線道路の降雪による交通渋滞、車輛の走行不能、困難地区への出動で救急出場1件あたりの所要時間は通常の3～5倍になったことである。</p>																																										
伊 香 郡 消 防 本 部	<p>○各町豪雪対策本部の設置と合せ、消防本部・署に雪害対策本部を設置、各町と連絡を密にする。</p> <p>○職員の本部待機員の増員を行い、防災広報に力点をおく。特にプロパンガスボンベの雪害事故について、注意喚起を行った。</p> <p>○公共建物の除雪作業を行い、自衛隊出動用のヘリポートを訓練場に設置した。</p> <p>○消火栓等の消防水利の点検と消防車、ポンプ等の日常整備を各団に指示する。</p>																																										
日 本 放 送 協 会 大 津 放 送 局	<p>ニュース、天気予報以外でも特別番組を組み、防災関係機関の活動状況、被害概況を放送した。又、積雪によるアンテナの破損が湖北の一般家庭で約2,000件発生したので、経費の安いUHF受信を推しようした。</p>																																										
日 本 国 有 鉄 道 金 沢 鉄 道 管 理 局 (米原～敦賀)	<p>北陸線全体として、1,429本の除排雪列車を運転、その走行は32,010kmとなった。又、下記の除雪要員の動員により最大限正常運転の確保につとめた。</p> <table border="1" data-bbox="475 1839 1393 2083"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>項 目</th> <th>職 員</th> <th>協 力 員</th> <th>自 衛 隊 ・ そ の 他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>37</td> <td></td> <td>147,229</td> <td>332,911</td> <td>50,074</td> <td>530,241(人)</td> </tr> <tr> <td>51</td> <td></td> <td>34,450</td> <td>138,568</td> <td>0</td> <td>173,018</td> </tr> <tr> <td>52</td> <td></td> <td>10,174</td> <td>36,018</td> <td>0</td> <td>46,192</td> </tr> <tr> <td>53</td> <td></td> <td>1,140</td> <td>3,323</td> <td>0</td> <td>4,463</td> </tr> <tr> <td>54</td> <td></td> <td>13,166</td> <td>42,856</td> <td>0</td> <td>56,022</td> </tr> <tr> <td>55</td> <td></td> <td>27,644</td> <td>116,633</td> <td>15,150</td> <td>159,427</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(金沢鉄道管理局全体)</p>	年 度	項 目	職 員	協 力 員	自 衛 隊 ・ そ の 他	計	37		147,229	332,911	50,074	530,241(人)	51		34,450	138,568	0	173,018	52		10,174	36,018	0	46,192	53		1,140	3,323	0	4,463	54		13,166	42,856	0	56,022	55		27,644	116,633	15,150	159,427
年 度	項 目	職 員	協 力 員	自 衛 隊 ・ そ の 他	計																																						
37		147,229	332,911	50,074	530,241(人)																																						
51		34,450	138,568	0	173,018																																						
52		10,174	36,018	0	46,192																																						
53		1,140	3,323	0	4,463																																						
54		13,166	42,856	0	56,022																																						
55		27,644	116,633	15,150	159,427																																						

大阪営林局	<p>1月9日、1月23日、3月10日の3度にわたり、被害状況のは握、国有林野事業の円滑な遂行と安全確保、地方公共団体との密接な連絡協調、および復旧対策を適切に講ずるよう指導し、又、本局職員を派遣し、雪害調査、雪害対策従事職員の激励を行った。</p>
建設省滋賀国道工事事務所	<p>雪害対策計画に基づき、車輛通行の安全を確保するため、4回にわたり161号線海津以北、8号線木之本以北の通行止措置を行うと共に、雪害機械をフル動員し、除雪に取り組んだ。</p>
日本道路公団 名古屋管理局	<p>高速道路内での事故防止のため、下記の点について広報を行った。</p> <p>○50km/hr速度規制 ○チェーン規制 ○一時閉鎖</p> <p>又、薬品散布、除雪は速度規制下において行った。</p>
日本電信電話公社 滋賀電気通信部	<p>被害の大半が架空ケーブルおよび、引込み家屋近辺であり、復旧に延1,700人を動員し、故障の大部分を当日に回復させると共に、第三者の事故防止のため、パトロールを実施した。また、雪崩の危険箇所に対ケーブル線を布設し、さらに電話交換機に携帯用発電機を事前に無人電話局に設置すると共に非常用無線機の出動準備を行った。</p> <p>1月30日から2月28日まで、通信部および今津、彦根、長浜、木之本の各局に雪害対策本部を設置、情報収集を行い、県雪害対策本部を日々情報を交換した。</p>
関西電力(株)滋賀支店	<p>被害発生予測、被害発生に伴ない執った措置は次のとおり、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 被害状況の早期は握、ならびに復旧計画の早期樹立 (2) 気象情報の早期収集、ならびに関係箇所への周知 (3) 関係箇所への連絡体制の確立、ならびに人員(社員、請負)のは握 (4) 動員(社員、請負)体制ならびに復旧体制の確立 (5) 復旧用資料、工具等の確保、ならびに輸送体制の樹立 (6) 復旧作業用車輛、資機材輸送用車輛の確保ならびに整備 (7) ヘリコプターによる資材空輸(2回) (8) 事業所の除雪(延104回)

7. 被害概況

第1号様式 災害確定報告

市町村名		滋賀県		区分		被害		区分		被害		都道府県災害対策本部	名称	
報告災害	55年12月 日	56年2月 日	の	非住家	公共建物	棟	156	公立文教施設	千円	780,308	災害設置町村名		名称	滋賀県雪害対策本部
					その他	棟	1,728	農林水産業施設	千円	388,294		設置	1月13日17時	
報告者名	56年豪雪による災害			田	流失・埋没	ha		公共土木施設	千円	475,655	災害設置町村名	解散	4月1日17時	
区分	被害				冠水	ha		その他の公共施設	千円	489,001		災害適用町村助法名	長浜市、山東町、伊吹町、米原町、近江町、浅井町、虎姫町、湖北町、びわ町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町、マキノ町、今津町、新旭町	
人的被害	死者	人	5	畑	流失・埋没	ha		小計	千円		災害適用町村助法名		計	
	行方不明者	人			冠水	ha		公共施設被害市町村数	団体	20		災害適用町村助法名	計	
自傷者	重傷	人	40	その他	文教施設	ヶ処	91	農産被害	千円	623,083	災害適用町村助法名		計	
	軽傷	人	51		病院	ヶ処	5		林産被害	千円		2,059,827	災害適用町村助法名	計
住家被害	全壊	棟	14	河川	道路	ヶ処	9	畜産被害		千円	2,317	災害適用町村助法名		計
		世帯	14		橋りょう	ヶ処	1		水産被害	千円	18,500		災害適用町村助法名	計
半壊	棟	人	28	港湾	砂防	ヶ処		商工被害		千円	1,072,130	災害適用町村助法名		計
		世帯	63		水道	ヶ処	78		その他	千円	64,302		消防職員出動延人数	576人
一部損壊	棟	人	174	清掃施設	ヶ処	5	被害総額	千円		5,973,417	消防団員出動延人数	13,633人		
		世帯	4,112		崖くずれ	ヶ処		23	備考	1. 災害発生場所 湖北地方 2. 災害発生年月日 3. 災害の種類概況 4. 消防機関の活動状況 5. その他				
人	3,900	鉄道不通	ヶ処		船舶被害	隻								
床上浸水	棟	人	15,864	通信被害		回線	1,700	ガードレール	m					15,939
		世帯			り災世帯数	世帯	77							
床下浸水	棟	人	558	り災者数		人	202							
		世帯	543											
人	2,221													

被害状況一覧表

(1) 被害数量

市町村別	人的被害			住家被害				非住家被害		その他被害			
	死者	重傷者	軽傷者	全壊	半壊	一部損域	床下浸水	公共建物	その他	文教施設	病院	道路	橋梁
長浜市		4	3	1		433	9		52	12			
山東町		2	3		5	220	4	14	99	3			
伊吹町		3	2		2	305		5	45	9			
米原町		3	1			147				7			
近江町		1	1			101	98	5	22	2			
浅井町	1	9	7	4	15	771	2	52	505	29			
虎姫町		1	2		1	122		1	85				
湖北町	2					217		9	128	5	1		
びわ町			2			76		2	16	1			
高月町		3	14		21	450	410	1	291	1			
木之本町		6	8	2	11	654	13	20	12	8		2	1
余呉町	1	5	7	7	10	357		29	305	6			
西浅井町		2				87	22	6	46	3	3	1	
他13町村	1	1	1			172		12	122	5	1		
市町村(計)	5	40	51	14	65	4,112	558	156	1,728	91	5	3	1
県管理分												6	
合計	5	40	51	14	65	4,112	558	156	1,728	91	5	9	1

市町村名	その他被害				り災者		災害対策本部設置状況		
	河川水道	清掃施設	がけ崩れ	ガードレール	世帯	人数	○印 基本法第23条	設置	閉鎖
長浜市		19		2,000	1	6	○長浜市豪雪対策本部	1.13	3.23
山東町				256	5	19	○山東町	〃	1.13 2.16
伊吹町				134	2	3	○伊吹町	〃	1.13 3.31
米原町				210			○米原町	〃	1.16 2.9
近江町				64			○近江町雪害対策本部	1.14	2.6
浅井町		13		1,300	18	45	○浅井町豪雪対策本部	1.13	3.31
虎姫町					1	3	○虎姫町	〃	1.14 2.2
湖北町		15	2	80			○湖北町	〃	1.13 2.2
びわ町				300			○びわ町	〃	1.14 2.17
高月町				340	21	52	○高月町	〃	1.13 3.31
木之本町				385	12	38	○木之本町	〃	1.8 3.31
余呉町			20	370	17	36	○余呉町	〃	1.11 4.20
西浅井町	1	6	5	246			○西浅井町	〃	1.11 3.31
他13町村		25	1	764			○マキノ町、今津町、新旭町		
市町村(計)	1	78	5	6,449m	77	202	○印 16団体		
県管理分	15			9,490m			滋賀県雪害対策本部	1.13	4.1
合計	16	78	5	15,939m	77	202			

(2) 被害金額

(単位：千円)

市町村別	公立文教施設	農林水産業施設	公共土木施設	その他の公共施設	そ の 他	
					農産被害	林産被害
長 浜 市	85,150	1,937	20,000	38,975	25,776	4,200
山 東 町	16,400	3,600	3,750	9,500	10,562	39,215
伊 吹 町	3,970	39,700	2,000	1,000	66,760	126,154
米 原 町	20,740	900	1,800		9,930	27,095
近 江 町	2,800	570	500	1,500	9,750	10,799
浅 井 町	139,570	82,237	10,600	10,550	32,054	111,480
虎 姫 町		20,120		3,500	28,328	
湖 北 町	121,028	23,700	800	5,200	67,002	4,990
び わ 町	780	1,315	2,200	360	48,034	
高 月 町	3,000	47,000	3,400	6,000	78,414	6,692
木之本町	138,942	36,190	19,100	99,410	63,200	123,880
余 呉 町	11,400	23,720	5,500	13,980	17,450	679,000
西浅井町	6,500	66,861	21,182	5,190	1,600	80,021
他13町村	7,260	40,444	8,480	227,930	164,223	846,301
市町村(計)	557,540	388,294	99,312	473,095	623,083	2,059,827
県管理分	222,768		376,343	15,906		
合 計	780,308	388,294	475,655	489,001	623,083	2,059,827

市町村名	そ の 他		そ の 他		被害総額	除雪費用 (道路のみ掲上)
	畜産被害	水産被害	商工被害	そ の 他		
長 浜 市			2,500	7,190	185,728	36,400
山 東 町			25,670	3,750	112,447	14,600
伊 吹 町			956,790	2,000	1,198,374	8,100
米 原 町				1,800	62,265	9,700
近 江 町			4,500		30,419	4,060
浅 井 町			20,500	29,450	436,441	13,700
虎 姫 町			5,000		56,948	12,900
湖 北 町			25,000		247,720	10,300
び わ 町				2,200	54,889	8,600
高 月 町			3,000		147,506	22,700
木之本町			7,000	5,000	492,722	19,200
余 呉 町		13,500	4,000		768,550	16,300
西浅井町	117			4,182	185,653	13,800
他13町村	2,200	5,000	18,170	8,730	1,378,738	55,951(李津市)
市町村(計)	2,317	18,500	1,072,130	64,302	5,358,400	246,311
県管理分					615,017	317,518
合 計	2,317	18,500	1,072,130	64,302	5,973,417	563,829

(3) 指定地方機関、指定公共機関、指定地方公共機関の被害（県内分）

機 関 名	被 害 の 概 要	被 害 額 (千円)	備 考(主な被害地など)
農林水産省大阪営林局 大津営林署 敦賀営林署	立木の折損等 308㎡ 立木の倒伏等 381ha 林地崩壊 0.45ha 林道路肩等 5ヶ所、建物1ヶ所	2,682 24,953 40,500 50,078 計 118,213	余呉町、木之本町、 マキノ町、今津町、 高島町、伊吹町、多賀町 土山町
建設省近畿地方建設局 滋賀国道工事事務所	防護棚損壊 600m	8,000	除雪費用等 256,500千円
日本国有鉄道 新幹線総局	県内分として分類することは困難 ○運休本数 26本		除雪費用 47,520千円 電車床下雪落費用 32,598千円
金沢鉄道管理局 名古屋 大阪	北陸本線米原以北 1月14日～16日 湖西線近江今津以北 1月11日～21日 東海道本線米原以东 1月14日～15日 全面運行規制		金鉄局全体で除雪費770百万円 施設修繕その他1,694百万円 の被害
日本放送協会 大津放送局	テレビ共同受信施設の アンテナ破損 幹線同軸ケーブルの切断 支柱の倒壊 など	約 4,500	一般家庭のアンテナ破損は湖 北で約2,000件発生した。
日本道路公団 名古屋管理局	彦根管内 各神 16回 62h15m 北陸 9回 75h20m 栗東管内 各神 11回 35h33m		雪氷対策費用として使用 彦根管内 517,000千円 栗東 56,000千円
日本電信電話公社 滋賀電気通信部	障害件数 1,700件 設備被害総額	87,900	彦根局、長浜局、今津局、 木之本局、
関西電力株式会社 滋賀支店	供給支障14回線(2,618戸の停電)		

豪雪に泣く

— 広報 No65 余 呉 豪雪特集より —

昭和56年 月 日 発行

音もなく降り続いた雪

家も野山も無差別に襲い

生活をも狂わせてしまった

毎日毎夜、老若男女問わず

屋根の雪おろし

捨てても、捨てても無気味

に降り積もる雪に疲れをい

やすいとまがない

二度とこんな思いはしたく

ない

誰もが感じたことだろう

今、孤立地区四集落

春はまだまだ遠い……………



魔の七日間

‘雲定め、’という言葉がある。現在はテレビの天気予報で概要を知ることができる。しかし、それ以前の気象状況は永年にわたって言われ、また、体験されてきた雲の流れを見て天候を判断する材料にしてきたのである。私たちも古老からよく話を聞いた。

旧暦10月20日と言えば大体11月中下旬である。この日を‘雲定め、’と言って、冬を前にして最も重視する。この頃は大概北西の風が吹き、時雨れるのが山沿いの天気であり、雨の多い時は雪も早いと言われる。人によってはこの日の午前中の雲で定まると言い、また 午後の雲だとも言う。

気象学的な事は知らないが、いつの年でも同じで、この日は種々の雲（方角的に）が出る。この中に南の雲が出ると（少なくとも出勝つと）今年の様な大雪になるおそれがあると言われている。

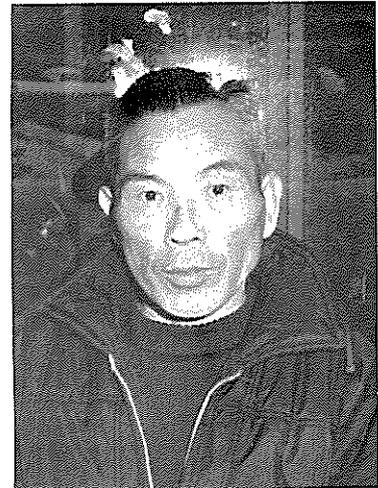
橋詰さん夫婦（75歳・69歳）は明日早朝、高月町まで下って越冬することになっており、既に必要な物は全部持って行ってある。また、山口さんも母（83歳）を同時に上丹生まで連れて出る準備をし、奥さんと共に越冬させ、自分は区長の立場上、家に残る計画であった。

深夜、雷鳴があった。朝になって約1mの積雪。31日までの5日間に2mをはるかに越して大雪の気配。初詣でも神社を掘り出して屋根下をくぐって参拝する程。年が明けて10日までは小康状態が続いたが、毎日の除雪。当区で越冬を決めていたのは、区長の山口さんと久保吉郎さん夫婦の3人だけ。私夫婦と瀬川さんは一度屋根雪をおろしてから中之郷地先へ下りる予定でいたのである。

魔の豪雪は、その直後雷鳴と共にやってきた。雷は西風と南風の同時に出る時に発生すると古老は言う。その通り西寄りの雲を縫う様に南の雲が走る。‘柔かきこと綿の如く、細かきこと粉の如く、乾き切った雪はたちまち視界をさえぎり、無気味に積る。鷺見川に沿って並ぶ集落は何も見えない。

私や久保さんの家は、裏が山である。アワ（表層雪崩）で山に面した屋根は埋まり、鷺見川もアワの為埋まり水は使えない。本流でさえ山々から来るアワの為、水の流れは見えないのである。万一の危険は充分ある。

過去にも人身事故はなかったが、家屋被害の記録がある。昭和11年の土倉鉦山社宅を襲ったと言うアワ、同じく20年に鷺見一田戸間で発生したアワは30年生杉をことごとく伐った様に中間から折り、川を渡り対岸の山を越え、その爪跡の悲惨さは形容出来なかった。雪解け後、川石が山まで吹き上げられており、二百キロもある石が道路まで持ち上げられていた事を覚えている。こんなアワ雪が11日早朝より降りしきった。毎朝70~100cm近くの雪が降っている。前日の除雪も朝になると何をしたのかわからない。遂に水道の水も出が鈍くなった。



鷺見 谷口長三さん

こんな中で区長は、越冬を決めている3人分の物資を極力節約して7人に分配し、水も必要分だけを汲み、後は使わない様指示、風呂も毎日の除雪で疲れていても2日に1回、それも一箇所共同入浴する様細部にわたって心を砕いた。

15日の朝は前夜からの降雪120cm、総積雪量は遂に5m80cmに及ぶ。区長は全員を集めた。区長宅までは、私や久保さんの家から約150mの距離だが、腰まで埋まる雪にカンジキをはいて約15分もかかり、ようやく集合する有様。異常事態に対する区長の相談に全員は町に対して救援措置を要請し、天候の回復を待つ事にした。

区長からのSOSを受けて町対策本部は自衛隊の応援を得て緊急救援物資の空輸という措置を構じてくださったのは、時々雪の吹き荒ぶ決して天候状態が良いとは言えない17日午前9時～10時の間であった。各方面から寄せられたご援助と町対策本部の方々の日夜のご奔走によって危急を脱し得る事が出来、ただただ感謝の念で一ぱいです。心からお礼申し上げます。

それにしても、生活の為とは言いながら、職場の都合もあってやむを得ず冬場は家を空けねばならぬ人が多く、今年の様にそのほとんどんが雪の被害にあっている。来年は雪が少ないと言う保証はない。平地の借家と驚見の住家との二重負担にいつまで堪えられるのか、同じ事は田戸や小原にも言える。これが宿命とは言えない集落の事情が底辺に渦巻いている。これを解決する道を探るのが宿命と言うものだろうか……………。

明けても暮れても雪との闘い

今年は暮れのうちから予想もしなかった大雪に見舞われ、明けても暮れても雪とのたたかいでした。主人と子どもを送り出してから留守をあずかる私の日課が始まる。

向う先が見えないくらいすごい勢いで降りしきる。時折大粒のあられ雪、ほた雪、手を替え品を替えて降ってくる。見る見るうちに家も道も雪の山。

私のところは、お陰さまで川が近い。スノーカーで投げるが、捨てても捨てても減り目が見つからない。そうこうしている間に聞こえるものは、木の折れる音、屋根雪のずり落ちる音。隣りとの間が孤立してしまうのではなからうか。気ばかりあせる。屋根に上れば、朝きれいにあけた道が一ぱいの雪。道をあけていけば屋根が一ぱい。家に入れば窓から明りが入らない。早く雪を投げなくては一生懸命スノーカーを引っぱる。おろした雪は固くスコップの先がささりにくい。



文室 新沼こなみさん

昭和20年、学徒動員中のことを思い出した。名古屋から富山へ移動した時、二階のひさしまである雪を鋸で切り出して投げている姿を思い出し、私もやってみた。なるほど簡単に切れ、スコップでこじればスノーカーで引き出せ能率があがる。

だが、新聞はこない。有線放送の線は切れる。除雪車も上ってこない。一時はどうなることかと心さびし

日々でしたが、町役場の方々のお骨折りで在所の中も除雪していただき感謝しております。お陰さまで車も通り、普段と変わらない生活にもどれました。雪の中で育ったふきのとうも元気に顔をのぞかせてきました。春よ来い、早く来いの今日この頃の心境です。

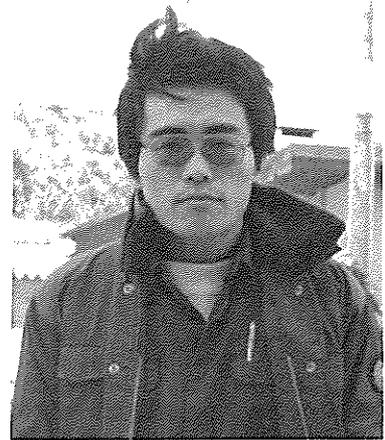
嗚呼 今日も雪

「よう降りますナー」「ほんま、こんな雪ははじめてや。いつになったらあかるんやろ…………。」

道ゆく人のこんな会話が松の内のあいさつとなった。

昨年暮れから降り続いた雪は1月中旬をピークに、私たちに語ることの出来ぬ労苦と拭い難い不安をもたらした。

私の職場、伊香消防署にも急病人、除雪作業中の負傷者、交通事故の傷者の搬送から往診の医師派遣まで、たび重なる救急車の要請に対策本部が設置された。私たちは連日の救急の対応、消防車の機関整備、除雪にと忙しい。



八戸 桐畑幸成さん

幹線道路の除雪はされているとは言え、末端道路まで救急車の進入は出来ず、担架に頼ることが多くなる。人ひとりがやっと通れるだけの馬の背のような踏みしめ道を数人がかりで救急車に収容する。普段の数倍の時間を費やす救急に隊員も患者もいらだつ。

降りしきる雪に除雪も追いつかず孤立する地区も出た。健康な者でさえ、積雪荷重を考え就寝中と言えども、家のキシム音に不安感を覚え、止むことなく降る雪に精神的な圧迫が身を包むと言う。病弱な人を抱えた家族や独居老人の人たちの心配はどれ程であろうか計り知れない。

こうした日々を送る一方、私たちの脳裏には火災に対する不安がよぎり、胸底にはかかる不安が日増しに高まった。

“平均的な木造家屋では出火から八分間で全焼する”と一般に言われている。「道路の除雪は?」「消防水利は?」孤立地区は言うに及ばず、孤立していない地区すら水利条件は悪く、道路状態も充分でないことは容易に予想され、大火の発生も危惧される。万一火災が発生したらと考えると空恐しささえ感じる日々でもあった。

こうした中で消防団の人たちの活躍は目ざましく、昼は職場、帰れば自宅の除雪と重なる疲労もいとわず、地区内の水利の確保、独居老人家庭の除雪、生活道路の確保と次々に展開され、とどまるところを知らない。ひとくちに水利の確保と言ってもこれには想像を絶する辛苦がある。夏期には使用可能なものも冬期には不能になる。農業用水は雪に埋もれ、貯水槽は凍結する。除雪の出来ていない道路上の消火栓は身の丈より深い雪の下。掘り出すだけでも数時間、やっと確保した水利も降り積もる雪に跡形もなく再び埋もれてしまう。除雪、除雪の繰り返し、それでもはく息も白く、額に汗にじませてスコップを使う。この熱意には思わず頭が下り、時として失いそうになる私たちの闘志を奮い立たせてくれる。

『地球氷河期時代来る？アメリカセントヘレンズ火山の大噴火、成層圏に達した火山灰が太陽光線をさえぎり地上に冷夏、極寒、豪雪をもたらしていると言う。だが、その原因はさだかでない』

この厚い雪の下には春を待ち、脈々と生きつづける草木がある。この草木にも似て、湖北人特有のねばりで雪の中の日々を送る。

“冬来りなば春遠からじ”と言うけれど、嗚呼、今日も雪。

雪、もういない

立春とはいえ、四方を巨大な雪壁にすっぽり囲まれ、大自然の冷蔵庫の中に生活している私たちに春はまだ遠い感がある。

今冬の豪雪は思い起こしてもソツとする。明けても暮れても音もなくただ降り積る雪に精一ぱい立ち向っての戦いが連続の日々でした。

明りの取れない家の中は、真暗で無気味である。‘ドシツ、と雪の落ちる音さえ私をおびえさせる。眠れぬままに38年の豪雪を思い出してみる。あの時生後十ヶ月の長男を背にがむしゃやに頑張って主人の留守を守ったものです。

あれから18年、毎年雪は降り、雪には慣れてはいるものの、予期せぬ大雪にあの時の様な頑張りも続かない。腕は痛いし、足腰は冷えてとてもつらい。子供の手が離れて毎日の生活の怠慢や自分の甘えが、この冬はいやとばかり身にしみる。

‘私はカタツムリになりたい。家共にどこか雪のない所へ行って暮したい、と虫のいい逃避さえ感じる。そんな時、私を気づかって再三電話をくれる夫や長男の声に「大丈夫よ」と意気込んでみる。

唯一の生活道路が絶たれて数日、いよいよ住民のいら立ちが目立ってくる。もうスコップ持つ手もくたびれてくる。そんな矢先、自衛隊の皆さんによる救援活動で道路の除雪をしていただき、こんな嬉しい事はない。私たちの小さな力ではどうする事も出来なかった。これで孤立から解放されると思えば、たき出しのおにぎり一つ一つに力が入ってしまう。大勢の隊員さんが口々に「うまい、うまい」と言って食べてくれる。漬物一切れにさえ「おばさん、うまいよ」と言ってくれた若い隊員さん本当にありがとう。

この荒廃ぎみの世の中に、私たち雪国ぐらしの苦しみや痛みが少しでも分かち合える人たちが世間にはたくさんおられる。救援物資としていただいた大根を手に、ほのかなぬくもりさえ感じ、この善意に深く感謝しながら、もう二度とこんな事のない様祈りたい気持ちです。



菅並 磯野光代さん

労苦をいとわぬ雪国根性で

正月明けて、いよいよ三学期。積雪のため2日間山開センターで待機。ようやく9日になって上ることになった。(私達は、中河内へ行くことを上るといふ。)役場前から見る北の空は、真っ黒の雪雲におおわれて何か不気味な感じがした。ようやくにして中河内小学校に到着。いよいよ今日から雪との闘いである。

余呉に生まれ育ち、大学時代を除いて家を離れたことのない私には、雪を相手の生活は毎年のこと。冬に、又、雪に対する不安とか恐怖感はありませんでしたが、今回のような体験は初めてのことであった。

小やみなくしんしんと降り積もる雪。山から吹きおろす風は、新雪を巻き上げ物凄い音をたてて唸り狂う。一時は音信も跡絶え、雪室(むろ)生活が幾日と続く。



中河内 三国弘子さん

この雪との闘いが春まで続くかもしれない、そう思うと何か心細い気持ちになってきた。心細いというのは、これからの児童の健康管理の問題である。ご存知のように中河内では病気になってすぐ「医者」へというわけにはいかない。日頃から保健指導には充分意を注いでいるが、もしこの豪雪中に病人でも出したら、集団風邪でも出したらと、それが一番の悩みであり、又心配でもあった。とくにこういう時は、自然と口数も少なくなりがちだが、いつでも気持ちだけは明るく持つよう心がけてきた。幸い全員元気に冬を乗りきれそうで、ほっと安心している今日この頃である。私達にとって一番頼りになるのは、やはり健康な身体だと思う。

物資の救援活動をはじめ、地元の皆さんには多くのご協力を載せ、また厳しさに耐え、労苦をいとわぬ雪国根性で、決して甘えてはいけないと家族からの電話の励ましもあり、どうにか3月の声を聞くまでになってきた。

天候もようやく落ち着いたが、窓の外にはまだ身の丈余の雪が残っている。中河内の春は、まだまだ先のようにです。

写真でみる

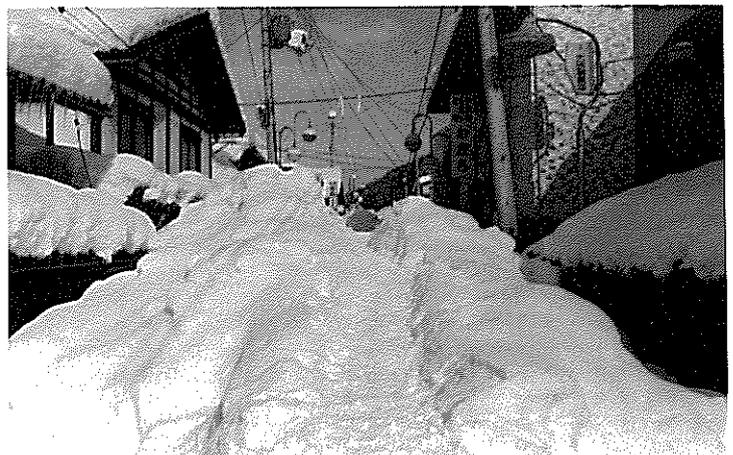
豪雪記録



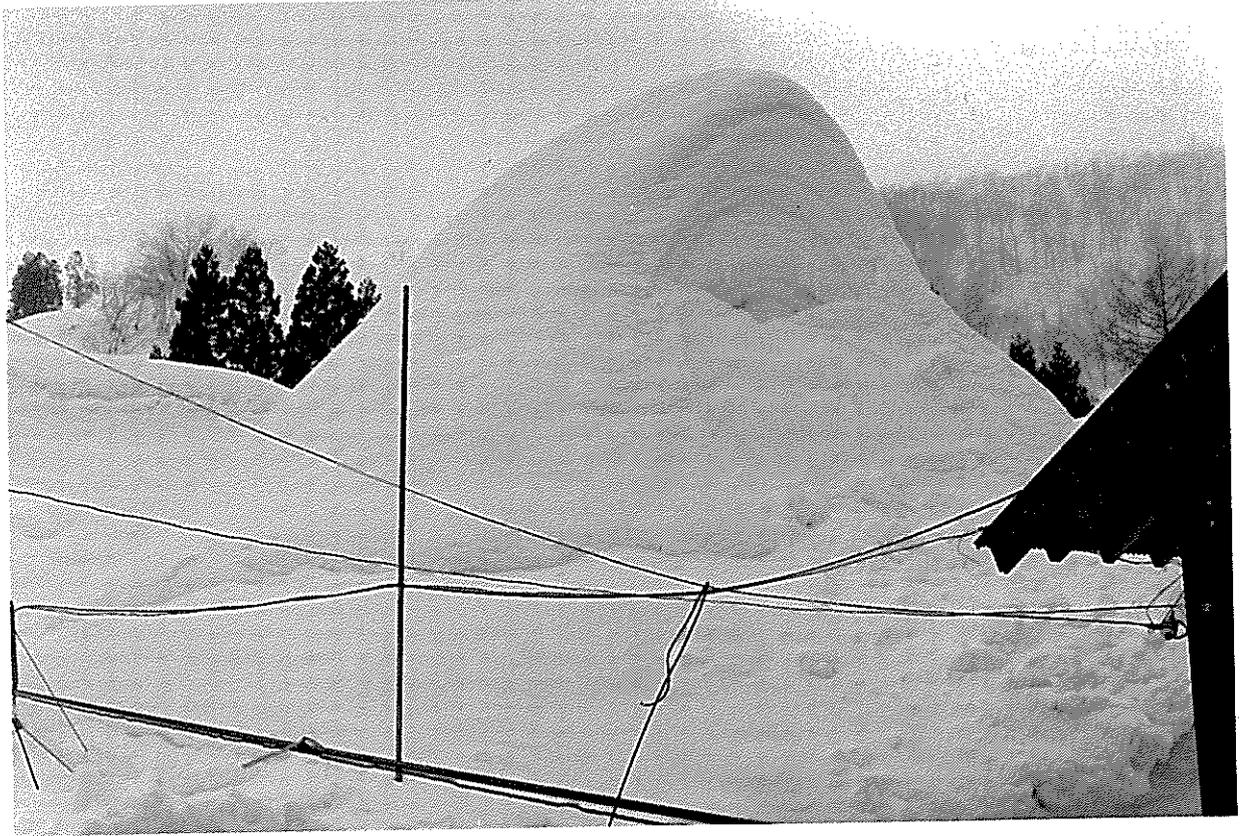
いつになったら融けるやら (1月22日菅並地区) 孤立解消のメドたらず



テレビ共聴ケーブルもくぐるのがやっと



屋根雪は落したが、この雪をどう処理するか (1月18日中之郷商店街で)



この雪の下にカヤ葺きの家がメキッ、メキッと時おり
音を立てゝいた。(1月26日 中河内地区にて)



雪の洞寿院山門 (1月20日)



鷺見に残った人達も、人手不足のため人の住まない
家屋までは手がまわらなかった。鷺見にて（1月24日）



雪の重みで壊れていく民家 鷺見にて（1月24日）



久しぶりの晴れ間を見た中河内地区



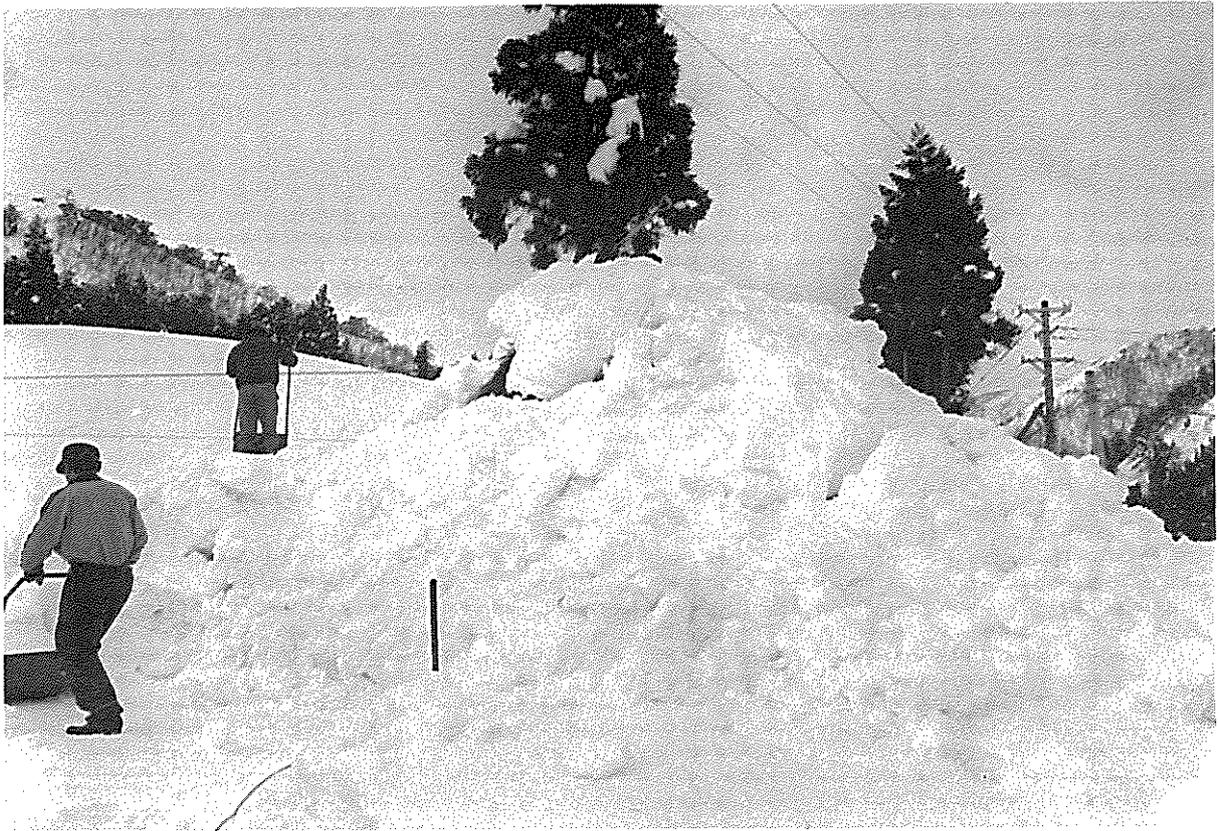
久しぶりの晴れ間にホッと一息 被害状況を見廻る住民 (1月24日)



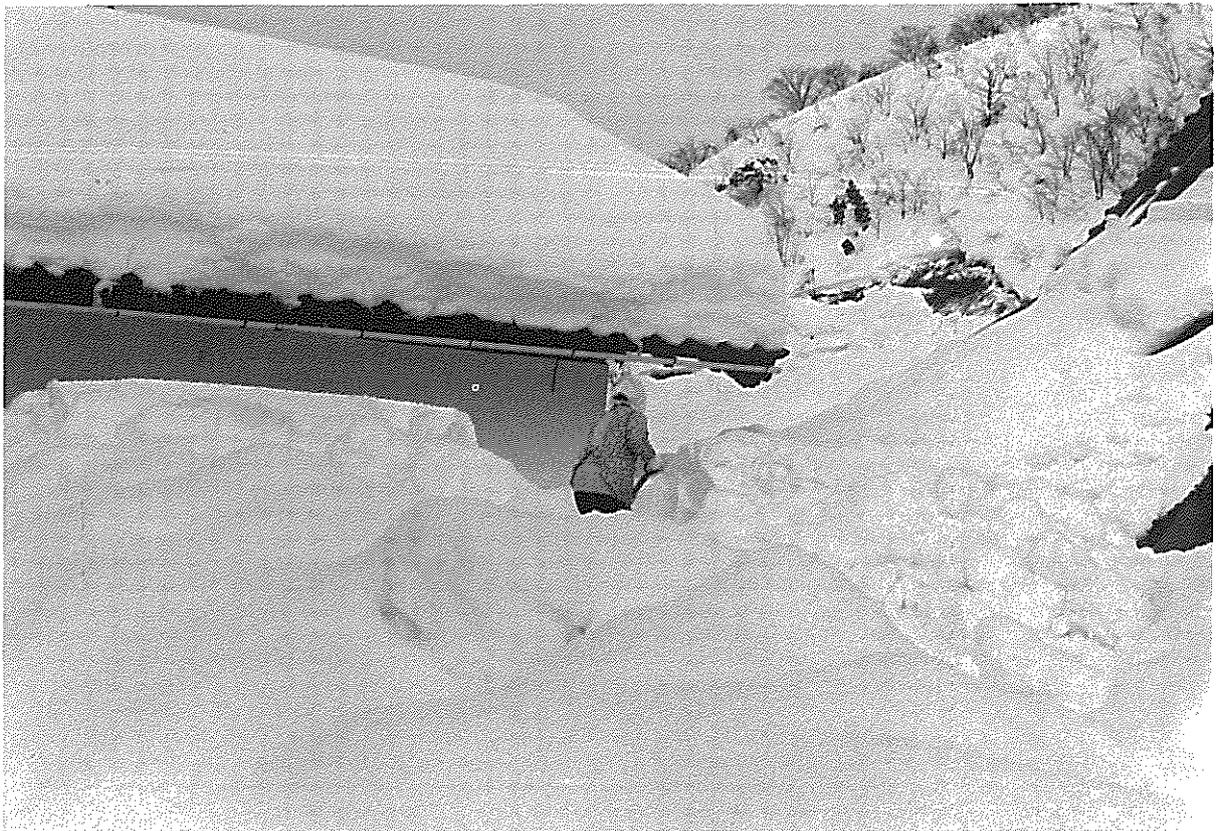
次に降る雪に備えて家の外周を掘り出し、やれやれ
ちょっと一ぶく（1月9日管並にて）



小型除雪機屋根へ登る（1月9日椿坂にて）



屋根雪の処理は先づ外周から……



次に降る雪を考慮して毎日毎日雪との闘いであった



2階の屋根までとどいていた雪を排雪して、やっと2階の窓が露出したところ（1月18日中河内小学校にて、3回目のPTAの奉仕作業）



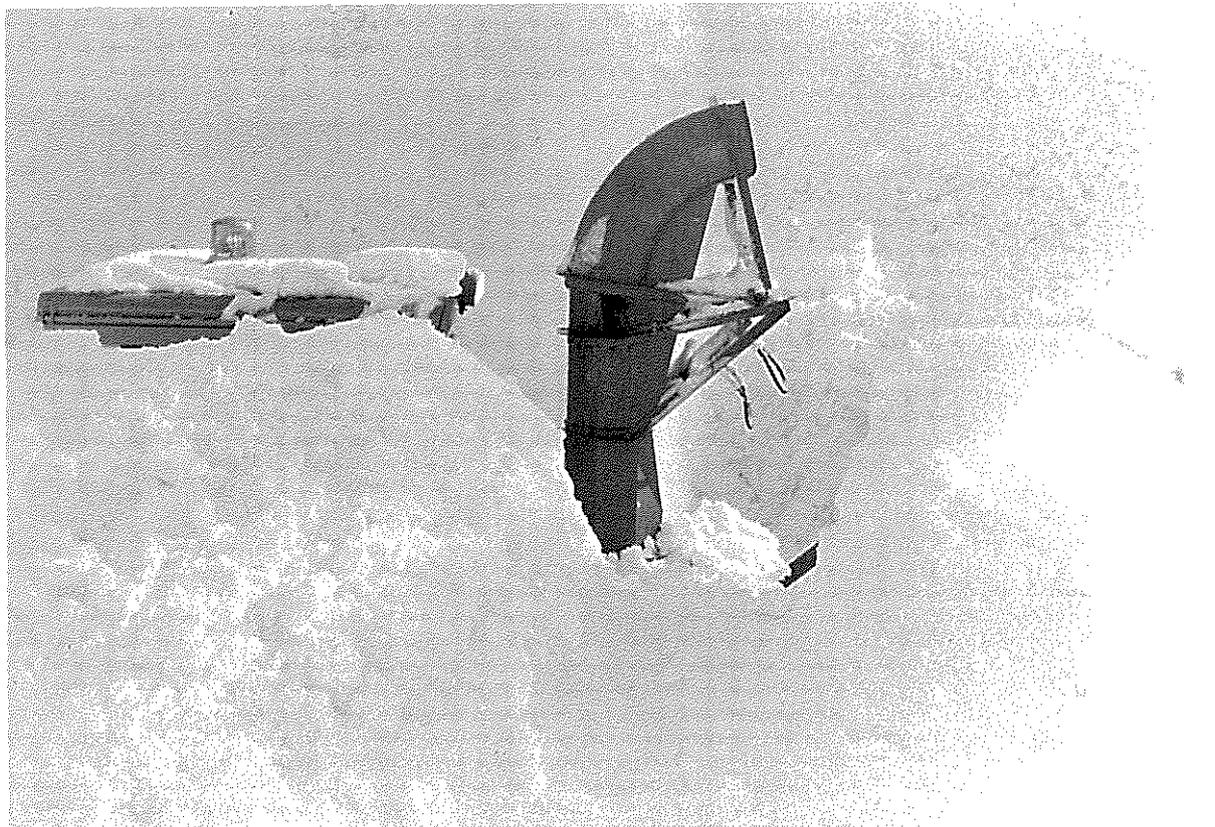
どこまでが屋根か平地か区分し難い体育館
（1月18日中河内小学校にて、3回目のPTA奉仕作業）



雪に没した稚蚕共同飼育所（1月14日今市で積雪 2.9m）



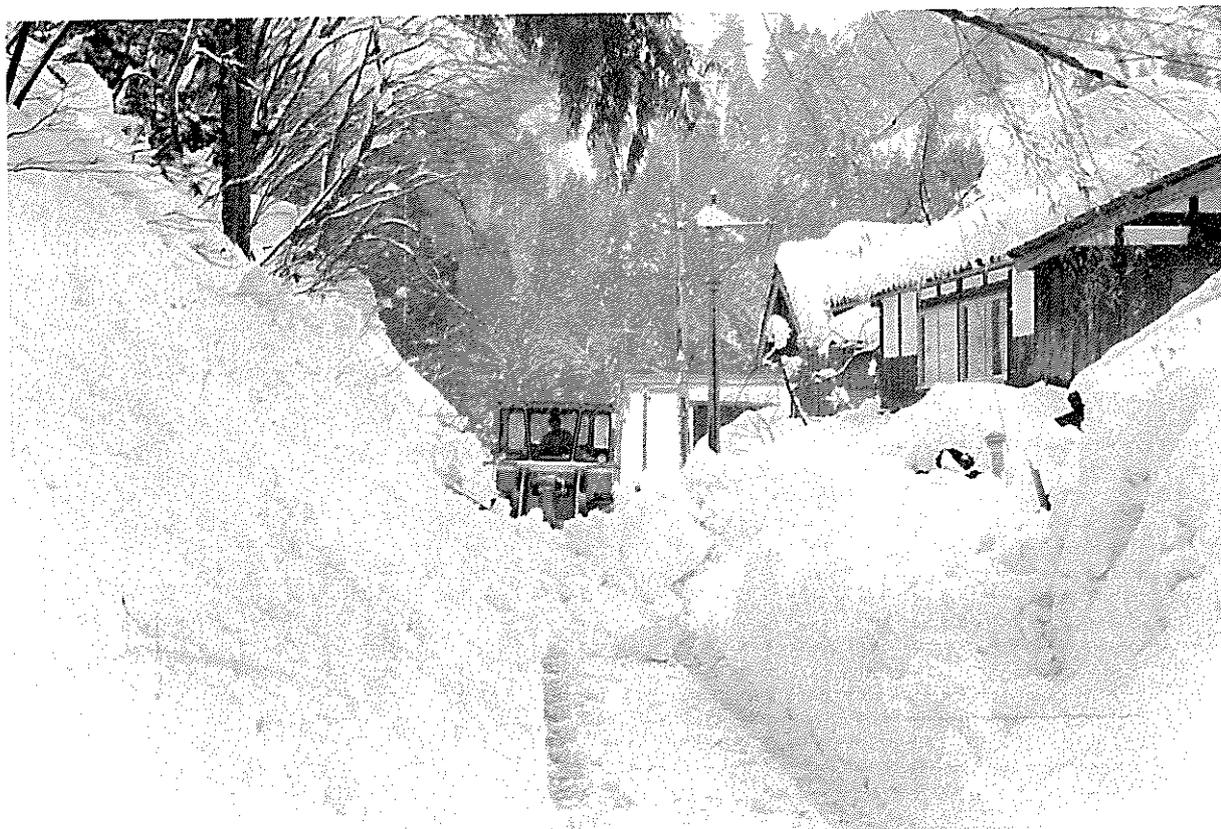
国道除雪に威力を発揮した自衛隊の特車
（1月24日国道365号線 樺坂北部にて）



雪の壁によりロータリー車からの排雪も限度いっぱい。
(1月10日摺墨にて)



ブルドーザーにより、先づ雪の壁破りから
(国道365号線 樺坂北部にて)



一方は山、一方は住宅で雪のやり場に一苦勞（摺墨にて）



雪の壁の中での除雪はキャタピラが威力を発揮した。
（タイヤドーザーでは雪の上を乗って行けない）



政府調査団の現地調査 1月21日柳ヶ瀬にて
(中央 西山町長 右 武村知事 その右 原国土庁長官)



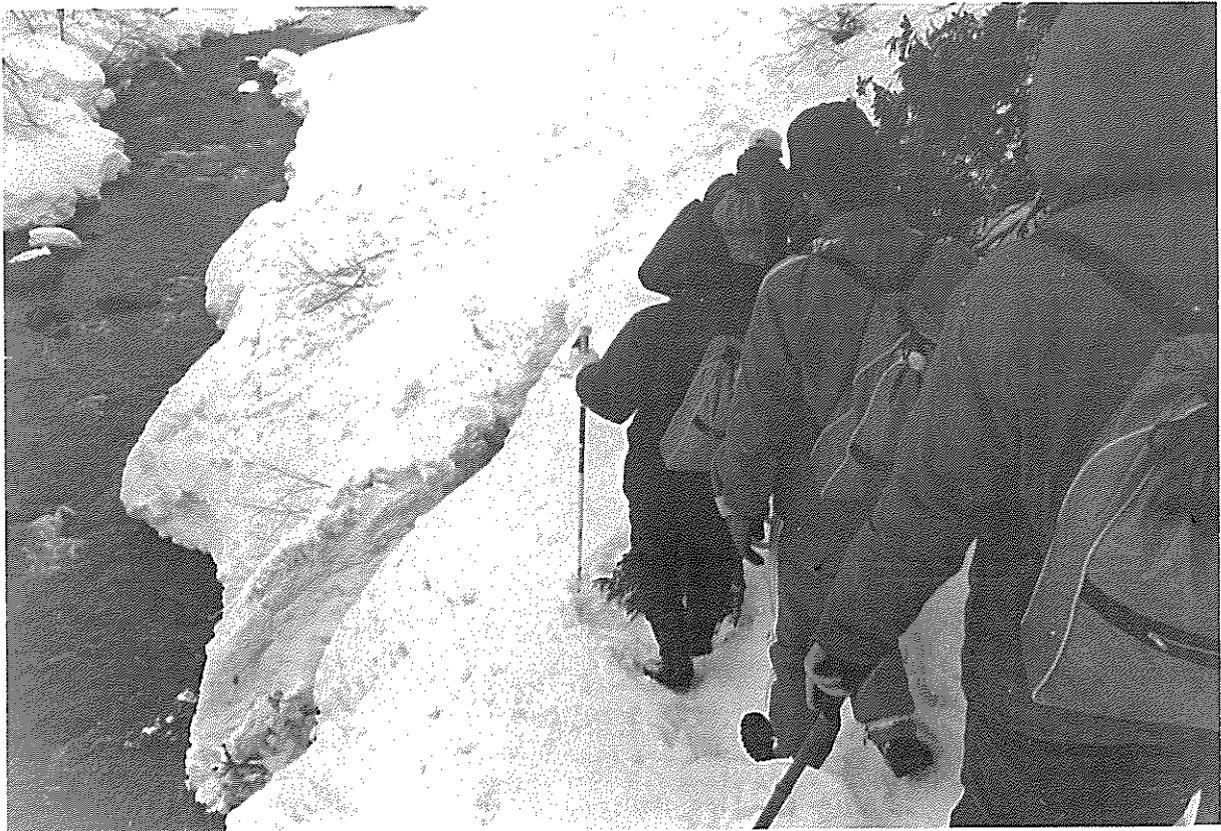
滋賀県知事の現地調査 1月14日 柳ヶ瀬にて



県南部の各地から贈られてきた見舞品（生鮮野菜）の山
（余呉町役場の玄関にて）



豪雪見舞を受ける西山町長（右）



余呉町豪雪調査隊、孤立集落へ向う
(1月31日菅並、田戸間の危険地帯で)



野菜類、除雪器具等を孤立地区へ輸送
(2月4日椿坂峠付近)



孤立集落への生活物資輸送
(2月4日椿坂峠旧道登る輸送隊員)



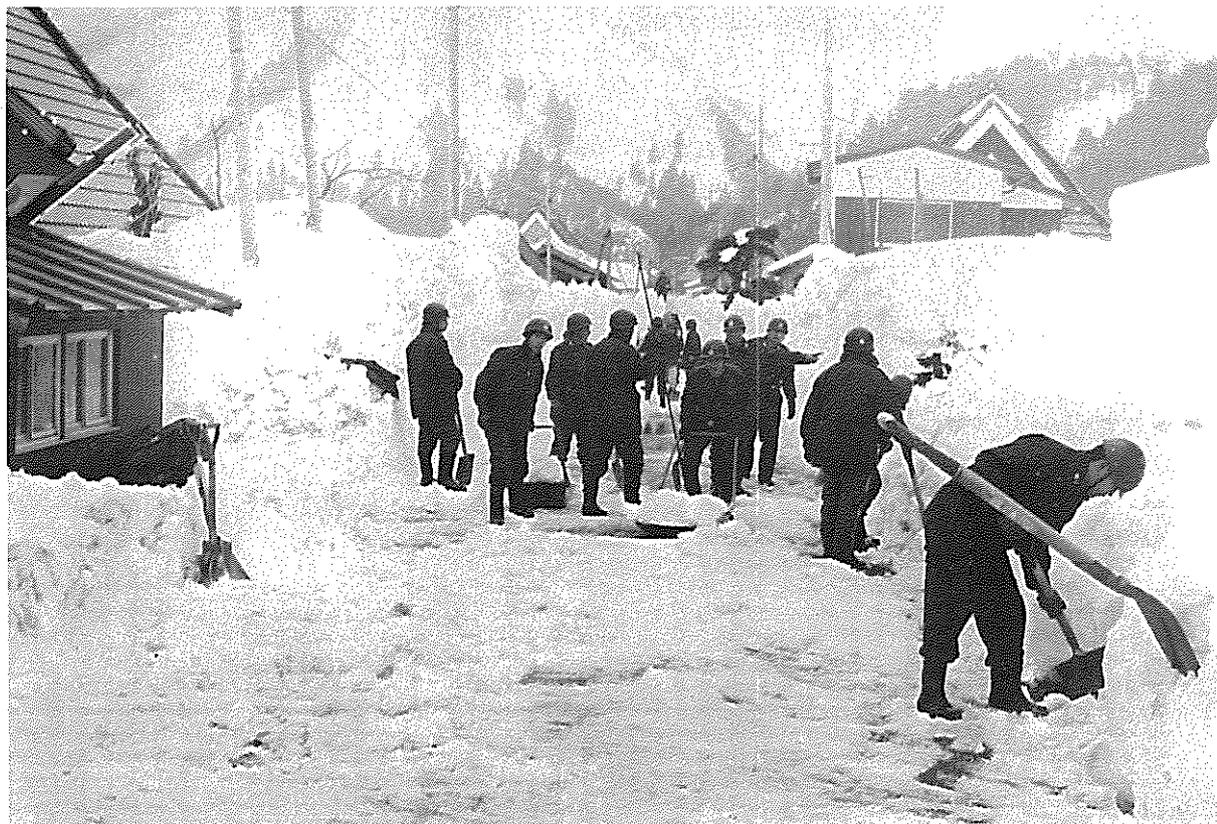
吹雪の中を帰路につく輸送隊員
(2月4日椿坂峠付近にて)



徹夜で除雪したヘリポートから生活物資を空輸
(1月21日伊香消防署のグラウンドから中河内へ)



自衛隊柴田大隊長、西山余呉町長、中河内を視察
(1月26日中河内の臨時ヘリポートにて)



機械除雪のあと、手直し作業中の自衛隊員
(1月27日菅並人家中)



急患をスノーボードで輸送(1月24日)



除雪作業が完了して撤収する自衛隊員に感謝の見送りを
する住民（1月28日菅並にて）



感謝の見送り（1月28日上丹生にて）



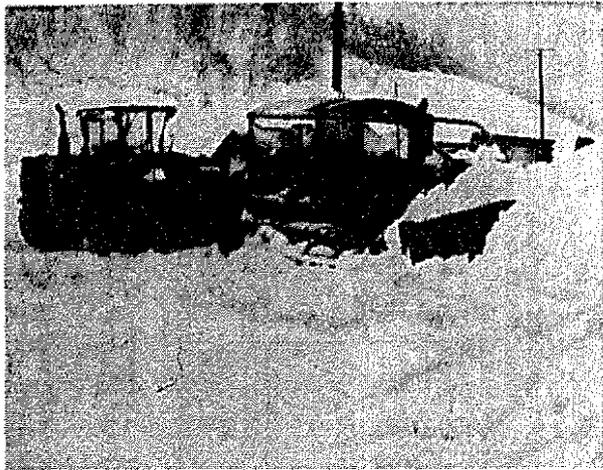
豪雪に耐えぬいた防雪柵工
(町道 丹生柳ヶ瀬線 上丹生地先)



効果のあったナダレ防止柵
(町道丹生柳ヶ瀬線上丹生地先)

孤立解放へ懸命

湖北



孤立した余呉町橋坂へあと1キロ、エンジン全開で進む除雪車



9日(に)の雪に苦しむ郵便運員(余呉町女性)

やつと郵便物届く 住民らへ勇気づけ

「電気も
ともし」
住民らへ勇気づけ

「湖北」の雪害は、湖北の各地に波及し、孤立した地域に深刻な影響を及ぼしている。特に、電力の供給が途絶している地域では、住民の生活が大きな支障を来している。しかし、郵便物の配達に奮闘する郵便運員たちの努力により、孤立した地域にも郵便物が届くよう努力している。住民らへ勇気づけ、孤立した地域への支援が求められている。

生々しい現場写真など 県、豪雪コーナーを特設



県庁玄関に掛けられた豪雪コーナー

湖北の豪雪被害は、県民の生活に大きな影響を及ぼしている。県庁では、豪雪の被害状況を写真や動画で紹介する「豪雪コーナー」を特設し、県民に最新の情報を提供している。また、孤立した地域への支援活動も積極的に行っている。

除雪応援隊を派遣 県、湖北の4町に55人

湖北の4町に55人

湖北の豪雪被害は、県民の生活に大きな影響を及ぼしている。県では、豪雪の被害状況を写真や動画で紹介する「豪雪コーナー」を特設し、県民に最新の情報を提供している。また、孤立した地域への支援活動も積極的に行っている。

- 湖北の豪雪被害は、県民の生活に大きな影響を及ぼしている。県では、豪雪の被害状況を写真や動画で紹介する「豪雪コーナー」を特設し、県民に最新の情報を提供している。
- また、孤立した地域への支援活動も積極的に行っている。

白魔のツメ跡キズ深く...

県北方面を、昨年末から約一カ月間続いた大雪で、深刻な被害をきたした。雪の重圧に耐えかねてつぶれた学校体育館も数、一市倉庫、原野の雪受りとして難になつた人、孤立地区で雪帯で凍れ倒れた主婦、ノ野の路上がりなど、凶悪に凍った身体は僅かな生活を離し、大急ぎで救助に入れた。しかも、自衛隊の除雪作業で二十七日には、山間部の生活道路も次々と確保され、雪帯の被害が再び孤立地区を襲つて生活の足がかりが平復する。住民の生活を無差別に打ちめした今回の大雪は、雪に倒れた住民を打ちめした雪帯を打ち止むと同時に、近代化の中で忘れられていた人々の生活の足がかりを回復させるための雪帯の中の苦闘と、その生々しい「ツメ跡」をさらけだした。

【55年】12・27 湖北山間部は歳末寒波の襲来で、150-180%の積雪。寒風の北し。余呉町で孤立地区も出る。
12・30 雪降り続く。国道8号、北陸自動車道など主要道路の通行不能相次ぐ。生活の足はズタズタに。北陸への帰省客も混乱。
【56年】1・6 モーレツな新春寒波。余呉町管内で一夜に100%積雪。長浜市街地も40%の積雪。木之本町で軟骨車庫が倒壊。雪害が出始める。
1・7 余呉町中河内で34.2%に達し、「88寒波」に次ぐ大雪。交通網の混乱続き、降りやまぬ雪で生活に

支障も。余呉湖の水面が全面凍結、52年以來のこと。
1・8 山間部周辺では始業式を中止、臨時休業も続出。平野部の雪は小康状態で、交通網は回復へ。
1・11 寒波再来。余呉町に初の雪帯対策本部設置。木之本町で民家1戸が雪の重みで倒壊。寒波の不安高まる。
1・12 湖西・マキノ町で町史上初の「雪帯対策本部」を設置、町内で積雪200%を突破。マキノ町校体育館のヒサシが折れ、民家八棟が一帯損壊。町道など生活道路はマヒ状態に。消防、保育園、役場など公共施設物の雪おろしを本格的に開始。



一カ月間の豪雪ドキュメント

豪雪に埋まる余呉町の山間集落

1・13 中河内では45.5%を記録し「88寒波」の40.5%を上回る。県と湖北各市町は一斉に対策本部設置。各地で休校が相次ぐ。夜に入って除雪は厳しさを増す。湖西・今津町も「雪帯対策本部」を開設。市街で積雪100%に。国道181、303号の幹線はマヒ状態に。マキノ町に原に通じる奥道（白谷一野口線）で雪かき発生、不通となった。
1・14 ついに中河内で50.0%を突破。孤立地区はさらにふえ湖北で六地区。長浜市街地も湖北の豪雪地帯を視察。国鉄北陸線米町一帯暫間が全面凍結。路線バスも米原-長浜間

1・19 山間部は断続的に雪。孤立地区の解消へ除雪も急ピッチ。余呉町の孤立地区では停電。
1・20 平野部も雪に戻る。積雪125-150%。
雪政務次官が余呉町など視察。木之本町高時校の児童11人が通学不能となり、同校で寄宿生活はじめる。七地区で孤立解消。
マキノ町雪帯対策本部は「非常事態」を宣言。町役員職員80人を動員、生命綱を頼りにマキノ町校のガマボコ型体育館の雪おろしを決行。積雪125-150%。

交通マヒ、孤立相次ぐ

1・13 中河内では45.5%を記録し「88寒波」の40.5%を上回る。県と湖北各市町は一斉に対策本部設置。各地で休校が相次ぐ。夜に入って除雪は厳しさを増す。湖西・今津町も「雪帯対策本部」を開設。市街で積雪100%に。国道181、303号の幹線はマヒ状態に。マキノ町に原に通じる奥道（白谷一野口線）で雪かき発生、不通となった。
1・14 ついに中河内で50.0%を突破。孤立地区はさらにふえ湖北で六地区。長浜市街地も湖北の豪雪地帯を視察。国鉄北陸線米町一帯暫間が全面凍結。路線バスも米原-長浜間

以外に全面ストップ、生活の足は完全マヒ。
湖西北部の道路交通網は各所寸断。181号はついにマキノ町河津以北で通行止め（北陸に向かう車両）。河津付近では閉道を待つ車列が夜まで2.5kmの列をつくった。国鉄湖西線は始発から今津以北が全面ストップ。通勤通学者約400人の足に影響。幹線を走る特急、急行も全面凍結。
マキノ町では家庭ゴミの回収が全面ストップ。今津町でも約450世帯で回収不能になった。

政府の「調査団」が湖北を視察

1・21 政府の豪雪調査団(団長、副団長、国土庁長官)初の湖北入り、視察地を視察。県(雪帯対策本部)が除雪へ自衛隊の出動要請。中河内へ生活物資をピストン空輸。
びわこ国体会場(鏡湖)の今津町勤労者体育センター(1階2階建て約1800平方メートル)が大倉庫をたて閉鎖。屋根の積雪は約100%。倒壊直前まで高島消防団員20数人が同センターで屋内避難していたが危うく難をまぬがれた。
1・22 平野部の雪は中休み。自衛隊の大隊雪部隊が木之本、余呉町町に入る。マキノ町に積雪350%となり、同地方の最高(これまで最高は51年1月17日の270%)。町民への被害。民家は屋根まで雪に埋もれ、お宮の鳥居のデッキで住民がつかずく状態に。平野部でも

160%。88寒波(同年2月1日、10.3%)をはるかにしのぐ記録破りの大雪となる。
1・23 中河内の積雪は85.5%に達し、観測史上最高の豪雪を記録。
1・24 山間部も雨。中河内で除雪に倒れて主婦倒れる。自衛隊スキー隊と医師が現地入り、深夜の救出に成功。
1・25 自衛隊の除雪作業が進み、山間部の生活道路を確保。住民の生活リズム戻る。
1・26 県教委が豪雪地帯の除雪へ救護員応援部隊を派遣。各地から救援物資も相次ぐ。
1・27 森永大谷派長兵衛院・大通寺の屋根の一部が、雪の重みで落下。自衛隊の除雪隊一部が引き揚げる。余呉町中河内、麓見、田戸、小原、管直地区は依然、孤立したまま。

除雪中に初の死者

1・15 余呉町の孤立地区から人が人急激を白濁へりて救出。浅井町で浅井東校のガマボコ型体育館が雪の重圧で倒壊。除雪中に初の死者も。雪害は広がる一方。成人式を中止の町も。
1・16 湖北の孤立地区は14地区(134戸、443人)に。びわこ国体の柔道会場で木之本町の伊香郡民体育

館が、雪の重みで「SOS」。湖北1市2町が国、県へ災害救助法指定を申請。
1・17 余呉町麓見地区へ待望の救急物資届く。木之本町ではへりて重体老人を救出。湖北町連立の体育館全壊。高月町では工場倉庫2ムネの屋根が落下、7人が軽傷。
1・18 山間部も久しぶりに

百日目にやっとピリオド

余呉町・豪雪対策本部

温かい救援に感謝

西山町長 町民の忍耐力たたえる



伊豫郡余呉町は、十日午前十一時、豪雪対策本部の解散式を行い、さき一月から後援庁舎内会議場で、町長室婦十一日に解散し同本部のピリオド

下を行った。

式には西山町長、中岡町町長ら関係者約七十人が出席、西山町長が大変に耐える町職員の活躍と町民の忍耐力をたたえ、自衛隊など町外の温かい救援に感謝を述べた。同日発表された雪害の記録は次のとおり。

▽最大積雪量 中河内地区で一月二十二日に六五五センチ。同町これまで最高だった昭和十一年三月一日の同地区での五六五センチを大きく超え、圏内のベスト10に入る記録となった▽孤立 六集落(面積六八戸、五百七十九人)▽人的被害 死者一人、重傷二人、軽傷三人▽住家被害 全壊五棟、半壊五棟、一部損壊二百七十八棟▽非

住家被害 半壊百九十五棟▽公共建物被害 一部損壊三千四種▽被害総額 八億四千四百四十二万円▽除雪費 一億二千八百八十六万二千円

余呉町豪雪対策本部の解散式で、本部員の活躍をたたえ町外の救援に感謝を述べた西山町長(町長) 余呉町議場で

今津町の体育センター倒壊

この程度の雪では

町関係者から不信の声

松本 邦人

設計、施工に問題？

専門家まじえ 原因究明始める

今津町の体育センターが、1月17日の大雪で倒壊した。町関係者からは、この程度の雪では倒壊しないはずと不信の声が聞かれる。設計や施工に問題があるのか、原因究明が始まる。

倒壊した体育センターの内部。天井の鉄骨が崩壊し、床が陥没している。周囲には雪が積もっている。

56書を追う

重圧



倒壊した今津町の体育センターの内部。天井の鉄骨が崩壊し、床が陥没している。周囲には雪が積もっている。

町関係者からは、この程度の雪では倒壊しないはずと不信の声が聞かれる。設計や施工に問題があるのか、原因究明が始まる。

困難なカマボコ屋根の除雪 相次ぐ体育館の被害

大雪による被害が続く中、カマボコ屋根の体育館は特に被害が深刻。除雪作業が困難なため、屋根が崩壊するケースも発生している。

町関係者からは、この程度の雪では倒壊しないはずと不信の声が聞かれる。設計や施工に問題があるのか、原因究明が始まる。

原則は建

倒壊した今津町の体育センターの内部。天井の鉄骨が崩壊し、床が陥没している。周囲には雪が積もっている。

56豪雪を追う

—8—
56.1.24 京都

湖北の豪雪地帯に活動してゐる自衛隊の除雪作戦は、二十三日も孤立地区へ向け、力強いラッセヤが練へ。七時に迫る深い雪に埋まつたままの余呉町中河内には、十九人の隊員が踏みつけたばかりの道だが、やむを得ず一本の道道もあつた。しかし、依然、孤立の住民たちが待機を断つながら、彼に耐え、誰か助けの音を待つてゐる。

孤立



吹雪の中、救援物資を運ぶ人々(余呉町中河内で)

と関係が深くなり、その結果、救援物資も不足し、状況はますます悪化してゐる。...

余呉町小原地区。町役場から北へ十一・五キロ、福井・岐阜両県との境界に近す。山に囲まれたこの集落は、冬、雪の降る外の世界を完全にミヤ、断絶されてゐる。...

孤独と雪崩の恐怖

連絡方法は
電話だけ

「昨日の十日十九日、他は、この地帯を通りぬく(国道)が通れず、不可能になった。それ以来、地帯の人たちは出立を断つた。...

「昨日の十日十九日、他は、この地帯を通りぬく(国道)が通れず、不可能になった。それ以来、地帯の人たちは出立を断つた。...

「昨日の十日十九日、他は、この地帯を通りぬく(国道)が通れず、不可能になった。それ以来、地帯の人たちは出立を断つた。...

編 集 後 記

雪国に生まれ、雪国に育った我々町職員も、今回の豪雪ほど身にしみて雪に対する苦労を感じたことはなかった。1月のひと月は、大部分の職員が事務を執ることができず、連日雪との闘いを展開していた。その主な作業は、道路除雪、公共施設の屋根の雪降し、被害状況の調査並びに報告、報道関係者との対応、生活保護家庭の救援対策、自衛隊との連絡調整、急患対策、休校休園措置等、全職員挙げて豪雪対策にあたった。その記録を町総務課において整理し保存していたが、過去の記録を更新した豪雪と、その対応状況の記録ならびに記録写真を、今後の豪雪対策の参考に資するため、何とか印刷物として残したいと願っていた。

幸いにして今回、近畿地方建設局高時川ダム調査事務所の温かい御支援をうけて、本誌56豪雪の記録「白魔との闘い」を出版することができました。

編集にあたって、被害写真、その他貴重な資料を提供頂いた関係各位と、その収集・整理に携わって頂いた関係職員の方々に対し、ここに深く感謝申し上げる次第であります。

余呉町総合開発室

余呉町はもとより県下各地、そして北陸方面にかけて
猛威を振った56年豪雪は私たちの生活を狂わせ、多大の
被害をもたらしました。自然の力の強さ、こわさをこの
身をもって知り得ました。

音もなく降り積もる雪に昼夜構わず屋根に上って雪と
闘ったあの日、そして交通がしゃ断されて吹雪の中を歩
いた日々。私たちはこの56年豪雪を自然界の教訓として
受けとめ、雪に対する認識を新たにしなければなりません。

56 豪雪の記録

白魔との闘い

昭和57年3月

編集 余 呉 町
発行 建設省高時川ダム調査事務所